

埼玉県立大学 研究・地域活動シーズ

2022-2023

保健医療福祉学部

- 共通教育科
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 社会福祉子ども学科
- 健康開発学科

大学院

- 保健医療福祉学研究科

●目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
1	目次			
6	大学案内 ●基本理念 ●学部/大学院教育組織 ●地域産学連携センター			
7	●産官学連携の3つの仕組み			
8	●2020-2021年度実績 共同研究・受託研究・特定講座			
10	●2020-2021年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）			
14	●施設紹介 運動学実習室			
15	●施設紹介 ヒューマンケア実習室			
16	日本人英語学習者の特徴の研究	共通教育科	教授	飯島 博之
17	学校保健と学校福祉の連携・協働	共通教育科	教授	上原 美子
18	プライマリ・ケア診療における症状分析	共通教育科	教授	竹島 太郎
19	人はなぜハマるのか～依存 & 嗜癖への行動変容について	共通教育科	教授	田中 健一
20	あなたの知らない“お薬”の世界～適正使用を目指して	共通教育科	教授	田中 健一
21	医学講話（特に臨床神経学、老年医学）	共通教育科	教授	滑川 道人
22	ウェルビーイングを高める学習環境の構築	共通教育科	教授	森村 繁晴
23	巡りが生み出す地域と文化	共通教育科	准教授	浅川 泰宏
24	英語の運用能力を高めるための文法教育と音声システムの習得	共通教育科	准教授	荒木 和美
25	小惑星から太陽系形成の歴史を探る	共通教育科	准教授	小松 睦美
26	環境化学物質による環境リスクの検討	共通教育科	准教授	四ノ宮 美保
27	ラッセルの一元論の研究	共通教育科	准教授	高村 夏輝
28	人体の構造を実感とともに学ぶ教材の研究	共通教育科	准教授	高柳 雅朗
29	言語比較に基づく文法研究	共通教育科	准教授	武久 智一
30	特別支援教育を支える学校・保育コンサルテーション	共通教育科	准教授	森 正樹
31	スポーツ活動時の負荷管理を通じたトレーニングとコンディショニングの実践	共通教育科	准教授	八十島 崇
32	PHRを用いたロコモ・フレイル予防～PHR(Personal Health Record)：日常生活の運動から予防する	共通教育科	准教授	山田 恵子
33	対人（援助）職が困難を乗り越えるための支援	看護学科	教授	秋山 美紀
34	ポジティブ感情の身体的精神的健康への効果	看護学科	教授	秋山 美紀
35	壁から飛び出したトイレ手すりの開発	看護学科	教授	國澤 尚子
36	看護管理、継続教育への看護実践リフレクション活用	看護学科	教授	鈴木 康美
37	看護師の教育力向上に向けた教育研修	看護学科	教授	鈴木 玲子
38	看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究	看護学科	教授	善生 まり子
39	こどもセルフケア看護理論の臨床への応用	看護学科	教授	添田 啓子

●目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
40	市民と保健医療者が共に考えるPeople-Centered Careの教材開発	看護学科	教授	高橋 恵子
41	病いとともに生きるための意思決定支援	看護学科	教授	常盤 文枝
42	地域で活躍する看護職の研究とケアラー支援の研修	看護学科	教授	林 裕栄
43	健康と生活習慣・予防・臨床判断力	看護学科	准教授	會田 みゆき
44	周産期・小児医療における子ども・家族中心のケアの実践および協働意思決定に関する研究	看護学科	准教授	浅井 宏美
45	セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルス	看護学科	准教授	江口 のぞみ
46	婦人科がん体験者のための支援モデルの開発	看護学科	准教授	大場 良子
47	セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツと健康支援	看護学科	准教授	齋藤 恵子
48	小児期発症の慢性疾患患者への成人移行支援	看護学科	准教授	櫻井 育穂
49	ハンドマッサージの活用	看護学科	准教授	渋谷 えり子
50	新たな看護技術教育方法の検討	看護学科	准教授	新村 洋未
51	訪問看護ステーション新採用者育成のための支援	看護学科	准教授	武田 美津代
52	看護師の支援に関する研究・モノづくり	看護学科	准教授	田中 広美
53	高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らせない外来看護支援モデルの開発	看護学科	准教授	辻 玲子
54	保健師の育成と健康行動について	看護学科	准教授	服部 真理子
55	妊婦や母親への運動プログラム・妊婦のセルフケアとしての逆子治療・模擬産婦を用いたシミュレーション教育	看護学科	准教授	東原 亜希子
56	看取りケア 死を看取る看護師の態度育成	看護学科	准教授	平野 裕子
57	要介護高齢者の入院治療時および治療後の回復支援	看護学科	准教授	丸山 優
58	精神科訪問看護による虐待予防 精神障害者と家族の生活を支援します	看護学科	准教授	森田 牧子
59	慢性の病いとともに生活する人のセルフケア支援	看護学科	准教授	山岸 直子
60	身体活動・シミュレーション教育	看護学科	准教授	山本 英子
61	ナルコレプシー患者の支援	看護学科	助教	金 さやか
62	妊産婦の座位行動、シミュレーション教育	看護学科	助教	柴田 由里子
63	発達障がい児と親の支援・発達障がい児の看護	看護学科	助教	瀧田 浩平
64	外国人住民支援・シミュレーション教育	看護学科	助教	千葉 真希子
65	小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のためのケアモデルの開発	看護学科	助教	辻本 健
66	慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力獲得支援	看護学科	助教	望月 浩江
67	喪失と「こころ」のケアの研究 自己回復とスピリチュアリティ	看護学科	助教	山田 牧子
68	専門職連携教育（IPE）の評価研究	看護学科	助教	吉村 基直
69	呼吸・循環・代謝系疾患モデルを用いた介入効果に関連する研究開発	理学療法学科	教授	今北 英高
70	Fascia（ファシア）に関連する研究開発	理学療法学科	教授	今北 英高

●目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
71	理学療法を対象とした疾患に対する運動の効果検証	理学療法学科	教授	金村 尚彦
72	健康づくり・地域づくりシステムの開発	理学療法学科	教授	田口 孝行
73	フレイル予防・地域ハビリ・多職種連携	理学療法学科	教授	田口 孝行
74	運動身体の微調整を読み取る	理学療法学科	教授	山崎 弘嗣
75	効果的な健康増進を考える－健康寿命延伸に対する提案	理学療法学科	准教授	井上 和久
76	膝の痛みを予防するには～軟骨がすり減っても元氣な膝を保つために～	理学療法学科	准教授	小栢 進也
77	呼吸循環系・姿勢動作に関する評価・治療・支援機器開発	理学療法学科	准教授	木戸 聡史
78	健康づくりのための行動変容	理学療法学科	准教授	久保田 章仁
79	女性のライフステージにおける健康支援	理学療法学科	准教授	須永 康代
80	アライメント評価による足底挿板療法 義肢装具療法のエビデンスと未来	理学療法学科	助教	清水 新悟
81	足部アーチ機能を備えた足底挿板の開発 義肢装具療法のエビデンスと未来	理学療法学科	助教	清水 新悟
82	地域での自立支援ケアに関する研究	作業療法学科	教授	臼倉 京子
83	発達障害児の理解と指導	作業療法学科	教授	川俣 実
84	高齢者の睡眠と昼間の活動との関係性	作業療法学科	教授	久保田 富夫
85	「生活の質」からケアや支援を捉える社会的ケア関連QOL尺度の活用	作業療法学科	教授	中村 裕美
86	手指運動機能リハビリテーション評価システムの開発	作業療法学科	教授	濱口 豊太
87	脳電位でパワーアシストするロボットリハビリテーション	作業療法学科	教授	濱口 豊太
88	手指の痛みや運動障害を予防するパワーアシストハサミ	作業療法学科	教授	濱口 豊太
89	自分らしく社会で活躍できるように	作業療法学科	准教授	石岡 俊之
90	高次脳機能障害者の社会参加支援に向けて	作業療法学科	准教授	石岡 俊之
91	当事者との共同創造による精神科作業療法授業の開発	作業療法学科	准教授	上原 栄一郎
92	作業療法士による保育所・小学校への訪問研修	作業療法学科	准教授	押野 修司
93	上肢切断・義手に関連した研究	作業療法学科	准教授	笹尾 久美子
94	社会生活スキルトレーニング (SST)	作業療法学科	准教授	柴田 貴美子
95	人が新たな運動を学習することについて 運動学習、書字、手の動き	作業療法学科	准教授	鈴木 貴子
96	コミュニケーション支援用具・機器の提案・開発	作業療法学科	准教授	南雲 浩隆
97	障害のある学生支援・車いす・作業療法・多職種連携教育	作業療法学科	准教授	松尾 彰久
98	身体障害者の病態運動を再現するシミュレーション教育用ロボットを用いたリハビリテーション臨床技能教育プログラムの開発	作業療法学科	助教	小池 祐士
99	障害者の自立を促進する衣服の開発	作業療法学科	助教	小池 祐士
100	3Dプリンタを使った日常生活の支援	作業療法学科	助教	小池 祐士
101	がん患者の前向きな生活適応へ心理支援と運動介入方略の開発	作業療法学科	助教	小泉 浩平

●目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
102	職業リハビリテーション・就労支援	社会福祉学専攻	教授	朝日 雅也
103	家庭訪問型子育て支援の充実と発展について～ホームスタートというボランティアの実践を通して考える～	社会福祉学専攻	教授	市村 彰英
104	社会政策・社会保障	社会福祉学専攻	教授	伊藤 善典
105	障害当事者参加による地域社会づくり	社会福祉学専攻	教授	河村 ちひろ
106	スマホを活用した地域のつながりと支援システムの検討	社会福祉学専攻	准教授	小川 孔美
107	多職種連携におけるファシリテーション実践	社会福祉学専攻	准教授	小川 孔美
108	社会福祉とアジール～犯罪・非行・依存に関するフィードバックからの社会学的考察～	社会福祉学専攻	准教授	相良 翔
109	多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIPIによる好循環～IPWに有用なICT搭載と職能団体等への支援～	社会福祉学専攻	准教授	高末 恵子
110	自治体の地域共生社会向けシステムにF-SOAIPI搭載～ミクロ・メソ・マクロレベルのデータ活用によるDXの提案～	社会福祉学専攻	准教授	高末 恵子
111	障がいのある方の地域生活支援	社会福祉学専攻	准教授	高島 恭子
112	生きる力・共生社会教育・メンタルヘルス	社会福祉学専攻	准教授	佃 志津子
113	ボランティア・社会参加に関する研究	社会福祉学専攻	准教授	保科 寧子
114	障害者の就労支援に	社会福祉学専攻	助教	富田 文子
115	子どもと保護者の心理・保育リーダーシップ	福祉子ども学専攻	教授	越智 幸一
116	障害のある子どもたちの発達支援	福祉子ども学専攻	教授	林 恵津子
117	音楽でつながる新たな自分、人との関わり方の提案	福祉子ども学専攻	准教授	伊藤 知子
118	近代日本・学びのモノづくし 教育掛図・博物図・標本画の図像研究	福祉子ども学専攻	准教授	牧野 由理
119	遊びと保育者養成	福祉子ども学専攻	准教授	森田 満理子
120	地域と協働する保育実践・保育者養成	福祉子ども学専攻	助教	田口 賢太郎
121	がん登録からがん対策への期待	健康行動科学専攻	教授	大木 いずみ
122	社会的成果につながる健康づくりへー研究をどのように実社会に還元するかー	健康行動科学専攻	教授	北畠 義典
123	社会的成果につながる健康づくりへー身体活動を用いた不眠改善プログラムの開発ー	健康行動科学専攻	教授	北畠 義典
124	学校における健康・安全の推進	健康行動科学専攻	教授	高橋 宏至
125	保健医療福祉に関する調査研究	健康行動科学専攻	教授	延原 弘章
126	Eビデンスに基づいた食育の推進	健康行動科学専攻	准教授	内山 真理
127	日本人の他界観・犯罪被害遺族と司法	健康行動科学専攻	准教授	白岩 祐子
128	健康経営の推進～健康課題の見える化と健康文化の醸成～	健康行動科学専攻	准教授	津野 陽子
129	ビジュアルを活用した医療情報伝達	健康行動科学専攻	准教授	原木 万紀子
130	不明確な診断をめぐる諸問題の解明	健康行動科学専攻	准教授	本間 三恵子
131	生体内の微量成分の分析法の研究開発	検査技術科学専攻	教授	廣渡 祐史
132	臨床酵素の酵素化学的研究	検査技術科学専攻	教授	松下 誠

●目次

ページ	内容/研究テーマ	学科/専攻	役職	研究者
133	市中の黄色ブドウ球菌（MRSA）実態調査	検査技術科学専攻	教授	村井 美代
134	睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証	検査技術科学専攻	准教授	有竹 清夏
135	心血管系の組織発生と標本の作製法	検査技術科学専攻	准教授	安藤 克己
136	白血病幹細胞/前駆細胞のシグナルに関する研究	検査技術科学専攻	准教授	井原 寛子
137	大腸がん検診の向上、AI（Deep learning）による画像分類システム開発、腎疾患スクリーニング検査	検査技術科学専攻	准教授	岡田 茂治
138	埼玉県内の臨床および下水から分離したESBL産生大腸菌の解析	検査技術科学専攻	准教授	岸井 こずゑ
139	セルロースアセテート膜電気泳動法と高感度銀染色液を用いた腎障害部位分類法	検査技術科学専攻	准教授	久保田 亮
140	疾病予防に繋がる新たな免疫機能増進法の開発	検査技術科学専攻	准教授	白土 佳子
141	電子顕微鏡を用いた細胞診検査法の開発	検査技術科学専攻	准教授	矢野 哲也
142	豊かな味覚づくりのために	口腔保健科学専攻	教授	植野 正之
143	大学課程における歯科衛生士養成教育	口腔保健科学専攻	教授	吉田 隆
144	歯科衛生教育に特化したタブレット端末アプリケーションの開発と教育効果	口腔保健科学専攻	准教授	新井 恵
145	地域在住の高齢者の健康づくり	口腔保健科学専攻	准教授	佐藤 玲子
146	口腔領域における組織細胞形態解析	口腔保健科学専攻	准教授	柳澤 伸彰
147	ナノ多孔質シリカを応用した薬剤徐放	口腔保健科学専攻	助教	江良 裕子
148	超高齢社会に対応する積極的な口腔保健行動啓発戦略	口腔保健科学専攻	助教	久保田 チエコ
149	歯科衛生士と専門職連携実践の質に関する新たな評価スケールの開発	口腔保健科学専攻	助教	戸田 花奈子
150	①がん患者へのケア ②ウィメンズヘルスケア	大学院研究科	教授	飯岡 由紀子
151	①多職種連携を促進するコーディネート力 ②看護師のためのリフレクション	大学院研究科	教授	飯岡 由紀子
152	研究相談、研究支援活動	大学院研究科	教授	飯岡 由紀子
153	多主体が集う「プラットフォーム」を活用した地域課題の解決手法の開発	大学院研究科	教授	川越 雅弘
155	ヘルスケア分野の施策化・システム構築・質向上	大学院研究科	教授	田上 豊
156	変形性膝関節症者の運動解析研究	研究開発センター	特任助教	久保田 圭祐
157	リハビリテーション支援ロボットの開発	研究開発センター	特任助教	久保田 圭祐
158	非婚・独居高齢者に関する包括的研究	研究開発センター	特任助教	南 拓磨
159	多職種連携（IPE/IPW）・大学間連携教育 彩の国“連携力”育成プロジェクト（SAIPE）	田口孝行 國澤尚子 鳥末慶子 久保田亮		
160	研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援	川越雅弘 南拓磨 河合麻美		
163	キーワード索引			
167	研究者索引			

● 大学案内

■ 基本理念

本学は、**陶冶、進取、創発**を基本理念として、**保健医療福祉に関する教育・研究の中核**なって**地域社会に貢献**します

陶冶 誠実で温かい心と主体性を持ち、多様な価値観を尊重する人間性を磨き高める

進取 広く先達に学びつつ、未来を志向する教育・研究に取り組む

創発 多様な連携を通して、予測を遥かに超える新たな価値を創造する

■ 学部/大学院教育組織

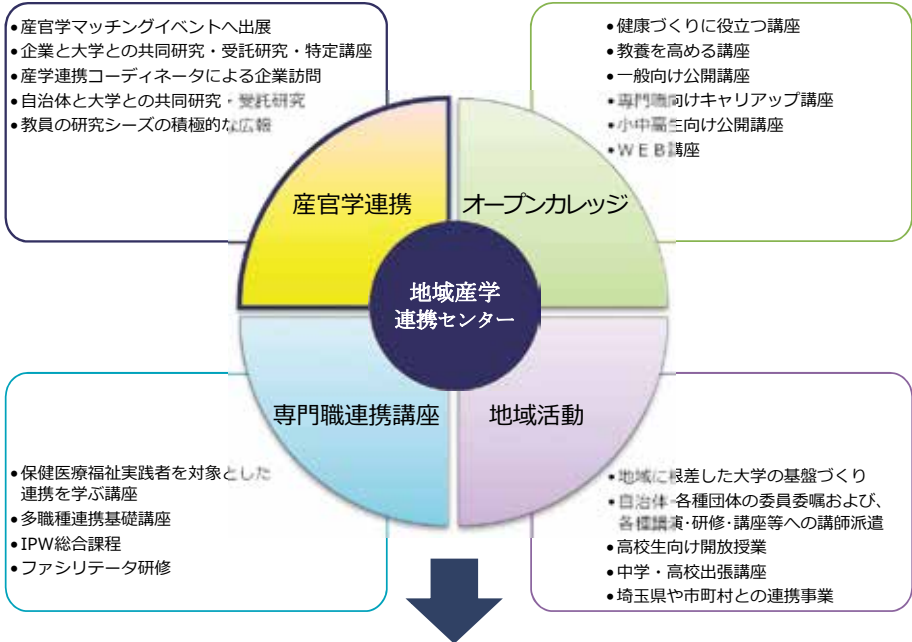
【保健医療福祉学部】

- 共通教育科
- 社会福祉子ども学科
・社会福祉学専攻
・福祉子ども学専攻
- 健康開発学科
・健康行動科学専攻
・検査技術科学専攻
・口腔保健科学専攻
- 看護学科
- 理学療法学科
- 作業療法学科

【大学院】

- 保健医療福祉学研究科
・博士前期課程
・博士後期課程

■ 地域産学連携センター



- ◆ 保健 健康の維持・増進
- ◆ 医療 疾病・障害の予防・改善
- ◆ 福祉 障がい者・高齢者・子ども支援
- ◆ 教育 幼稚園・小中高等学校・特別支援学校での教育的支援
- ◆ 教養 社会教育・生涯学習・地域文化振興

社会への還元・地域への貢献

産官学連携の3つの仕組み

1. 共同研究

「大学と一緒に研究したい」

大学と企業・自治体等の研究者が、共同で研究に取り組みます

2. 受託研究

「大学に研究して欲しい」

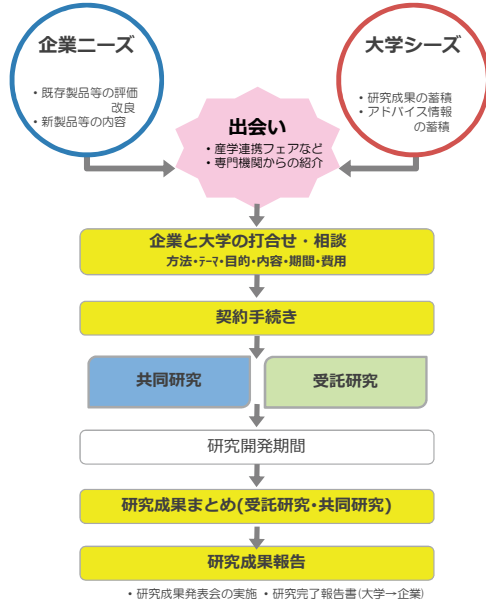
企業・自治体等から依頼された特定のテーマについて、大学の教員が研究し、その成果を報告します

3. 特定講座

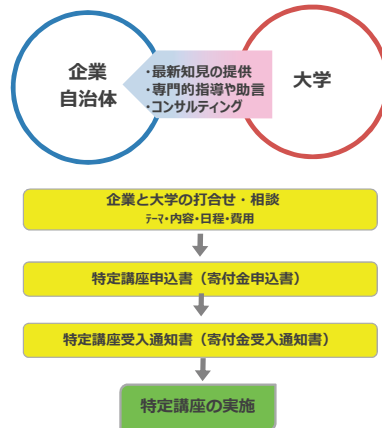
「助言して欲しい」
「研修して欲しい」

- ・企業の商品開発における専門的なアドバイスや社員向け研修などを行います
- ・自治体の職員向け・市民向け研修・講座などを行います

<企業と大学の共同研究・受託研究の流れの例>



<特定講座の流れの例>



■ 2020-2021年度実績 共同研究・受託研究・特定講座

【共同研究】

研究内容	学科/専攻	担当教員	教員ページ
在宅高齢者・障がいの排泄を支援する在宅トイレ補助具の研究	看護学科	國澤 尚子	35,159
脳卒中片麻痺患者における空気圧人工筋による短下肢装具を用いたリハビリテーション効果に関する研究	理学療法学科	小栢 進也	76
科学的データに基づいた医療従事者用被服の開発	理学療法学科	国分 貴徳	-
骨盤ベルトによる姿勢制御戦略への波及効果の妊娠中から産後に至るまでの継続的検証	理学療法学科	須永 康代	79
腰痛患者に対する姿勢矯正補助具の効果	作業療法学科	小池 祐士	98,99,100
障害者のための新たな衣服開発	作業療法学科	小池 祐士	98,99,100
自閉スペクトラム症の子どもと保護者に対するタブレット版ロールプレイテストの共同研究	作業療法学科	柴田 貴美子	94
健康経営の枠組みによる健康課題の見える化に関する研究	健康行動科学専攻	津野 陽子	128
高周波数帯域の音楽が入眠及び目覚めに与える影響	検査技術科学専攻	有竹 清夏	134
乳児の月例による睡眠とMotor milestonesに関する観察研究	検査技術科学専攻	有竹 清夏	134
Deep learningを用いた舌癌ICo-術後頸部リンパ節転移予測システムの開発	検査技術科学専攻	岡田 茂治	137
液体クロマトグラフィーによるリポ蛋白分析に関する共同研究	検査技術科学専攻	廣渡 祐史	131

【受託研究】

研究内容	学科/専攻	担当教員	教員ページ
横アーチを補助するサポーター着用による動作中の足圧変化	理学療法学科	小栢 進也	76
CERPインソールが歩行・走行に及ぼす影響に関する運動学的データの解析	理学療法学科	国分 貴徳	-
フレイル予防事業業務委託契約	理学療法学科	田口 孝行	72,73,159
自動介護記録入力技術開発	社会福祉学専攻	高末 憲子	109,110,159
認知症対応型AI/IoTシステム研究推進事業	社会福祉学専攻	高末 憲子	109,110,159
疾患罹患状況等に関する調査等一式	健康行動科学専攻	大木 いずみ	121
糖尿病性腎症重症化予防対策事業 医療費抑制効果推計業務	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定業務委託	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
高齢者福祉計画2021・第8期介護保険事業計画策定業務	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
第8期介護保険事業計画策定支援	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
介護サービス利用者を含む高齢者等の社会参加・就労的活動の推進体制及びコーディネーター人材に求められる機能等に関する調査研究事業に係る業務支援業務	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
ケアラー及びヤングケアラー実態調査分析業務委託	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
在宅医療・介護連携推進事業再委託	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
糖尿病性腎症重症化予防対策事業 医療費抑制効果推計業務	大学院研究科	川越 雅弘	153,160

■ 2020-2021年度実績 共同研究・受託研究・特定講座

【特定講座】

講座内容	学科/専攻	担当教員	教員ページ
コロナ併当企画「せんげん台・越谷新発見/再発見 ～ガーヤちゃんの町自慢併当ができるまで～」	共通教育学科	浅川 泰宏	23
「健康寿命・意欲（メンタル）と家事の関係」についての論文（先行研究）調査	看護学科	辻本 健 望月 浩江	65 66
軟骨がすり減っても元気な膝を保つために	理学療法学科	小栢 進也	76
多職種協働によるケアマネジメント実践 —高齢者虐待を未然に防ぐために—	社会福祉学専攻	小川 孔美	106,107
地域における居場所について	社会福祉学専攻	小川 孔美	106,107
黒酢の成分について（黒酢に含まれ血圧低下成分の解析方法と結果）	検査技術科学専攻	久保田 亮	139,159
がん治療を受ける患者、家族へのケア	大学院研究科	飯岡 由紀子	150,151,152
医療・介護制度改正の動向とリハビリテーションに期待される役割	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
「4年後、介護サービスはこう変わる！」—専門職間が連携できるケースマネジメントとサービス質の向上 電子情報化によるサービスの質評価の推進—	大学院研究科	川越 雅弘	153,160
新型コロナ感染拡大で大学が学んだこと —連携と支援—	学長	星 文彦	—
ライフデザイン科 3 0 講座・アクティブコース 1 講座	全学科/専攻	—	—
埼玉未来大学前期課程 ライフデザイン科 2 5 講座・アクティブコース 1 講座	全学科/専攻	—	—
埼玉未来大学後期課程 ライフデザイン科 1 8 講座	全学科/専攻	—	—
前期健康長寿プログラム（運動機能・体組成測定結果の評価、公開講座講師）	全学科/専攻	—	—
後期健康長寿プログラム（運動機能・体組成測定結果の評価、公開講座講師）	全学科/専攻	—	—

■ 2020-2021年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分	委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
国 に お け る 地 域 活 動	1 厚生労働省「ひきこもり状態にある方の社会参加に係る事例の調査・研究事業」企画・検証委員会・委員長	朝日 雅也	102
	2 厚生労働省介護報酬改定検証・研究委員会・委員	川越 雅弘	153,160
	3 厚生労働省関東信越厚生局 関東信越厚生局地域包括ケア推進本部・参与	川越 雅弘	153,160
	4 厚生労働省社会保障審議会介護給付費分科会・専門委員	川越 雅弘	153,160
	5 厚生労働省老人保健健康増進等事業 在宅医療・介護連携推進支援事業検討委員会・委員長	川越 雅弘	153,160
	6 国民健康保険中央会審査業務におけるAIの活用に関する検討会	伊藤 善典	104
	7 文部科学省教育映像審査委員主査	高橋 宏至	124
	8 環境管理センター 環境省委託 土壌・底質のグリーン類調査測定手法等検討会・委員	四ノ宮 美保	26
	9 環境省 水・大気環境局 環境測定分析検討会検討員	四ノ宮 美保	26
	10 経済産業省 化学物質審議会・臨時委員	四ノ宮 美保	26
	11 日本環境衛生センター 環境省委託 化学物質環境実態調査 分析法開発検討会議系統別部会委員	四ノ宮 美保	26
	12 独立行政法人国際協力機構（JICA）技術専門員（助産師）	齋藤 恵子	47
	13 認定介護福祉士認証・認定機構 研修認証審査員	津野 陽子	128
	14 日本版AAAs設立準備委員会・委員	原木 万紀子	129
	15 ISO/TC212/WG4国内検討委員会・委員	岸井 こずゑ	138
	16 日本クラシック音楽協会・審査員	伊藤 知子	117
	17 独立行政法人教職員支援機構 特別支援学校教員資格認定試験 肢体不自由教育専門委員会・委員	押野 修司	92
埼 玉 県 に お け る 地 域 活 動	1 埼玉の障害者雇用を進める関係機関連携推進会議・議長	朝日 雅也	102
	2 埼玉県社会福祉審議会・委員長	朝日 雅也	102
	3 埼玉県社会福祉協議会福祉サービス利用援助事業契約締結審査委員会・委員	河村 ちひろ	105
	4 埼玉県社会福祉協議会福祉人材センター運営委員	市村 彰英	103
	5 埼玉県社会福祉総合センター指定管理者選定委員会・委員	伊藤 善典	104
	6 埼玉県社会福祉士会倫理委員会・委員	佃 志津子	112
	7 埼玉県医局機構地域医療教育センター委員会研修企画作業部会員	田口 孝行	72,73,159
	8 埼玉県障害者差別解消支援地域協議会・委員長	朝日 雅也	102
	9 埼玉県発達障害者支援地域支援協議会・会長	朝日 雅也	102
	10 埼玉県児童虐待重大事例検証委員会・委員長	市村 彰英	103
	11 埼玉県ケアセンター事業運営委員会・委員	鈴木 玲子	37
	12 埼玉県看護職員確保委員会・委員	林 裕栄	42
	13 埼玉県訪問看護推進検討委員会・委員	林 裕栄	42
	14 埼玉県看護協会助産師職能委員会・委員	山本 英子	60
	15 埼玉県糖尿病対策推進会議医療費抑制効果推計業務・委員	川越 雅弘	153,160
	16 埼玉県医療的ケア支援センター等あり方検討会議・委員長	河村 ちひろ	105
	17 埼玉県化学物質対策専門委員会・委員	四ノ宮 美保	26
	18 埼玉県感染症発生動向調査検討委員会・委員	滑川 道人	21
	19 埼玉県環境審議会・委員	四ノ宮 美保	26
	20 埼玉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会・委員	服部 真理子	54
	21 埼玉県国民健康保険運営協議会・会長	伊藤 善典	104
	22 埼玉県学校安全教育アドバイザー（埼玉県教育委員会）	高橋 宏至	124
	23 埼玉県障害児就学支援委員会・委員	森 正樹	30
	24 ホームスタート埼玉推進協議会顧問	市村 彰英	103

■ 2020-2021年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分	委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ	
埼玉県における地域活動	25 埼玉県教科用図書選定審査委員（埼玉県教育委員会）	高橋 宏至	124	
	26 特別支援教育巡回支援員（埼玉県教育局 県立学校部特別支援教育課）	富田 文子	114	
	27 埼玉県立春日部女子高等学校・学校評議員	山本 英子	60	
	28 埼玉県立越谷西特別支援学校・学校評議員	森 正樹	30	
	29 埼玉県立春日部特別支援学校・学校評議員	森 正樹	30	
	30 埼玉県立杉戸高等学校・学校評議員	上原 美子	17	
	31 埼玉県立越谷南高等学校・学校評議員	飯島 博之	16	
	32 埼玉県立越谷特別支援学校・学校評議員	添田 啓子	39	
	33 埼玉県立常盤高等学校・学校評議員	上原 美子	17	
	34 埼玉県学校におけるワグワグラー支援事業検討会議メンバー	上原 美子	17	
	35 埼玉県ワグラー支援に関する有識者会議・委員	林 裕栄	42	
	36 埼玉県2020年10月17日「ワグラー・ワールドカップ」2019埼玉県推進委員会開催後部会	八十島 崇	31	
	越谷市における地域活動	1 越谷市地域包括ケア推進協議会・会長	田口 孝行	72,73,159
		2 越谷市医師会事務局医療と介護連携の会世話人委員	小川 孔美	106,107
		3 越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会・委員	中村 裕美	85
		4 越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会・合議体・副委員長	久保田 章仁	78
		5 越谷市介護保険運営協議会・会長	田口 孝行	72,73,159
		6 越谷市介護保険運営協議会・副会長	久保田 章仁	78
		7 越谷市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会・副委員長	朝日 雅也	102
		8 越谷市社会福祉審議会・会長	朝日 雅也	102
		9 越谷市社会福祉審議会・委員	高島 恭子	111
		10 越谷市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会・分科会長	朝日 雅也	102
		11 越谷市総合支援計画専門委員会・委員	朝日 雅也	102
		12 越谷市総合振興計画審議会・委員	國澤 尚子	35,159
		13 越谷市男女共同参画推進委員会・会長	山本 英子	60
		14 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の「タケイ」への「ライヴ」講座企画メンバー	齋藤 恵子	47
		15 越谷市発達支援訪問事業指導員	林 恵津子	116
		16 越谷市発達支援訪問事業指導員	森 正樹	30
		17 越谷市福祉部福祉推進課福祉健働プロジェクト	市村 彰英	103
		18 越谷市保健衛生審議会・委員	八十島 崇	31
		19 越谷市教育委員会事務局に係る外部評価委員	高橋 宏至	124
		20 越谷市国際交流協会理事および青少年交流委員会・委員長	荒木 和美	24
		21 越谷科学技術体験センター運営委員会・副委員長	井原 寛子	136
		22 越谷市こころの健康図画コンクール・審査員	牧野 由理	118
		23 越谷市「ま」の審議会・委員	八十島 崇	31
		24 越谷市青少年問題協議会・会長	上原 美子	17
25 ホームスタートこしがや運営委員		市村 彰英	103	
26 獨協大学地域と子どもリカバリーセンター教育アドバイザー		林 恵津子	116	
27 越谷市生涯学習審議会・委員・副会長		北島 義典	122,123	
28 越谷市開発審査会・委員		林 裕栄	42	

■ 2020-2021年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分	委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
県内市町村における地域活動	1 春日部市いじめ問題対策調査委員会副委・員長	上原 美子	17
	2 春日部市健康づくり推進審議会・議長	北畠 義典	122,123
	3 春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会・議長	北畠 義典	122,123
	4 春日部市障害者計画等審議会・会長	河村 ちひろ	105
	5 春日部市地域包括支援センター運営等協議会	保科 寧子	113
	6 春日部市都市再生協議会	保科 寧子	113
	7 春日部市防災会議・委員	會田 みゆき	43
	8 川越市介護保険事業計画等審議会・審議委員	川越 雅弘	153,160
	9 北本市地域包括ケア構築に関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	10 北本市子ども・子育て会議委員	森田 満理子	119
	11 北本市地域福祉推進委員会・委員	高島 恭子	111
	12 鴻巣市教育委員会通級指導教室アドバイザー	森 正樹	30
	13 さいたま市歯科口腔保健審議会・委員	滑川 道人	21
	14 さいたま市環境影響評価技術審議会・委員	四ノ宮 美保	26
	15 さいたま市精神保健福祉審議会・委員	江口 のぞみ	45
	16 狭山市専門家巡回支援事業相談員（狭山市教育委員会）	森 正樹	30
	17 志木市子ども・健康部保育課 志木市ひまわり保育巡回指導員	森 正樹	30
	18 志木市地域包括ケア構築に関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	19 草加市スポーツ推進審議会・委員	八十島 崇	31
	20 草加市男女共同参画審議会・委員	善生 まり子	38
	21 草加市地域包括支援センター等運営協議会・委員	川越 雅弘	153,160
	22 草加市健康づくり審議会・委員	浅井 宏美	44
	23 草加市社会福祉協議会・地域福祉事業に関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	24 戸田市保健対策推進協議会・委員・会長	北畠 義典	122,123
	25 蓮田市地域包括ケア推進代表者会議顧問	小川 孔美	106,107
	26 東松山市地域自立支援協議会・会長	朝日 雅也	102
	27 ふじみ野市精神保健福祉連絡会・委員	柴田 貴美子	94
	28 ふじみ野市自立支援型地域ケア会議アドバイザー	川越 雅弘	153,160
	29 松伏町教育委員会事務に関する点検評価委員	高橋 宏至	124
	30 三郷市障がい者計画・障がい福祉計画等懇話会・委員	森田 満理子	119
	31 三郷市障がい者差別解消支援地域協議会	保科 寧子	113
	32 宮代町総合計画審議会・委員	保科 寧子	113
	33 三芳町教育委員会特別支援教育アドバイザー	森 正樹	30
	34 八潮市地域福祉計画推進委員会・委員	佃 志津子	112
	35 八潮市地域包括支援センター運営協議会委員	小川 孔美	106,107
	36 吉川市障がい者計画推進協議会・委員長	朝日 雅也	102
	37 吉川市障がい者差別解消支援地域協議会・委員長	朝日 雅也	102
	38 吉川市障害者計画推進協議会・委員	朝日 雅也	102
	39 和光市長寿安心プラン策定会議・会長	伊藤 善典	104
	40 蕨市介護保健運営協議会・会長	濱口 豊太	86,87,88
	41 蕨市高齢者福祉計画等策定懇談会・会長	濱口 豊太	86,87,88
	42 蕨市地域密着型サービス事業選定委員会・会長	濱口 豊太	86,87,88

■ 2020-2021年度実績 地域活動（委員会・審議会等の実績）

区分	委員会・審議会内容	担当教員	教員ページ
他 都 府 県 に お け る 地 域 活 動	1 新たな障害者施設等整備検討委員会・副委員長	富田 文子	114
	2 新宿区自立支援協議会・副会長	河村 ちひろ	105
	3 世田谷区障害者施策推進協議会・委員	朝日 雅也	102
	4 大田区障がい者総合センター-就労移行支援事業所連絡会・会員	富田 文子	114
	5 八王子市障害支援区分認定審査会・委員	上原 栄一郎	91
	6 品川区障害者生活支援センター-高次脳機能障害専任相談員	鈴木 貴子	95
	7 特別支援教育アドバイザー（港区教育委員会事務局学校教育部教育指導課）	林 恵津子	116
	8 東京都児童相談センター-家族再統合支援事業スタッフ	市村 彰英	103
	9 調布市健康づくり始める会運営委員	佐藤 玲子	145
	10 豊島区民ひろば課WHO認証プロジェクトセーフティアドバイザー	中村 裕美	85
	11 東京都国立市地域医療計画策定部会・副委員長	川越 雅弘	153,160
	12 東京都環境公社 東京都環境科学研究所 外部研究評価委員会・委員	四ノ宮 美保	26
	13 東京都第三者評価委員会・委員	森田 牧子	58
	14 宮城県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会・委員	津野 陽子	128
	15 福井県南越前町地域包括ケア構築に関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	16 とちぎソーシャルサービス従事者協議会企画委員	髙木 憲子	109,110,159
	17 千葉県富津市地域の支えあいの体制づくりに関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	18 都留市セーフティ外傷リハビリ委員会・委員	北畠 義典	122,123
	19 愛知県国民健康保険団体連合会 事業支援・評価委員会・委員	津野 陽子	128
	20 岡山県倉敷市地域包括ケア構築に関するアドバイザー	川越 雅弘	153,160
	21 高知県在宅療養推進懇談会・委員	川越 雅弘	153,160
	22 島根県老人福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会・委員長	川越 雅弘	153,160
	23 非行少年たちの社会的自立支援のための運動(BlueCross Movement)実行委員	相良 翔	108

■施設紹介

■運動学実習室（運動・動作解析環境を完備）

計22台の赤外線カメラと前方・側方から2台の動画カメラを用いて、超音波装置、床反力計やワイヤレス表面筋電図計と完全同期した状態で、ヒトの姿勢や動作を撮影し、三次元的に様々な姿勢や動作のメカニズムを解明を試みるような実験計測が可能となっています。運動学実習室の設備・計測機器については国内トップクラスかつ世界でも有数の環境を整えており、様々な要望へ対応可能となっています。



三次元動作解析装置
Vicon Vantageカメラ



三次元動作解析装置
Vicon MXカメラ



三次元動作解析装置
Vicon Bonitaカメラ



三次元動作解析装置
Vicon DV（動画）カメラ



超音波（エコー）装置



ワイヤレス筋電システム DELSYS



床反力計内蔵
ダブルベルト treadmill



KISTLER社製
フォースプレート

■施設紹介

■ヒューマンケア実習室（日常生活活動の評価分析・動作支援検討のできる環境を完備）

日常生活活動実習コーナー、宿泊体験コーナー、フリースペース等に分かれています。日常生活活動実習コーナーでは、人の生活に欠かせない日常生活活動の評価分析や、支援方法が実習できます。ベッドから車いす、トイレ、浴室への移乗・移動をサポートするリフトや、手すりの位置や床の高さなどを変更できる浴室装置、車いすでも使用できる昇降式の調理台なども備え、環境からの動作支援も検討できます。また、フリースペースでは、講義机と椅子が常備され講義・研修（50人程度）も可能となっています。



日常生活活動実習コーナー
手すり・床の高さ等変更できる動作支援設備



日常生活活動実習コーナー
手すり階段



日常生活活動実習コーナー
天井走行式リフト



日常生活活動実習コーナー
全体の様子



宿泊体験コーナー



フリースペース（講義・研修など設備を完備）



共通教育科

飯島 博之 教授

【研究分野】

英語教育学

【キーワード】

語彙学習、EFL読解、学習者要因、医学用語

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2511>



日本人英語学習者の特徴の研究

研究概要

日本人英語学習者の特徴について様々な角度から研究をしています。EFL（外国語としての英語）学習者である日本人英語学習者の読解力、学習ストラテジー、学習者要因等について、英語熟達度上位者と下位者の違いに焦点を当てることは私たちの英語学習を改善し、英語力を効率的に伸ばすための貴重な示唆を与えてくれます。また、医療系専門職を目指す学生を対象として、専門分野の学習に必要な医学用語の効果的学習方法の研究と学習教材の開発にも取り組んでおり、学習管理システムを用いたオンデマンド教材と対面授業を融合したブレンド型学習にも取り組んでいます。

研究紹介

- 1) 日本人英語学習者の読解ストラテジーの研究
- 2) 日本人英語学習者の読解不全要因の研究
- 3) 日本人英語学習者の学習ストラテジーの研究
- 4) 効果的な医学用語学習方法と語彙学習教材開発
- 5) 英語指導におけるブレンド型学習の研究

講座テーマ紹介

高校出張講座例：

「英語読解力をつけるために」「語彙力アップのための学習方法」「英語力上位者の学習方法の特徴」「TOEIC得点アップのコツ」「英語ができる人とできない人：ここが違う」といったテーマでの講演をお受けします。

アピールポイントなど

大学での経歴に加え、県立高等学校教諭、国立工業高等専門学校、公立看護専門学校等での英語教師としての経験があります。高校生を対象とした英語学習方法などに関する講演をお受けできます。社会貢献活動としては県立高等学校学校評議員、国立工業高等専門学校英語弁論大会審査委員を務めています。



共通教育科

上原 美子 教授

【研究分野】 学校精神保健、学校における専門職連携、養護教諭養成教育
 【キーワード】 教員の離職予防、ケアを担う子ども、養護教諭養成
 【URL】 <https://researchmap.jp/yy04/presentations/11996006>



学校保健と学校福祉の連携・協働

研究概要

子どもたちの健康課題及び問題行動の背景には、心身の問題とともに家庭、友人関係、様々な環境等が複雑に絡み合っています。また、子ども本人に対する働きかけだけでは問題解決が難しいことも考えられます。そのため、子どもの意向を尊重しながら、**その家族の支援を含めた子どもたちへの支援が必要**であると考えています。

子どもたちの生涯にわたる心身の健康の保持増進に責任のある**養護教諭（学校保健）**と社会福祉の専門的知識や技術を有し、個々の生活面を支援する**スクールソーシャルワーカー（学校福祉）**との連携・協働に取り組んでいます。

研究紹介

1. 養護教諭のストレス対処に関する研究
 - 1) 養護教諭のストレス対処力に影響を及ぼす要因の検討
 - 2) 新任養護教諭における職務上の困難さの認識に関する研究
 - 3) 養護教諭のためのキャリアノートの開発（スタート編）
2. 学校保健と学校福祉の協働
 - 1) 養護教諭とスクールソーシャルワーカーの協働における事例研究
 - 2) 養護教諭とスクールソーシャルワーカーの専門職が連携した保健室経営の提案
3. 開発途上国における日本型健康教育プログラムの検証
 - 1) ソロモン諸島国におけるヘルスプロモートングスクールの取り組み
 - 2) 日本型学校健康教育システムの有効性検証の開発途上国における実践

講座テーマ紹介

- ヤングケアラーの理解と支援
 – 医療・福祉・心理の専門職との連携した養護教諭の視点から –
- 学校危機管理における養護教諭の役割
- 養護教諭のやりがいを支える働き方 など

アピールポイントなど

越谷市青少年問題協議会会長、春日部市いじめ問題対策調査委員会副委員長、また、埼玉県学校におけるヤングケアラー支援事業ヤングケアラーサポートクラスに参画していません。埼玉県立常盤高等学校及び県立杉戸高等学校学校評議員。



共通教育科
竹島 太郎 教授

【研究分野】 症状に関する研究、臨床診断に関する研究、予防やリスクに関する研究
【キーワード】 地域医療、プライマリケア、臨床疫学、ICPC
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=322take>



プライマリ・ケア診療における症状分析

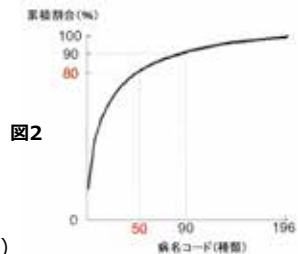
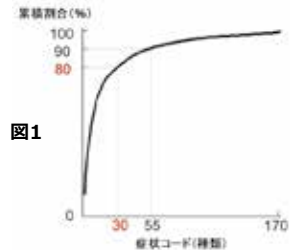
研究概要

地域医療における課題を解決して現場に役立てることを目標に臨床研究を実施しております。特に臨床現場から生まれる疑問を大切に、漠然とした診療の疑問から切実な課題を明確にし、臨床疫学的手法を用いて課題解決に取り組んでおります。そして、研究の成果を社会に発信するとともに、実臨床や医療関係者の教育活動に還元してまいります。

研究紹介

ICPCを用いたプライマリ・ケア診療における症状分析

小規模病院総合診療科を受診した初診患者の症状（来院理由）と診断病名を明らかにした研究を紹介いたします。ICPC (International Classification of Primary Care : プライマリ・ケア国際分類) という国際的に標準化されたコードを用いて記述し、国際誌に発信しました (*Int J Gen Med* 2014)。約30種類の症状コードで受診患者全体の80%を占め (図1)、約50種類の病名コードで全体の80%を占める (図2) ことがわかりました。本研究の結果は、総合診療教育カリキュラムの改善に寄与することが期待されております。



講座テーマ紹介

1. 症状に関する研究

- 初診外来患者における症状と診断病名の記述 (上記)
- 精神疾患に関連する症状の探索 (*Int J Gen Med* 2015)
- 末梢性めまいの発症率の記述 (*Int J Gen Med* 2015)

2. 臨床診断に関する研究

- 菌血症を同定するための臨床診断予測ルールの開発 (*PLoS One* 2016)

3. 予防やリスクに関する研究

- 塩分感受性高血圧遺伝子検査希望者の特性 (*BMJ Open* 2017)
- 末梢性めまいのリスクの探索
頸動脈プラークとの関連 (*Medicine* 2016)、喫煙との関連 (*Sci Rep* 2017)

アピールポイントなど

総合医としてへき地医療に従事してきた経験を糧に、現場の医療者からの切実な問いに応えられるような研究を心がけております。



人はなぜハマるのか～依存&嗜癖への行動変容について

共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学
 【キーワード】 神経変性、メンタルヘルス、依存&嗜癖、口腔保健、医薬品&健康食品等
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2551ana>



研究概要

社会問題化している“危険ドラッグ”をはじめとする薬物（物質）依存は古くて新しい問題です。また、ギャンブルや買い物に加え、インターネットやゲームにハマる若者が増えています。薬物（物質）に限らず、なぜ、ヒトは何か“ハマる”のでしょうか？「嗜好・嗜癖・依存」を手掛かりに“ハマる”仕組みについて理解することを目指します。

研究紹介

依存症を予防するための研究：依存症の基盤となる嗜好・嗜癖・依存に関連する高次脳機能とそれを支える神経機構や脳機能を解明する目的で多彩な手法により検討します。これにより、依存症形成の予防並びに阻止に有効な方策・対策について提案したいと思います。

講座テーマ紹介

依存症並びにその基盤となる脳・神経に関連する知識の習得を目的とした講演・研修会等の実施：

“ハマる”こととはどういうことか、最新の知見を織り交ぜながら“ハマる”仕組みを理解していきます。また、“ハマらない”ための知見はあるのでしょうか。現代の社会問題に深く関係する課題として、「ヒトはなぜ “ハマる”のか」一緒に考えたいと思います。

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、スタンダードな構成だけでなく、例えば、禁煙を中心に話して欲しい、インターネットやゲーム依存の話をして欲しい等、ある程度、アレンジすることは可能です。

臨床研究例～医学的介入の効果検証



・事前&事後検査：代表例

1. 心理検査：評価尺度・質問紙

- ① 嗜癖傾向評価尺度：先行研究を参考に作成中
- ② 精神的健康度：The General Health Satisfaction (GHS) 日本語版
- ③ 気分プロフィール検査：Profile of Mood States (POMS) 日本語版

2. 生理機能検査：バイタルサイン（健康状態）、皮膚電気活動（情動変化）、心拍変動解析（自律神経機能）、フリッカー試験（精神的疲労度）等

3. バイオマーカー測定：唾液によるストレスマーカー測定

これまでの研究例

- ① 依存症予防における不安衝動行動のエンドフェノタイプとしての可能性
- ② 依存症形成の危険度評価に関する検討
- ③ 口腔機能の改善が精神的健康度に及ぼす影響とそのメカニズム



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学
 【キーワード】 医薬品、セルフメディケーション、適正使用、健康食品、薬害を含む有害事象
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=255tana>



あなたの知らない“お薬”の世界～適正使用を目指して

研究概要

私達にとって身近な存在である“お薬（医薬品）”が生体内で作用を発揮するメカニズムを理解することは重要です。一方で、目の前の患者さんに対して多くの医薬品の中から最も適切な医薬品を選択し、最善の薬物治療を行うことが医療における目的と考えられます。また、近年では増大する医療費対策として、自分で症状を理解し、適切な医薬品等を選択し、症状を改善させる「セルフメディケーション」が推奨されているものの、実際に適正に行うことは難しいとされています。そこで、身近で興味深い医薬品を適正使用するための理解を目指します。

研究紹介

医薬品等の適正使用に関する研究：健康食品等を含む医薬品等の有効性と有害性について、多彩な研究手法を用いて検証することで、適正・適切な「セルフメディケーション」とは何か、提案したいと思います。

講座テーマ紹介

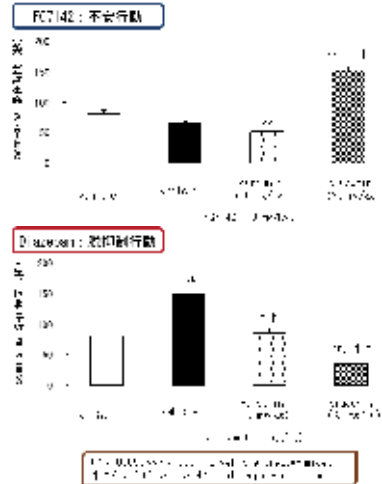
医薬品等の基本的知識の習得と適正使用を目的とした講演・研修会等の実施：

医薬品を一度も服用しない人は恐らくいないと思います。一方で、案外知らない医薬品に関する話題や課題を分かりやすく紹介することで、医薬品の基本的な知識を学び、安心・安全に医薬品を服用できるように学ぶことを目標とします。また、副作用・乱用・薬害等に注目することも可能です。

アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、いわゆる医薬品に限らず、サプリメント等の健康食品や毒物等、応用編も可能なので、例えば、感染症のお薬を中心に話して欲しい、健康食品について話をして欲しい等、ある程度、アレンジすることは可能です。

前臨床研究例～行動薬理的検討





共通教育科
滑川 道人 教授

【研究分野】 臨床医学全般、内科学、臨床神経学、老年医学、脳卒中学、神経科学、産業医学
【キーワード】 認知症、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中、フレイル/サルコペニア
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=252name>



医学講話（特に臨床神経学、老年医学）

研究概要

個人的には「神経変性疾患（特に脊髄小脳変性症/遺伝性痙性対麻痺）の臨床像および分子遺伝学的検討（genotype-phenotype correlation）」を研究しています。

ただ本学においては、医師としてさまざまな疾患に対する啓発活動（講演、公開講座、健康コラムなど）を求められることが多く、それらが地域貢献活動の中心となっています。

特に脳神経内科学（認知症、パーキンソン病、脳卒中、てんかん、頭痛、神経難病など）と老年医学（フレイル/サルコペニア、骨粗鬆症、老年症候群、ポリファーマシーなど）の領域においては、30年の臨床経験をもとに、講演もしくは原稿執筆をいたします。

さらに、学校保健（喫煙、飲酒、違法薬物、性行為感染症など）、救急医学（特に内科系）、産業医学（従業員のメンタルヘルス、特定健診：メタボリック症候群など）、さらには新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などについても、幅広く扱います。

講座テーマ紹介

過去に実施した講演会の内容

<一般向け>

- ・脳卒中を予防しよう
- ・パーキンソン病とは
- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・風邪と免疫

<専門職向け>

- ・神経難病患者の在宅支援のポイント
- ・脊髄小脳変性症の理解（看護師対象）
- ・複合性局所疼痛症候群：基礎と臨床（理学療法士対象）

<多職種連携>

- ・ALS患者の在宅ケア（多職種による事例検討）
- ・多職種連携（IPW）における主治医としてのかかわり方（医師対象）

過去に執筆した一般向け健康コラムの内容

- ・正月：餅の窒息に注意
- ・アルツハイマー病の新薬、アデュカヌマブ
- ・冬場の入浴：ヒートショックとは
- ・コロナ禍に増加！！？ 带状疱疹

アピールポイントなど

医師による啓発活動であり、一般向けから専門家向けまで幅広く対応します。脳神経内科専門医、脳卒中専門医、認定内科専門医、そして産業医の資格を有しますので、特にその領域においては、最新医療情報にまで踏み込んで解説します。

聴衆・読者のレベル、参加人数（数名～数百名）に合わせて講演内容を準備します。講演のみでなく、健康コラムやエッセイなどの執筆、インタビューなどもお引き受けします。

ご希望がある場合、お気軽にご連絡ください。皆さまのお役に立てるよう努力します。



ウェルビーイングを高める学習環境の構築

共通教育科

森村 繁晴 教授

【研究分野】 教育社会学、生涯学習論
 【キーワード】 学校教育、成人学習者、幸福度、生活満足度、ストレス、学習成果の可視化
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=319mori>



研究概要

- 2015年のOECD「生徒の学習到達度調査」（PISA調査）において、学習の背景情報として新たに「生徒のウェルビーイング（健やかさ・幸福度）」の視点が導入されました。さらに、コロナ禍による教育環境の激変もあり、「学び」と「ウェルビーイング」の関係性に対して、国際的に注目度が高まりつつあります。
- 「学習」は学校のみならず、家庭や地域社会など、広い意味での「社会」の中で行われています。学習者本人の状況に加え、学習者を支える保護者や教育者、さらには地域社会の取組みについても、ウェルビーイングの視点を持つことが大切です。
- 多様性と流動性が増しつつある現代社会の状況を踏まえ、子どもから大人まで、人々がより幸福に暮らせる「学び」のありかたについて、多角的に研究しています。

研究紹介

1. 自然体験の豊富な小学生は、自己肯定感が高くなる傾向を確認しました。
2. 小学生の保護者は、我が子が通う公立小学校の教育内容を高く評価する場合、居住満足度も高くなる傾向を確認しました。
3. PTA活動による保護者の不満要因として、活動の強制性などの影響を確認しました。
4. 就職氷河期世代の男性無業者は、他世代よりも学習意欲などが低くなる傾向を確認しました。
5. 大学での専攻分野の違いによって、社会人学生の生活満足度や幸福度に差が生じる傾向を確認しました。

講座テーマ紹介

「学び」と「ウェルビーイング」に関連して教育学の立場から、以下のような講座が可能です。

- PISA調査に導入された「ウェルビーイング」視点の意義について
- 多様な背景による、さまざまな教育格差について
- 学習成果の可視化とウェルビーイングについて
- 人生100年時代の学びと幸福度について



アピールポイントなど

- 私自身は語学教材やキャリア情報などを手掛ける編集プロダクション経営を経て、教育系の研究者に転身しました。子どもたち、および市民一人ひとりの「学習機会を通じたウェルビーイング向上」の実現に向けて、今後の「学び」のありかたを提言します。
- 数量的エビデンスに基づく知見に加え、当事者それぞれの持つストーリーの視点も大切にしています。



共通教育科

浅川 泰宏 准教授

【研究分野】 民俗学、文化人類学、宗教学
 【キーワード】 巡礼、聖地、民俗、ツーリズム、文化資源・歴史遺産
 【URL】 <https://researchmap.jp/taihan>



巡りが生み出す地域と文化

研究概要

「なぜ我々は日常と異なる時間や場を必要とするのか、そこにどのような社会的な意味が込められているのか」という問題意識から、巡礼に関わるヒト、モノ、ミチ、トキを研究しています。近年は御開帳などの期間限定の祝祭や、コロナ禍でのリモート参拝の調査を進めています。各地のフィールドワークで得た知見を教育に結びつけ、地域に着目したモノづくりや提案型の課題作成に、学生と一緒に取り組んでいます。

研究紹介

- ① **四国遍路「接待」に関する研究**
 - 巡礼者に「巡られる」体験が作り上げた地域文化「接待」の構造を、聞き取り調査や史料分析から明らかにしました。
- ② **巡礼を活用したツーリズムや地域づくりに関する研究**
 - 巡礼古道や接待をツーリズムや地域づくりに活用する様々な活動を分析しました。
- ③ **巡礼の「聖年」に関する研究**
 - 四国霊場開創1200年(2014)や坂東丑年疫病退散祈願巡礼(2021)など、期間限定の巡礼の祝祭を研究しました。
- ④ **オンライン化がもたらす巡礼文化の変容に関する研究**
 - リモート参拝など新しい巡礼文化の登場に注目しています。
- ⑤ **民俗学的視点からの地域再発見をテーマとする弁当の開発**
 - イオンせんげん台店から特定講座教育研究費を受託し、学生と共同で地域の食の民俗を盛り込んだ弁当を提案しました。



講座テーマ紹介

巡礼・聖地、民俗宗教、年中行事、旅、食文化などに関する一般/子供向けの講座。

【主なテーマ】

- 「埼玉の札所巡りー坂東三十三観音と秩父三十四観音」(彩の国いきがい大学, 2017)
- 「四国遍路の弘法大師信仰ー同行二人の思想と接待の文化についてー」(一般財団法人マルチメディア振興センター「eビジネス異業種交流会」, 2018)
- 「たびとぼうけんのヒミツ」(東宏行教授と共同)(りそなキッズアカデミー, 2018)
- 「子ども民俗学ーむかしの人が考えた世界のすがた」(埼玉県立大学公開講座, 2019)
- 「四国遍路」(かわさき市民アカデミー『聖地巡礼』, 2021)

アピールポイントなど

- 研究と教育の接続にも力を入れています。教養科目「民俗学」では、毎年学生と一緒に各地の民俗を取り入れた七夕飾りを製作しています。「教養ゼミナール」では、歴史遺産や文化資源を活用した地域巡りや、地域を象徴する食の提案などに取り組んでいます。
- 文化や民俗に着目し、地域社会の新たな価値を発見することで、人々の生活を豊かにする研究開発ができればと考えています。



共通教育科

荒木 和美

准教授

【研究分野】

応用言語学、英語教育

【キーワード】

英語、音声学、発音、文法、聴解

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=257ara>

英語の運用能力を高めるための文法教育と 音声システムの習得

研究概要

外国語としての英語の習得には文法の理解が不可欠であるが、運用能力を高めるためには理解に加えて十分な練習が大切である。現在、文法はその言語を話す人々の考え方や文化の一面も反映しているということに注目して研究を行っている。また、オンライン授業の実践を通して、発音と聴解の授業においては、オンラインでの授業は対面と同様あるいはそれ以上の学習効果が見込めることを2021年度は論文としてまとめ発表した。2019年度より、地域国際交流協会との協力事業として、県内中学生、高校生、大学生と都内の大使館訪問を実践している。言語教育には様々なアプローチが必要であり、言語の文化的側面を理解することを目的の一つとした言語教育の実践は、研究の一環でもある。

研究紹介

- ・2019年：[Tolerance toward Our Mother Tongue and Intolerance toward a Foreign Language](#)_pp15-57（原著）ギリシャ、テッサロニキで2018年5月に開催された国際学会第5回Language in Focusで口頭発表した論文。母語の習得における様々な間違いへの寛容性に対して外国語においてははいかなる間違いも修正されることが多い点に注目した。語学学習には長時間の学習を必要とすると同時に背景にある文化的側面への理解が大切であることをこの論文の中で述べた。
- ・2021年：[Teaching English Listening, Pronunciation, and Writing Skills on Line:Less Mobility and More Closeness and Connectivity](#) Tsuda Review #66 December 2021, pp21-30（原著）

講座テーマ紹介

2019年度より、越谷市国際交流協会との協力事業の一環として、市内中学生、県内高校生、大学生と都内大使館訪問を実践している。2021年度にはエジプト大使館を訪問した。この事業の事前準備として、大使館専門職員、大使館職員、留学経験者を講師に迎えリモート学習会を3回開催した。これらの事業に本学学生も参加することによって他大学の学生や県内の学校生徒との交流の機会を持つことで、異文化や言語理解の経験を積むことを目的とした講座内容である。

アピールポイントなど

応用言語学と英語教育を長年にわたって様々な角度から研究しています。これからも新しい見地から学問を探索して行きたいです。



共通教育科

小松 睦美 准教授

【研究分野】 地球惑星物理学、科学教育

【キーワード】 宇宙探査、はやぶさ2、隕石

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=324koma>

小惑星から太陽系形成の歴史を探る

研究概要

「我々はどこからきて、どこへ行くのか？」

この答えを探すために、小惑星に着目し、物質的な観点から研究を行っています。小惑星には様々な種類があり、太陽系が出来た46億年前の、太陽系での場所や時間の異なる多様な情報を保存しています。その中でも特に注目されているのが「はやぶさ2」が探査を行った「リュウグウ」のようなC型小惑星です。このような小惑星は生命にとって必要不可欠とされる水や有機物を多く含み、太陽系初期に小惑星からもたらされた水や有機物が、地球の生命誕生に関連した可能性があると考えられています。

小惑星に残された情報を読み解くことで、太陽系で物質がどのように進化してきたのか、地球の生命との関連性はあるのか、について研究を行っています。

講座テーマ紹介

●小惑星を目指す理由～はやぶさ2探査でわかったこと～（中高生・一般向け）

NASAのアポロ探査の月面着陸から50年が過ぎ、宇宙探査は新たな時代を迎えています。日本では、小惑星探査機「はやぶさ」に続き、「はやぶさ2」探査機が小惑星リュウグウへの着陸に成功し、2020年末にサンプルを地球に持ち帰りました。このような小惑星探査は、どのような目的で行われ、何を明らかにしてきたのでしょうか？小惑星から探る、太陽系の謎についてご紹介します。



(C) JAXA

●宇宙開発と私たちの暮らし（一般向け）

宇宙開発は、莫大な予算をつぎ込む壮大なプロジェクトとして進められてきました。しかし、単に宇宙空間を開発するだけでなく、宇宙開発により生み出された技術は、私たちの暮らしにもさまざまな恩恵をもたらしています。宇宙開発の歴史と、私たちの暮らしとどのように関わっているかについてご紹介します。

アピールポイントなど

宇宙探査「はやぶさ」「はやぶさ2」等の科学チームに参加し研究を進めてきました。国際隕石学会隕石命名委員として、隕石の命名活動も行っています。隕石を拾った場合の注意点などもご紹介します。



環境化学物質による環境リスクの検討

共通教育科

四ノ宮 美保 准教授

【研究分野】 環境化学、環境毒性学、環境教育
 【キーワード】 環境化学物質、農薬、高分子、分析法、有害性評価
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=259shino>



研究概要

化学物質による環境リスクは、対象となる化学物質の「有害性」と「曝露量」で評価します。「有害性」については、培養細胞を用いて化学物質の複合影響に関する研究を行っています。また、「曝露量」の推定には、環境中の濃度を知ることが有効ですが、ヒトや生態系への悪影響が疑われている化学物質の中には、分析方法が確立されていない物質もあるため、迅速かつランニングコストの妥当な分析方法の開発を進めています。

一方で、身の回りの化学物質による環境リスクについて、高校生以上を対象とした効果的な教育手法の調査研究を行っています。

研究紹介

1. 新しい分析手法の開発

〈これまでの開発例〉

- ・河川水中のゴルフ場で使用される農薬の一斉分析法
- ・河川水中の親水性農薬の一斉分析法

2. 培養細胞を用いた毒性メカニズムの検討

〈これまでの検討例〉

- ・対象物質：ジチオカルバメート系農薬、有機塩素系農薬
高分子化合物（水溶性、中分子量）
- ・培養細胞：神経芽細胞、大腸腺癌細胞など



神経芽細胞



分析装置例

講座テーマ紹介

【専門家向け】

- ✓ 水質試料における有機汚染物質の分析法に関する講演・研修会
- ✓ 環境基準項目等の分析上の留意点に関する講演・研修会
- ✓ 環境試料における微量有機汚染物質の分析法開発に関する講義
- ✓ 化学物質管理に関する講演・研修会

【一般向け】

- ✓ 河川の汚れを調べてみよう（実習を含む）：小学生対象
- ✓ 身近な化学物質による河川の汚染：中学生以上
- ✓ 大気汚染と私たちの健康：高校生以上

アピールポイントなど

地方自治体の環境審議会や環境影響評価技術審議会など、環境省の環境測定分析や分析法開発に係る検討会、ダイオキシン類の測定マニュアル改訂に係る検討会に委員として参加経験があります。リスク評価手法や分析法開発の共同研究、分析機関などでの講演依頼をお待ちしております。



共通教育科

高村 夏輝 准教授

【研究分野】 哲学、倫理学
 【キーワード】 現象的意識、バートランド・ラッセル
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2961aka>



ラッセルの一元論の研究

研究概要

意識の科学的研究や心についての哲学的研究にとって、大きな難問とされているのが現象的意識、クオリアの問題です。クオリアとは意識の主観的な側面のことですが、どのように研究をすればそれを「科学的に解明」したことになるのかがまだよく理解されていません。

今この問題に対して注目されているアプローチが、バートランド・ラッセルが提唱した中性的一元論（ラッセル的一元論）の立場です。百年近く前のラッセルのアイデアを現在の意識に関する研究とどのように組み合わせるかを考えています。

講座テーマ紹介

以下のようなテーマが私の研究課題と重なるものの例となります。

- ・意識の科学的研究にどのような問題があるか
- ・「人間並み」の人工知能の開発にどのような困難があるか
- ・「汎心論」の世界観について
- ・バートランド・ラッセルの哲学とは

アピールポイントなど

この研究テーマに関連した仕事としては、以下のものがあります。

- ・『現代哲学』バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳、ちくま学芸文庫、2014年
- ・「汎心論は再起動するか」、鈴木貴之氏との対談、『現代思想』2020年6月号、青土社





人体の構造を実感とともに学ぶ教材の研究

共通教育科

高柳 雅朗 准教授

【研究分野】 神経解剖学、解剖学教育
 【キーワード】 聴覚伝導路、解剖学、教材、ペーパークラフト
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2841aka>



研究概要

人体の構造は小学校、中学校、高等学校の生物等の学習項目に含まれており、医療従事者を養成する教育機関や大学では解剖学として学びます。大切な基礎知識である人体の構造（解剖学）をよりわかりやすく立体的に実感をもって学べる教材の研究を行っています。

研究紹介

解剖学の学習教材ペーパークラフトの開発

実物大の頭蓋骨、肺、腎臓、脾臓の学習教材ペーパークラフトを開発しています。

動物の内臓を教材とする解剖学実習の評価

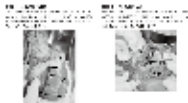
看護専門学校において未固定のブタの内臓（心臓、肺、腎臓、眼球、脳）を教材として解剖学実習を行っています。この教育効果を研究しています。なお、動物の殺生は行わず、屠場由来の組織を教材としています。



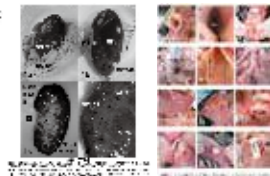
頭蓋骨の学習教材^{ペーパークラフト}
高柳ら, accept



肺の学習教材^{ペーパークラフト}
高柳ら, 2021



ブタ心臓の解剖学実習
高柳ら, 2007



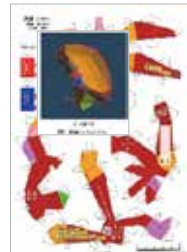
ブタ腎臓の解剖学実習
高柳ら, 2012



ブタ肺の解剖学実習
Takayanagi,
et al., 2017



腎臓の学習教材^{ペーパークラフト}
高柳, 2018



脾臓の学習教材^{ペーパークラフト}
高柳, 2018

講座テーマ紹介

人体の構造（解剖学）の講座

アピールポイントなど

社会福祉法人気づきの評議員

体表で容易に触知できる骨とその周辺について（養護教諭なんでも相談室）. 心とからだの健康 26(3): 69-71, 2022.

体表の比較的浅い部位を走行する脈管について（養護教諭なんでも相談室）. 心とからだの健康 24(12): 66-68, 2020.

言語比較に基づく文法研究

共通教育科

武久 智一 准教授

【研究分野】 言語学、英語学（統語論・語彙意味論・形態論）

【キーワード】 統語と語彙意味の関係

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3181ake>



研究概要

英語や日本語などの自然言語の文法現象の観察・記述を通して、ヒトのこばを生まだす仕組みへの接近を試みています。

研究紹介

●自然言語の統語項の分布と解釈
文を構成する述語と項の関係について研究しています。例えば、

He broke his leg.

という文における主語項は、[1] 何かを行うことにより足を骨折させた解釈（動作主解釈）か [2] 何かが起こった結果、自身の足を骨折した解釈（所有者解釈）のいずれかを持つことが知られていますが、[2] の解釈は常に得られるわけではなく、例えば、

He punched his leg.

という文の主語項は [1] の動作主解釈しか持ちません。また、[2] のような所有者解釈に関しては、英語や日本語では主語項を持つ一方で、例えばドイツ語などの言語では間接目的語項を持つことが知られています。つまるところ、項の種類と可能な解釈との間に見られる関係については、単一の言語内においても、複数の言語間においても、差異が見られるのですが、これらの差異を統一的に扱う分析を生成文法理論及び分散形態論の枠組みに基づいて追求しています。

講座テーマ紹介

- 高坂山張講堂
- ・「日本語と英語の違いいろいろ」
- ・「文のしくみ・語のしくみ」
- ・「英和辞書を使いこなそう」

アピールポイントなど

言語学・英語学を専門としていますが、大学では主に医療系・理工系の学生を対象とした英語教育に従事してきました。日常生活や職場での使用に耐える英語運用能力の涵養を目的として、基礎教育及びリメディアル教育の観点から基礎的内容（文法や発音など）の教育を重視しています。



共通教育科

森 正樹 准教授

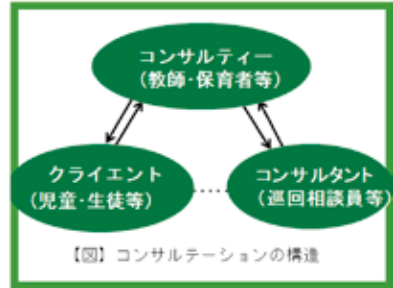
【研究分野】 特別支援教育、障害児保育、インクルーシブ教育、保育
 【キーワード】 発達障害、コンサルテーション、巡回相談
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=260mori>



特別支援教育を支える学校・保育コンサルテーション

研究概要

- 保育園や小中学校等を訪問し、発達障害のある子どもを支援している先生方（教師・保育者）を対象として巡回相談を実施しています。
- コンサルタント（巡回相談員）としてコンsulter（教師・保育者）が自身の仕事に根差して主体的・創造的に特別支援の実践を進めるためのコンサルテーションを研究しています。（右図）



研究紹介



- 小中学校の通常学校で行われている特別支援教育の実態を調査。これをもとに、教職員の校内研修用のツールを開発・提案。（写真左）
- 小学校の通常学級で実施されている「机間指導」の実態を調査。これを踏まえ、教職員の校内研修用のツールを開発・提案。（写真中央）
- 特別支援教育コーディネーターが地域でコンサルテーションを進める上での諸課題を検討。専門家養成のプログラムを開発・提案。（写真右）
- 保育カンファレンスで実践上の課題解決を促進する諸技法の研究を継続中。（フィールド研究）

講座テーマ紹介

- ① 障害のある子ども達の理解の観点と保育実践のアイデア（保育者向け）
- ② 「授業改善」で考える特別支援教育の実践のポイント（教師向け）
- ③ 架空事例で考える発達障害のある児童生徒への教育的支援（教師向け）
- ④ 障害のある子どもの保護者との信頼関係構築のポイント（保育者・教師・関係者向け）
- ⑤ 保育・学校コンサルテーションの理論と実際（特別支援学校教員・専門施設職員向け）

アピールポイントなど

この20年、埼玉県内、各地の保育園や学校に出向き、現場の先生方の素晴らしい保育実践と教育実践に多くを学ばせて頂いております。現場の実践には、まだまだ多くの宝が眠っています。それを発見し、光を当て、皆で分かち合うための研究をしたいと願っています。





共通教育科

八十島（やそじま）崇 准教授

【研究分野】 体力学、トレーニング科学、コンディショニング科学
 【キーワード】 競技スポーツ、内的負荷、外的負荷、定量化、トレーニング、コンディショニング
 【URL】 <https://researchmap.jp/read0120680>



スポーツ活動時の負荷管理を通じた トレーニングとコンディショニングの実践

研究概要

スポーツ選手が競技力を向上させていくには、**スポーツ活動による負荷を定量化し、適切な強度と量のトレーニングを行っていくとともに、傷害予防を図っていく**必要がある。

スポーツ活動における負荷は、外的負荷と内的負荷に大別される（図）。外的負荷とは、スポーツ活動中に選手に課される外的な刺激であり、身体外で定量化できる負荷を指す。近年ではGPS（Global Positioning System：全地球測位システム）デバイス等のトラッキングシステムによって、試合中の移動距離、移動速度、加減速の反復回数などを測定し、活用している。内的負荷とは、身体の中で起こりうる変化の大きさを指す。具体的な指標には、主観的運動強度（RPE：rating of perceived exertion）、心拍数、血中乳酸濃度などが挙げられる。



図 スポーツ活動における負荷

本研究では**外的負荷をGPSデバイスを用いて、内的負荷として主観的運動強度（RPE）、心拍数を測定し、日々の練習や試合等におけるスポーツ活動の負荷を管理しながら、トレーニングやコンディショニングを実践していく**ことを目指していく。

講座テーマ紹介

これまで

- ・中高生を対象とした体カトレーニングとコンディショニング講座
- ・高齢者の体カトレーニング講座（埼玉未来大学等）

などを担当させていただきました。

アピールポイントなど

上記の内容以外にも球技スポーツ（サッカー等）の方向転換能力に関する研究などスポーツ選手のトレーニングに関する研究を行っております。

また、研究ではなくともチームサポートの形でトラッキングデータを測定し、フィードバックを行いながら、体カトレーニングやコンディショニングの実践方法の提案を行っていただければと考えております。



共通教育部

山田 恵子

准教授

【研究分野】

健康づくり（ロコモ・フレイル予防）、健康リテラシー向上

【キーワード】

ロコモ・フレイル、IoT、ビッグデータ、ヘルスコミュニケーション

【URL】

<https://researchmap.jp/kyamad>



PHRを用いたロコモ・フレイル予防

～PHR(Personal Health Record)：日常生活の運動から予防する

研究概要

高齢化率が世界一の日本では、健康寿命の延伸が必須で、要介護とかかわりの深いロコモティブシンドロームやフレイル対策が重要です。

日常生活の動きや歩行速度から、ロコモ・フレイル予防に役立つ身体機能項目を見つけて、一般の皆様の日々の生活に役立ててもらおう研究を進めています。また、身体機能のデータを医療（診察等）につなげられるような仕組みを作る研究を行っています。

研究紹介

1. 日常生活の動きからロコモ・フレイルを予防する研究

大学病院、システムプラットフォーム会社、ヘルスケア事業会社との連携による研究

- 1) 勤労世代～再雇用世代の健康維持を目的とした研究
- 2) 手軽にできる運動プログラムの作成
- 3) 日常生活で、ロコモ・フレイル予防に必要な動きに注目
- 4) アプリを用いた毎日継続できる運動のしくみづくり
- 5) 病院での診察にも使えるようなシステム構成



2. 全国ロコモ1万人調査を用いた研究

ロコモの疫学や予防に必要な運動、食事、生活習慣などの研究
「ロコモ年齢」開発で、移動機能を「自分ごと」にしてもらう試み



3. 高齢者の運動に対するモチベーションを上げる研究

社会福祉法人との事業研究。ウォーキングショーなどを行い
「見られる意識を高める」ことで、高齢者の運動を継続できるか

4. レセプトと健診データから、歩行速度と疾患の発生の関係を調べる研究

「自分の歩く速度はほかの人より遅い」と感じる人は病気になりやすいか、など

5. 医学をわかりやすく伝える研究

新聞記事コーパス（言語データベース）の作成による
「医学研究をわかりやすく伝える手引き」の作成

講座テーマ紹介

- ◆ロコモ予防、身体機能データ活用などの一般向け、専門家向け講座
- ◆医学・健康をわかりやすく伝える講座、など

アピールポイントなど

- ◆ヘルスケア事業会社、社会福祉法人、大学病院などと連携研究をしています。
- ◆今後は地方自治体様などとの連携も通じて、地域の健康寿命を延ばす共同研究ができたらと思っています。



対人（援助）職が困難を乗り越えるための支援

看護学科

秋山 美紀 教授

【研究分野】 精神看護学、ポジティブ心理学
 【キーワード】 レジリエンス、セルフ・コンパッション、希望、感謝、マインドフルネス
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid/334.html?pdid=308aki>



研究概要

人と関わりを持って仕事をしていく上で、他人の苦痛に対してあたかも自分の苦しみであるかのように感じることで、共感疲労を起こすリスクがあります。共感疲労は、生産性の低下や離職率の増加によって職場環境にも影響を及ぼすと言われています。

共感疲労を起こさないためには、セルフ・コンパッション（自己への思いやり）を培うことが有効です。セルフ・コンパッションは、レジリエンス（困難を乗り越える力）に関連があり、幸せやモチベーションの向上にも関連があることが明らかになっています。

人と関わりを持って働くすべての人が、セルフ・コンパッションを培うことで、困難を乗り越えて幸せでいられることを目指したプログラムを開発・改善しています。

講座テーマ紹介

主にポジティブ心理学の技法を用いて、対人援助職（看護職など）が心のセルフケアをしていく構成のプログラムです。

自分の思い込みに気づき、ありのままの自分を受け止め（マインドフルネス）、自分に思いやりをもつ（セルフ・コンパッション）ための技法を紹介しています。

8つのレッスンとワークを通して自分が楽しいことや自分の良いところを探し、すべてのことに感謝できる自分を発見していきます。

本プログラムは、もともとは看護職を対象としたものですが、看護職だけではなく医療職全般、さらにはすべての対人職（店頭販売員、客室乗務員、窓口業務、営業職、コールセンター業務、教員など）に応用できる可能性があります。

関東・関西4県での看護協会での研修、都内大学病院、関東甲信越地区での2大学と2大学病院との合同研修、自治体の公開講座、保健所研修等に用いられています。



アピールポイントなど

レジリエンスは、筋肉と同じく、鍛えることが出来ると言われています。こころの筋トレのつもりで鍛えておくと、有事に対応できると思います。



看護学科

秋山 美紀 教授

【研究分野】 精神看護学、ポジティブ心理学
 【キーワード】 ポジティブ感情、ウェルビーイング、レジリエンス、感謝
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=308aki>



ポジティブ感情の身体的精神的健康への効果

研究概要

個人や組織や地域を、もっと豊かにするにはどうしたらよいかということを科学として探求したのがポジティブ心理学です。健康寿命の延伸を目指すわが国においては、高齢者がいきいきとごきげんに生活できることは非常に重要です。ポジティブ心理学にはそのヒントとなるものがたくさん含まれています。

ポジティブ感情が思考や行動のレパートリーを拡張し資源を形成するという、フレドリクソンのポジティブ感情の拡張形成理論をベースに、高齢者が車いすにおいても楽しめるフラダンス（健康フラ介護フラ）の開発を、一般社団法人健康フラ介護フラ協会理事長栗原志功氏、慶應義塾大学前野隆司教授、北海道大学病院横田正司医師と共同で行っています。

講座テーマ紹介

健康フラ介護フラは、伝統的なハワイのフラダンスの振付に込められた意味付けを大切にしながらも、日本の高齢者が親しみを持って楽しめるように、日本の歌謡曲に合わせて創作したフラダンスです。

主な動作は①腕を高く上にあげる動作、②手を横や前に動かす動作で、基本的に肩のインナーマッスルを含めた頸椎周辺から肩まわり・上腕・前腕の筋力の維持、動作の習得、肩・肩甲骨のストレッチ効果が得られます。

高齢者のポジティブ感情だけではなく、生きがい、生活の質に関するフラダンスの効果の研究、身体的健康への影響、または、高齢者だけではなく、子どもから大人まで幅広い世代を対象として効果を検証したいと思っています。共同研究ではなく、イベントの実施のみのご依頼でも可能です。

※現在（2021年）はオンラインで行っています。



多くの研究者の力を借りて「看護のためのポジティブ心理学」を出版いたしました。



アピールポイントなど

本プログラムは、2018年度グッドデザイン賞を受賞しました（代表 栗原志功）埼玉県・群馬県、東京都の介護施設、北海道の病院、オーストラリアの幼稚園で行われました。



看護学科

國澤 尚子 教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

トイレの手すりの開発、IPWコンピテンシー自己評価尺度の開発
トイレ動作の自立・負担軽減、連携・協働
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=282kuni>



研究概要

学生時代に片麻痺の患者さんのトイレ介助を見学させてもらって以来、安全で負担が少ない手すりが必要だと思っていました。手すりのメーカーであるナカ工業株式会社との6年間の共同研究の末、施設トイレ用補助具「立位サポート」を開発しました（2020年発売開始）。

研究紹介

「立位サポート」は、壁からの出寸法が大きい、寄りかかることができる、手すりが2本ある、手すりがカーブしていることが特徴です（写真1）。片麻痺の人が車いすから立ち上がるときに、L型手すりでは腕を無理に伸ばしていました（写真2）。立位サポートは壁から出ているため、体の近くで手すりを把持することが可能です（写真3）。着衣のときは、L型手すりに寄りかかると健側の壁側に体が傾き、健側上肢の動きは妨げられます（写真4）。立位サポートでは、体幹が傾くことなく手すりに寄りかかり、健側を自由に動かすことができます（写真5）。検証実験により、開発した手すりはL型手すりに比べて、車いすから立ち上がるときの僧帽筋、下衣着脱時の腓腹筋などの筋負担が減少することがわかりました。また、介助する人の腰方形筋の負担も減少していました。

「立位サポート」を設置した病院や介護老人保健施設から、「立位サポートを使って、安心して自分自身でズボンの脱着ができるようになった」「他人に迷惑をかけているというような気持ちの部分での負担が軽減されている」「立位サポートを気に入り、そのトイレが空くまで待っている入所者がいる」「介護者の世話をしているという意識から支援しているという意識づけにつながるという声が聞かれている」などの感想をいただいている。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

講座テーマ紹介

- 企業との異業種・多職種連携による研究の難局と対応
- IPWに関連した講座

アピールポイントなど

トイレ動作の特徴、および企業との異業種・多職種連携による製品開発の経験を、企業と研究者の共同研究の一例としてお伝えできます。

看護管理、継続教育への看護実践リフレクション活用



看護学科

鈴木 康美 教授

【研究分野】 看護管理学、継続教育
 【キーワード】 看護管理、継続教育、リフレクション、キャリア開発、成人学習論、協同学習
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=101suzu>



研究概要

看護基礎教育、看護継続教育において、2000年頃より、リフレクションが看護学生、看護師の成長を促すツールとして注目され、現在多くの施設でも導入されています。しかし、看護の対象者が年齢、性別、精神面、多様な社会背景を持ち、さらに疾患も複雑で、新型コロナウイルス等の新たな感染症などもあり、不確実性が高い看護実践において、看護職がどのようにキャリア開発を進めるか、看護管理者の悩みは尽きないことと思います。

私は、看護実践のリフレクションに関する研究を進める中で、看護実践について看護師が言語化し、その意味付けをすることによって、部署の看護実践に大きな影響を及ぼすことが分かりました。個々の看護師の支援が結果として、部署、病院全体の看護実践、看護のビジョンとの運動に繋がりを、看護管理とも深く関連しています。

研究紹介

- ・黒田久美子らと共著、2016年8月、「新人看護師教育責任者支援プログラムの開発—自施設の評価を踏まえた研究企画能力向上への支援」
- ・黒田久美子らとの共著、2019年3月、「新人看護師教育担当者能力自己評価票」(SS-CES) Ver.1の信頼性・妥当性の検証」原著 日本看護管理学会
 2019年3月「中規模病院の教育責任者からみた院内教育の現状と課題」保健医療福祉科学
 2018年3月「組織全体に看護実践のリフレクションを導入したことによる組織変革の効果に関する研究」保健医療福祉科学
 2020年11月、「看護実践のリフレクションを深める支援に関する研究—Sengeの学習する組織の観点から」教師学研究、Vol.23 (2) . 43-53.

講座テーマ紹介

1. **新人看護師教育責任者・担当者研修**：自分の組織を分析し、組織の状況に最適な新看護師教育プログラム立案について、教育の基本原則、評価、年間計画、時にはデモンストレーションを行う実践的なプログラムです。組織の規模に関わらず、自組織に適した教育計画を、自ら立案することが目標です。
2. **看護実践のリフレクションの支援**：リフレクションの基礎的な理論を学習し、リフレクションの演習を行います。看護実践のリフレクションを経験した後で、支援についてさらに学ぶことがポイントです。希望する施設に合わせて実施することも可能です。
3. **看護管理**：看護管理の基礎的な理論について学び、自分の組織についてのデータ収集、分析を行い、課題を明確にすることを学習します。SWOT分析、BSCなどの活用も可能です。主任、係長、師長補佐、師長等の看護管理者の方対象です。悩み、不安、課題の多い看護管理者の方にエールを送る講座です。

アピールポイントなど

看護実践を少しでも、改善し、よりよい看護を提供したいと試行錯誤している看護管理者の皆さん、新人看護師の教育に苦勞されている教育担当者の方の力になりたいと考えています。基礎的な理論と一緒に学び、臨床現場の悩みを解決していきましょう。希望される方には、前期の大学院の聴講、大学院進学との相談も可能です。

看護師の教育力向上に向けた教育研修

看護学科

鈴木 玲子 教授

【研究分野】 看護学

【キーワード】 看護教育、看護技術教育

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=110suzu>

研究概要

【中堅看護師の教育力深化を目指したアクティブラーニング型研修の開発と評価】

現在、後輩看護師や看護学生への教育活動、院内の教育研修計画の企画、運営を担当する中堅看護師の教育力を育成するための研修プログラムを構築する研究をテーマとしています。具体的には、中堅看護師が主体的に学べるアクティブラーニング型の研修プログラムの開発とその効果検証について取り組んでいます。

唐沢・鈴木ら.医療機関に勤務する中堅看護師に向けた現任教育プログラムの現状と課題
https://doi.org/10.32256/spujhcs.7.0_32

講座テーマ紹介

●医療機関における看護師研修の企画・運営・評価

- 1) 教育指導に関わる看護師の教育力アップに関する研修
 - ・学習者の主体的学びを促進する教育指導計画の立案
- 2) 主体的学びを促進するアクティブラーニングに関する研修
 - ・アクティブラーニングの意義と教育への導入方法について
 - ・状況設定を取り入れたシミュレーション教育方法
- 3) シミュレーターを用いた看護技術の教授方法に関する研修
 - ・生体シミュレーターの教育への活用方法



アピールポイントなど

- ・埼玉県内の医療機関において、中堅看護師の教育力向上を目指したEdNs (Education Nurse) 研修に協力しています。





看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究

看護学科

善生（ぜんしょう）まり子 教授

【研究分野】 老年看護学
 【キーワード】 高齢者、専門職連携、看護チーム、インクルーシブケア
 【URL】 https://researchmap.jp/2001_zensho-mariko



研究概要

令和2年度診療報酬改定では「働き方改革の推進」によって、チーム医療の推進だけでなく、**タスク・シェアリング/タスク・シフティング**（業務分担・協働）の評価の充実が掲げられています。

主に、一般病院の急性期病棟（肺炎や心臓病の状態の悪化で入院し、症状が落ち着いたら患者は比較的短期間で退院することが多い）では、「**急性期看護補助体制加算**」（平成22年度診療報酬改定～）が強化され、看護補助者の配置、**看護チーム**（看護職：看護師、保健師、助産師、准看護師）と看護補助者（介護福祉士を含む）との業務分担・協働の推進が期待されています。

このような働き方改革の推進の中で、医療処置や指示受け等の業務に追われて、高齢者ケアが後回しにならないように、心のこもった、**看護チームの連携のあり方と高齢者へのインクルーシブケアが促進されるような方策を考え、常に臨床現場へのフィードバックをモットーとして、研究に取り組んでいます。**

高齢者へのインクルーシブケアとは、高齢者の生き方・暮らし方等が多様であることを前提に、高齢者ご自身の希望に合った配慮を受けて療養生活を送ることを目指す看護ケア理念と実践プロセスです。

講座テーマ紹介

- **看護チームのための連携講座**
 専門職連携：看護チームバージョン
 講義、グループワーク、リフレクション等
- **看護補助者のための看護基礎講座**
 看護事始め
 要介護高齢者への日常生活援助の基本的知識と技術
 講義、グループワーク、リフレクション等
- **高齢者へのインクルーシブケア講座**
 看護チームの対話のコーディネーター等

アピールポイントなど

現在、医療ICT化を支援する事業者、一般病院の看護管理者らと小さなチームを組んで、**看護業務に発生し易いヒューマンエラー**（例えば、血糖測定チェック漏れや服薬管理などの場面で看護職によって人為的におこされる間違い）を**未然に防ぐためのAIロボット応用の共同研究**に取り組んでいます（AI：人工知能）。この共同研究では、**看護チームの業務負担やストレス緩和**につながるような効果をめざしています。

そして、**看護チームがよりよく連携**できれば、**高齢者へのインクルーシブケア**に心から取り組めるような職場の環境づくりへ貢献出来るのではないかと思います。

一緒に取り組みませんか？



こどもセルフケア看護理論の臨床への応用

看護学科

添田 啓子 教授

【研究分野】 小児看護学、看護職の継続教育
 【キーワード】 セルフケア能力、ケア能力、小児、リフレクション、看護過程
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=133soe>



研究概要

小児医療施設にセルフケア理論を取り入れる組織的教育介入を行い、看護師の認識・実践の変化を進め、子どものセルフケア能力/親のケア能力の獲得を支援する理論の考え方を定着させるための研究を行っています。介入の効果は、看護師の認識・実践の変化、看護過程の変化、子どものセルフケア能力/親のケア能力が高められたかを評価することを目的としました。看護部との合同プロジェクトにより、学習会、事例検討会を行い、施設の看護過程の変革を行うとともに、看護記録監査の変更、事例検討カンファレンスの定着を目指して、介入を行っています。

研究紹介

1. 親のケア能力、子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育・指導力
2. オレムのセルフケア理論を基盤としたこどもセルフケア看護理論の構築
3. 幼児の術後回復を促す看護の相互作用
4. 小児看護学の教育に関する研究
5. 子どものセルフケア、親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の定着・評価
6. 「こどもの生活と発達の見えづらさ」に着目した状況特定理論の構築

講座テーマ紹介

- 看護職の継続教育として、セルフケア看護理論を取り入れたアセスメント、看護過程の考え方
- 養護教諭と看護教員の協働について
- 小児看護領域の事例検討、など

アピールポイントなど

- セルフケア看護理論を使った看護師の研修、小児の事例検討会、カンファレンスの活性化、リフレクション、質的研究についてでしたら、研修や指導が可能です。
- 日本小児看護学会評議員、専任査読者



看護学科
高橋 恵子 教授

【研究分野】 People-Centered Care（市民主導型ケア）、ヘルスリテラシー、地域創成看護学
【キーワード】 市民主体、パートナーシップ、健康づくり
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3261aka>



市民と保健医療者が共に考える People-Centered Careの教材開発

研究概要

People-Centered Care (PCC) とは、個人や地域社会における健康課題の改善に向けて、市民が主体となり、保健医療専門職とパートナーを組み行われる取り組みのことをいいます。

我が国の超高齢社会に伴う深刻な健康課題の解決に向けた「市民主導型ケア：People-Centered Care」における研究成果を集積し、グローバルヘルスケアの動向を見据えた市民と保健医療者とのパートナーシップの向上をめざす研究開発に取り組んでいます。



People-Centered Care モデル
高橋恵子他（2018）。

研究紹介

1. 市民と保健医療専門職とのパートナーシップに関する研究

1) 市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発

現代社会が直面する健康課題の改善に向け、市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」におけるPCCの実践例を取り入れたeラーニング教材の開発に取り組んでいます。

2) People-Centered Careパートナーシップ(PCCP)-尺度の開発

—市民と保健医療専門職の協同に着目した信頼性と妥当性の検討—

市民と保健医療者が共に活動する事業メンバー間のパートナーシップを測定する尺度を開発しました。



PCCパートナーシップの8要素
高橋恵子他（2018）。

すべての人の健康的な生活を創り守る



PCC教材（作成中）

2. 市民のヘルスリテラシー向上をめざすプログラム開発に関する研究

市民対象のヘルスリテラシープログラム（「健康情報へ適切にアクセスできる力」と「健康情報を正しく評価する力」に焦点を当てた市民講座）の有用性の検討。



健康情報を見極める5つのポイント

講座テーマ紹介

1. **ヘルスリテラシー講座（健康情報の探し方、選び方、使い方を学ぼう！）**：自分の健康を自分で創り守るために、一般市民を対象に健康情報を見極めるポイントをご紹介します。
2. **子どもへの「からだのお話し会」**：自治体のイベントや地域支援活動の場で、子どもを対象に紙芝居を用いて「からだのお話し会」を行っています。

アピールポイントなど

聖路加国際大学 P C C 開発・地域連携室（PCC事業：客員研究員）、自治体の地域支えあい協議体（委員）、中央区多職種連携かもめケアネット（メンバー）、NPO法人からだフシギ（メンバー）など、さまざまな地域での健康支援活動に参加させていただいております。



子どもへの「からだのお話し会」



看護学科

常盤 文枝 教授

【研究分野】 慢性看護、循環器疾患看護
 【キーワード】 アドバンス・ケア・プランニング、意思決定支援、健康教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=1111toki>

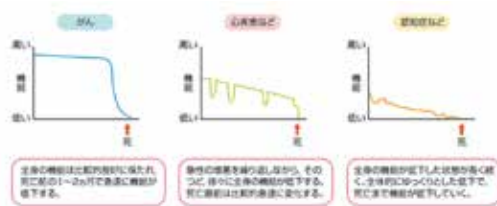


病いとともに生きるための意思決定支援

研究概要

病いの軌跡（病気になってからの行路）は、病気や個人の状況によって異なります。
 (HEART 2012 /5 Vol.2 No.5
 p501- p 511)

もしも病気になった時に、自分の希望を理解してもらうために、医療者、家族、親しい人とともに、情報を収集・吟味して、共に考える作業が必要です。



たとえば、リビングウィルの必要性に関する意識調査では、一般市民の70%が賛成しているが、実際に書面を作成している割合は5%以下です。これは、リビングウィルが単に生前遺言書と考えられていることが影響しています。

アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning : ACP）とは、人生の最終段階をどのように過ごしたいか、どのような治療を受けたいかについて、事前に患者と医療者が話し合い、自分の生き方を考えることです。しかし、これは特別なことではありません。普段から、病いとともに上手く生きるLive Wellためのコツを皆さんと一緒に考えます。

研究紹介

心不全患者と家族に対する包括的緩和ケアモデルの開発
 地域包括緩和ケアの充実にむけた家族への教育支援プログラムの開発

講座テーマ紹介

- ・地域住民の健康教育プログラム策定と実施支援
- ・アドバンス・ケア・プランニングを考えるワークショップ
- ・地域での緩和ケアを考えるワークショップ
- ・「もしも病気になったら」準備ワークショップ

アピールポイントなど

健康教育やワークショップを通して、患者の意思尊重に関する社会的コンセンサスを高めることに貢献します。



看護学科

林 裕栄 教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

在宅ケア学、家族看護学、老年看護学

訪問看護、在宅ケア、介護者、家族

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=121haya>

地域で活躍する看護職の研究とケアラー支援の研修

研究概要

訪問看護や在宅ケアに関する専門職側や介護を行っているケアラー側、双方からの視点で研究をしてきました。現在は、地域包括ケアの中核を担う訪問看護師へのキャリア支援に向けたプログラム開発を現場の方々と共に進めています。加えて精神障害者の地域生活支援に向けての事例検討会や、ケアラーの概念を広く地域社会に普及するための支援を行っています。

研究紹介

- 1.訪問看護師のキャリア支援プログラムの開発
キャリアラダーとそれに伴う研修体系の構築について、
埼玉県訪問看護ステーション協会との共同研究中。
- 2.特別養護老人ホームで働く看護職員の人材育成と課題
埼玉県看護協会看護師職能Ⅱ委員と共同研究中。
- 3.精神科アウトリーチに関する研究
主に埼玉県内の地域ケアを行う精神保健・医療・福祉職
や家族会の皆さんと共に事例検討会を定期的に開催。
それをもとに支援技術、地域連携について検討し県内の
精神保健・医療・福祉の質の向上を目指している。



講座テーマ紹介

- 介護者（ケアラー）支援、家族看護についての一般向けおよび専門職者向けの講義
- 訪問看護師や施設看護師のキャリア支援研修



アピールポイントなど

近年では、専門職だけでなく非専門職との連携や当事者の力が注目されています。高齢者や障がいを持つ人の支援や、ケアラーの支援をとおして、住み慣れた地域でどんな人でも、その人なりの暮らしを送ることができるような地域づくりを目指して研究活動を行っています。

委員実績：埼玉県看護職員確保委員会委員・埼玉県訪問看護推進検討委員会委員・埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議委員・埼玉県越谷市開発審査委員・埼玉県訪問看護ステーション協会顧問・埼玉県看護協会看護師職能Ⅱ委員 など。



看護学科

會田 みゆき 准教授

【研究分野】 生活習慣病予防、糖尿病看護、看護教育方法
 【キーワード】 セルフケア教育・健康教育、臨床判断能力育成教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=115ai>



健康と生活習慣・予防・臨床判断力

研究概要

生活習慣病予防、生活習慣病の中でも増加が著しい糖尿病の一次・二次予防のためのセルフケア行動支援について研究しています。特に、食生活、身体活動における生活習慣の改善および継続を支援するための教育的介入のあり方について研究しています。

また、看護実践につながる臨床判断能力育成のための教育プログラムの開発に取り組んでいます。実践につながる学びを追求しています。

研究紹介

- 生活習慣改善のための健康教育に関する研究
 - 「勤労男性に対する身体活動促進を目指した行動化への支援」
 - 「糖尿病予防のための肥満者における運動の習慣化」に関する研究
 - 教育プログラムの作成および行動化・行動変容の評価
 - 「大学生の健康度および生活習慣」に関する研究
- 臨床判断能力を高める教育の研究
 - 「視線分析を用いた多重課題における臨床推論力を高める教育プログラムの開発」
 - 臨床で遭遇する多重課題場面での学習者の情報獲得と思考過程の特徴の明確化（視線分析を活用）⇒シミュレーション教育プログラムの開発
- 家族参加型アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する研究
 - 地域資源を活用した住民による 家族参加型のACP研修会の企画、実施、評価

講座テーマ紹介

- 生活習慣病予防に関連した講座
 - 「生活習慣と健康－健康づくりのための食事・身体活動」
 - 「認知機能と生活習慣病」
 - 「夏バテ予防－栄養と健康」など
- 多職種連携に関連した講座
 - 「多職種連携基礎研修」
- 家族参加型アドバンス・ケア・プランニング研修

アピールポイントなど

市民向けの講座は、高校生から高齢者まで、年代を問わず実施しております（高校の保健講座、未来大学、地域コミュニティでの講座など）。一般の方の生活習慣病予防意識を高め、健康づくりの支援をしたいと考えています。



看護学科

浅井 宏美

准教授

【研究分野】

助産学、母性看護学、新生児看護学

【キーワード】

周産期、新生児看護、Family-Centered Care; FCC

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=146asa>

周産期・小児医療における子ども・家族中心のケアの実践 および協働意思決定に関する研究

研究概要

近年、周産期医療において、家族は子どものケアに関わるチームの一員として、医療者と**良好なパートナーシップ**を築くこと、**患者・家族と医療者の協働意思決定**が重要視されています。これらの実践をより促進・普及していくために、臨床の看護職の方々と共に実際の臨床に生かしてゆくにはどうしたらよいかという視点を大切にして、研究に取り組んでいます。また、周産期医療に従事する看護職対象のセミナー、中学生・高校生対象の性教育や新生児の看護に関する出張講座などの教育活動を行っています。

研究紹介

1. 周産期における子ども・家族中心のケア(Family-Centered Care; FCC)に関する研究

- 1) FCCの理念に基づくケアの評価尺度の開発
- 2) 周産期・小児医療におけるFCCの概念分析
- 3) 新生児集中治療室におけるFCCを促進する個人的・組織的要因の探索

2. 多職種連携・協働意思決定に関する研究

- 1) 新生児医療に携わる医療従事者向けの教材開発
 - ・DVD『重篤な新生児の医療をめぐる協働意思決定』（医学映像教育センター制作、2016年）
- 2) 患者・家族と医療者の協働意思決定に関するワークショップ企画など
 - ・雑誌「小児看護」企画『特集 話し合いの環境を考えよう！ 家族を含めたチームカンファレンス みんなで育てる“コラボ”プロジェクト』（2018年6月号）
 - ・第27回日本小児看護学会テーマ『子どもの最善を守るためにチームで協働意思決定できる職場風土を創ろう』
 - ・第30回日本小児看護学会テーマ『患者・家族の意見を尊重した意思決定支援：ロールプレイを通して考える』

3. 病院、診療所、助産所における助産ケア方針に関する調査研究

4. 日本におけるヤングケアラー支援に関する研究

講座テーマ紹介

●中学校・高校出張講座（＋新生児モデルの抱っこ体験・妊婦体験演習）

1. いのちの教育・思春期の性（性教育）、新生児・未熟児の看護に関する講座
2. 看護職を志す中学生・高校生のための講座

●一般向け講座

1. 子育て中のママ・パパ対象の母乳育児・育児技術に関する講座・交流会など

●専門職講座（看護職対象）

1. 産科看護職のための学習会（地域における母子保健活動、産科医療補償制度と助産活動など）
2. 周産期・小児医療に関わる看護職のためのファミリーセンタードケア実践入門

アピールポイントなど

教育機関（中学校・高校）ご担当者様へ：上記の講座テーマの中でご要望がございましたら、出張講座のご依頼に対応可能です。日本の将来を担う生徒様のために、微力ながらお役に立てれば光栄です。
医療機関・自治体ご担当者様へ：上記の研究・講座テーマに関連した講座のご依頼に対応可能です。



看護学科

江口 のぞみ 准教授

【研究分野】 精神看護学、精神保健学
 【キーワード】 メンタルヘルス、セクシュアル・マイノリティ、性別違和
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=287egu>



研究概要

多様性が尊重される社会の形成過程において、個人のセクシュアリティもまた多様性をもって尊重されることが重要な課題となっています。

セクシュアル・マジョリティとされるシスジェンダー（性別自認と割り当てられた性別が一致する人）やヘテロセクシュアル（自認する性別と異なる性別の人に性的指向をもつ人）ではないセクシュアル・マイノリティの人々がセクシュアリティに基づく社会生活上の困難を抱えることなく、その人らしく生きていくためにはどうすればよいか、保健医療福祉の場・教育の場で研究を行っています。

研究紹介

- 1) 性別違和を有する人のメンタルヘルスに関する研究
 - ・性別違和の緩和を目的とした治療が生活の質および精神的健康に与える影響
 - ・性別違和を有する人のベネフィット・ファインディング
- 2) セクシュアル・マイノリティのメンタルヘルスに関する研究
 - ・COVID-19感染拡大がセクシュアル・マイノリティの人々に与える影響

講座テーマ紹介

セクシュアリティに関する一般向けおよび専門職者向けの講座

- ・性の多様性（SOGIESC）
- ・セクシュアル・マイノリティ/LGBTQ+

アピールポイントなど

ダイバーシティとインクルージョンの考え方が浸透しつつある中、あらゆる組織において、すべての人が尊重され、活躍できる社会の仕組みづくりが求められています。

多様性が尊重される社会に向けて、当事者のグループや自治体、教育機関、保健医療福祉の関係機関と連携しながら取り組みたいと考えています。



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」



看護学科

大場 良子 准教授

【研究分野】 がん看護学（婦人科がんの心理とケア）、健康心理学
 【キーワード】 婦人科がん、女性性、再適応、ピアサポート
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=117ooba>



婦人科がん体験者のための支援モデルの開発

研究概要

近年、子宮がん（頸がん、体がん）、卵巣がんなどの婦人科がんは増加傾向にあります。婦人科がんの治療後の後遺症の実態は、認知されにくく、適切な時期に適切な情報提供と心理社会的なケアは十分ではありません。当事者は女性ならではの問題（結婚、恋愛、妊娠、出産、性の問題、外見の問題など）を相談する機会がもてないため、孤独になりやすく、女性としての生きづらさを感じている場合があります。

本研究では婦人科がん体験者のインタビューやアンケート調査に基づき、女性ならではの問題に対する支援と、本来の自分を取り戻す支援を検討しています。

研究紹介

1. 婦人科がん体験者のための支援モデルの開発
女性特有がんのサポートグループとの連携による共同研究
 - 1) 本来の自分を取り戻すための語りと交流の場
 - 2) 婦人科がん特有の後遺症に対する支援
 - ・卵巣欠落症状（閉経に関わる問題）、排泄障害、リンパ浮腫、セクシャリティ等
 - 3) 治療による外見の問題に対する支援（アピアランスケア）
2. 婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発
後遺症に関わる生活上の困り事や不安を解決するために、当事者の体験に基づいた後遺症対策の製品開発を検討中。

講座テーマ紹介

1. 婦人科がん特有の後遺症への対処に関する講座
2. 治療による外見の問題と対処（アピアランスケア）に関する講座
3. 婦人科がん体験者のためのピアサポート（がん体験者向け）

アピールポイントなど

長年、女性特有がん（婦人科がん、乳がんなど）のためのサポートグループにおいて、体験者への支援に関わっています。また、患者会団体と共同研究にも取り組み、学会発表や講座企画、様々な視点からの支援プログラムを企画し展開しています。

婦人科がん体験者のためのフェムテックの開発も検討中です。企業との共同開発のお誘いもお待ちしております。



セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツと健康支援

看護学科

齋藤 恵子 准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

ウィメンズヘルス、助産学、国際看護学
セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス、妊娠、出産、伝統的慣習、性教育
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=143sai>



研究概要

セクシャル・リプロダクティブヘルス/ライツにおいて、日本では発達段階に応じた包括的な性教育が十分に行われていない現状、性感染症、意図しない妊娠、周産期のメンタルヘルスの問題等、多くの課題があります。さらに、日本に住む異文化ルーツのある人々（移民、難民、技能実習生、留学生等）、障がいを持つ人々、性的少数者はセクシャル・リプロダクティブヘルスサービスにアクセスし難いという課題があります。

SDGs 目標3「すべての人々に健康と福祉を」を達成すべく、日本に住む多彩な文化的背景を持つ人々を含めた人々のセクシャル・リプロダクティブヘルスサービスへのアクセスを向上することがグローバル化が進む我が国のヘルスサービスの向上に繋がると考えます。

研究紹介

日本在住の異文化背景を持つ女性の妊娠・出産・産後における母国の伝統的慣習の認識と日本の産科医療施設の対応についての研究に取り組んでいます。

1. 異文化背景を持つ女性の妊娠・出産に関する文化に配慮した看護支援
2. 途上国において家族により提供される介護と看護師の役割
3. 若者の性の健康に関する研究
4. 埼玉県在住の移民女性の出産に関する伝統的プラクティスの認識と実践

講座テーマ紹介

- セクシャル・リプロダクティブヘルス：思春期の性の健康支援
- 日本に住む異文化背景を持つ女性の妊娠出産に関する伝統的慣習
- 諸外国の母子保健の現状を踏まえた助産師活動
- 諸外国の母子保健活動、国際化時代における助産師の役割

アピールポイントなど

日本在住の異文化背景を持つ女性の妊娠・出産に関する文化に配慮した看護支援について検討したいと考えています。また、中学生・高校生への性教育実践活動を通して若者の性の健康支援に取り組んでいます。



看護学科

櫻井 育穂

准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】小児慢性疾患患者と家族の移行期支援に関する研究
成人移行支援、思春期・若年成人期、小児慢性疾患
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=136saku>

小児期発症の慢性疾患患者への成人移行支援

研究概要

近年の小児医療・看護の進展と社会福祉サービスの拡充により、小児期発症の慢性疾患患者の多くが成人年齢に達しており、移行（Health care transition）を促進させるための体制整備が求められています。

移行とは、「患者が成人期を迎えた際に、本来の持てる能力や機能を最大限に発揮し、その人らしい生活を送れることを目的としたプロセスを指す」と定義され、小児看護にとって患者と共に目指すべき重要な目標となっています。

私は、**思春期・若年成人期の患者主体の移行支援に関する医療者対象の生涯教育プログラムの開発**に関する研究を行っています。

講座テーマ紹介

- 移行支援に関する患者・家族および医療専門職者向けの講座
 - 【患者・家族向け】
 - ・「大人の医療へむけて何を準備すれば良いの?」：移行準備に関して
 - ・「移行支援って何? どうして必要なの?」：移行の必要性に関して
 - ・「親として子どもにどのように関われば良いの?」：親の役割に関して
 - 【医療専門職向け】
 - ・「移行支援の必要性と実際について」：思春期・若年成人期の患者の特徴を踏まえて
 - ・「移行プログラムについて」
 - ・「成人診療科における思春期・若年成人期にある患者への対応について」
- 各施設における移行プログラムの作成・運営・普及に関する助言、資料作成等
 - ・ 移行プログラムの作成、支援者養成テキストの作成等への助言
 - ・ チーム作り・多職種連携に関する助言
 - ・ 事例検討における助言
- 移行に関する臨床研究への助言、国内学会発表・論文作成におけるサポート

アピールポイントなど

- ・ 2009年よりガイドブック及びチェックリスト等を作成し、看護師への生涯教育講座を行っています。
(思春期看護研究会：<https://san-j.info/index.html>にて「看護師、医療スタッフのための「移行期支援ガイドブック」第2版」を収録。フリーダウンロード可能)
- ・ 日本小児科学会、日本小児リウマチ学会の移行支援に関するWGに参加させていただいています。





看護学科

渋谷 えり子 准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】看護代替療法、ハンドマッサージを活用したセルフケアや介護支援
ハンドマッサージ、リラクゼーション、介護支援、コミュニケーション
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=112shibu>

ハンドマッサージの活用

研究概要

患者への安楽なケア提供のために、意図的タッチやハンドマッサージなど看護技術の研究を行っています。これら看護技術を看護教育に生かす工夫や、一般の方々の活用方法についての研究を進めています。また、触れるケアとしてのハンドマッサージについて共同研究を実施しています。

研究紹介

1. 看護技術としてのハンドマッサージの活用に関する研究

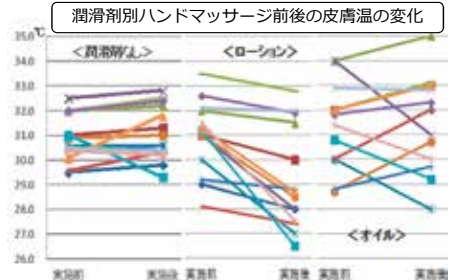
リラクゼーション効果や患者との関係形成にも効果のあるハンドマッサージの看護基礎教育方法に関する研究。
(潤滑剤別ハンドマッサージの皮膚温の変化)

2. セルフハンドマッサージに関する研究

女性を対象に、セルフハンドマッサージを実施し、その効果としてのリラックス度やストレス度に関する研究。

3. ハンドマッサージを取り入れた認知症高齢者を介護する家族支援プログラムの開発

病院や施設では、認知症患者との関係性維持にタッチやハンドマッサージが活用されている。在宅で介護している家族が効果的なハンドマッサージを実施できるような教育プログラムを構築するための研究。



セルフハンドマッサージ (一部抜粋)



講座テーマ紹介

- 更年期女性を対象としたハンドマッサージやストレス緩和に関連した健康講座
- 高齢者の介護に関連した家族のための講座 など

アピールポイントなど

埼玉県看護協会教育委員や看護協会主催の研修会講師など担当してきました。研究は、ハンドマッサージの活用についての研究を続けており、その結果を活かしてハンドマッサージやアロマを活用したセルフケアについての健康教育を行ってきました。今後は家族の介護をしている方に、ぜひハンドマッサージの活用を知ってほしいと思います。家族介護の講座、研修会など協力させていただきますので、よろしくお願ひします。

新たな看護技術教育方法の検討

看護学科

新村（しんむら）洋未 准教授

【研究分野】 看護技術、看護技術教育
 【キーワード】 看護基礎教育、看護技術
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=105shin>



研究概要

看護実践に必要な看護技術の習得は、看護職としての必要不可欠なものです。一方、医療技術の高度化などにより、必要となる技術も変化しています。そのため、看護職は生涯を通して自律的に最新の知識・技術を学び続ける必要があります。

看護学生が看護技術に関する知識・技術を向上するだけでなく、卒業後においても主体的に自己研鑽を積み、自己を成長させていくことができるようになるためには、看護技術の学び方を習得することが重要です。そこで、看護技術の深い理解につながる「気づき」を引き出しながら、学び方を習得する十分な教育設計に基づいた新たな看護技術教育の方法を検討しています。

研究紹介

・「学習者中心の教育」を実現する看護技術教育プログラムの開発と評価
 採血技術に焦点をあて、「学習者中心の教育」をコンセプトに、知識・技術だけでなく、技術習得の学び方の習得を目標とした教育プログラムの開発と評価に取り組んでいます。

「学習者中心の教育」

- | | | |
|------|---|--|
| ゴール | <ul style="list-style-type: none"> ・内発的動機づけと学習への愛 ・転移を含む、知識やスキルの習得 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己調整スキルの発達 ・協同スキルの発達 |
| 教授方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習者に応じて学習ペース、方法、内容、評価をカスタマイズ ・学習者が学習ゴール、方法について意思決定 ・仲間との協同を通じて学ぶ | |

講座テーマ紹介

- ・高校生に対する看護師の魅力を伝える講座
- ・看護技術に関し、自律的に学ぶ方法を仲間とともに考える講座

アピールポイントなど

埼玉県看護協会開催の現任者研修の講義、埼玉県内の病院における看護研究に関する講義と助言などを担当させていただいています。

また、看護基礎教育に使用するテキストの分担執筆をしています。



訪問看護ステーション新採用者育成のための支援

看護学科

武田 美津代 准教授

【研究分野】 訪問看護ステーション支援、リラクゼーション（マッサージ、セルフケア）
 【キーワード】 訪問看護師養成、新採用者、在宅療養、看護技術（褥瘡・ストーマケア）
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=104take>



研究概要

県内の訪問看護ステーションの新採用者（新卒者および既卒者）は、訪問看護に関する専門知識や技術不足の不安を抱えながらも訪問看護に興味関心を持って勤務しています。しかし、新採用者に対して訪問看護ステーションごとに必要な教育プログラムを計画実施するのは困難であるため、新採用者が訪問看護を継続できるように半年間の「訪問看護師育成プログラム」の企画運営に携わりました。同じプログラムで年に2回開講しており、各自で行うe-learningと集合研修で構成されています。研修で得た知識や技術を勤務の中で実践しながら理解を深め、一人前の訪問看護師として成長できるよう支援しています。

研究紹介

1. 新卒者等訪問看護師育成プログラム

埼玉県訪問看護ステーション協会と連携し、育成プログラム冊子を作成して新採用者を支援しています。

- 1) 講義内容：ポートフォリオ、訪問看護の制度、サービス提供の仕組み、リスクマネジメントなど
- 2) 技術研修：在宅医療技術（栄養管理、呼吸管理、排泄、採血など）
- 3) 事例検討：受講生全員が訪問事例について対象理解や訪問看護の実践を振り返り共有



2. 育成プログラム受講者の状況と支援

新採用者の多くが既卒者で、病院勤務を経て訪問看護に興味をもっています。子育て中の方が多く、自宅の近くに訪問看護ステーションがあることや夜勤がないことも訪問看護を希望する理由になっています。しかし、看護師経験があっても訪問看護の専門的知識や技術不足に不安をもつ者が多く、同僚や管理者（指導者）の支援を必要としています。集合研修では業務を離れて新採用者が同期として学べたり、事例検討では多角的な視点から対象理解のヒントを得たりしています。

育成プログラム冊子には研修や学習のスケジュール、実務の目安、技術評価、面談の機会などを提示し、受講者だけでなく管理者にもサポートの視点を示しています。自ら学習進度を確認できる、新採用者の状況把握できるなど計画的な支援につなげています。

講座テーマ紹介

- ケーススタディなど、実際の看護を振り返り対象者の理解を深めたり、看護を追究したりできるような検討会
- 原理原則を再確認しながらの看護技術に関する研修（清潔や排泄ケア、創傷処置など）の実践や検討会

アピールポイントなど

看護に不安がある方に向けた研修プログラムや看護技術の研修など、学生への指導経験と皮膚・排泄ケア認定看護師の経験から一緒に支援内容を検討したいと考えています。

看護師の支援に関する研究・モノづくり

看護学科

田中 広美 准教授

【研究分野】 基礎看護学、看護教育、継続教育
 【キーワード】 看護教育、レジリエンス、看護実践
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2661ana>



研究概要

1. 病院（臨床）に勤務している看護師を対象とした研究
 - 臨床看護師の実践に関する研究
 - 職場環境に関する研究
 - 継続教育に関する研究
 - 1) 病院や施設、地域で活躍する看護師を支援する研究
 - 2) 職場環境に関すること
 - 3) 看護師の職務遂行上の困難に関すること
 - 4) 看護や介護で使用する用具の製作に関すること
 - 5) 看護師のレジリエンスに関すること
 （看護師の職務継続に関わるレジリエンス向上のための支援プログラムの構築：文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C））
2. 医療および介護に関するモノづくりに従事する企業との協同
 - 医療・福祉に関わるモノづくり（製品開発）

講座テーマ紹介

- 1) 看護師を対象としたレジリエンスに関する研修会
- 2) 医療・福祉器具に関わるモノづくりの座談会
 - ・自身が関わったモノづくりの概要紹介
 - ・医療・福祉器具モノづくりの展望について
- 3) 埼玉未来大学での講演（コミュニケーション）
- 4) 模擬患者養成講習会

アピールポイントなど

- 病院における研修会開催の実績あり（2020年）
- 埼玉未来大学での講演実践あり（2021年）（高齢者・コミュニケーション）
- モノづくりへの取り組み
 - 1) 注射針を廃棄する容器（針を取り除く装置）の開発に携わる（特許取得）
 - 2) ベッドから車いすへの移乗に使用するボードの開発に携わる（特許取得）



看護学科

辻 玲子

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない 外来看護支援モデルの開発

准教授

高齢者虐待予防、介護者支援、認知症ケア、認知機能維持・向上、多職種事例検討
高齢者虐待、予兆、外来看護、予防、介護者支援、看護支援モデル
<https://researchmap.jp/twin-brother/>



研究概要

公表されている件数が高齢者虐待の実数ではなく、顕在化しない高齢者虐待、隠されてしまっている高齢者虐待が、その何倍・何十倍にも存在するといわれ、確認されている高齢者虐待は氷山の一角であるといわれています。そこで、病院や診療所の外来に通院する高齢者を対象に、病院や診療所の外来看護師が、本来の受診目的である診療や看護を提供する中で、高齢者の家庭生活に潜む高齢者虐待の芽を摘むために、高齢者虐待の予兆を捉え、予防も含む看護支援を提供し高齢者虐待に至らしめないようにすることを目的に、外来看護支援モデルを開発する研究を行っています。

研究紹介

インタビュー調査より明らかになったのは、外来看護師が察知する高齢者虐待の予兆は、高齢者から察知した【なかなか改善に向かわない身体所見や症状】【高齢者が介護者に依存する関係性】、介護者から察知した【介護者の介護の意欲低下や脆弱な介護力】【介護者の精神的余裕を奪う経済的困窮】【攻撃性強い傾向の介護者】【依存し合う様子の家族集団】の6つでした。高齢者虐待に至らしめない外来看護支援は、[通院継続の支援] [高齢者の身体症状改善の支援] [高齢者を擁護するための支援] [介護者の介護力向上の支援] [介護者の健康ニーズへの支援] [家族集団の課題を踏まえた介護体制への支援]、[他の機関との連携による支援]の7つでした。これらの関連から「高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデル」を構築しました。



講座テーマ紹介

- 高齢者虐待事例に過去に遭遇したことがない外来看護師が、高齢者虐待の予兆を察知するための高齢者と介護者に対するアセスメントを修得するための研修
- 高齢者虐待予兆察知後に予防的看護支援が実践できるようになる研修
- 元気高齢者対象「認知機能と生活習慣病」「認知症予防」「認知症を知ろう」
- 認知症に関連した多職種連携の講座、病院・外来での看護倫理に関する講座 など

アピールポイントなど

高齢者大学（埼玉未来大学）や様々な自治会で、認知症の知識・予防方法、認知症と生活習慣病の関連についての講義を行っています。また、日本認知症ケア学会 関東1地域部会委員として、よりよい認知症ケアを行う為に、事例検討会を実施して、多職種連携実践を検討しています。そして、埼玉県社会福祉協議会においては、「医療との連携及び多職種連携の意義」に関して、ケアマネジャーの新規・更新・再研修を行っています。



看護学科

服部 真理子 准教授

【研究分野】 公衆衛生看護学、地域看護学
 【キーワード】 保健師教育、健康行動、心の健康
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=295hatto>



保健師の育成と健康行動について

研究概要

保健師は基礎教育で資格を取得、就職後も専門職として生涯学習することを求められます。また、社会の変化はこころとからだの健康、健康行動に関係します。保健師教育と健康や健康行動に関心をもち、学内外の研究者と協力して2021年度は下記の研究を行いました。

研究紹介

研究活動について

2021年度は、学内外の研究者と協力して学術集会で下記の発表をいたしました。

1. 関美雪, 服部真理子, 石崎順子, 佐藤玲子, 上原美子, 柴田亜希, 伊草綾香 :
父親の出産前教育参加の実態とストレス対処との関係 (第68回小児保健協会学術集会)
2. 服部真理子, 小谷野康子, 金子真理子 :
壮年期における新型コロナウイルス感染症の影響とセルフコンパッション、心の健康の関連について (第41回日本看護科学学会学術集会)
3. 石崎順子, 大久保菜穂子, 服部真理子, 柴田亜希, 伊草綾香, 関美雪 :
成人女性における健康問題の認知・理解度と運動・スポーツ実施との関連 (第80回日本公衆衛生学会総会)
4. 服部真理子, 石崎順子, 柴田亜希, 伊草綾香, 関美雪 :
首都圏在住の壮年期の新型コロナ感染症予防行動と個人属性及びSOCとの関連 (第80回日本公衆衛生学会総会)
5. 石崎順子, 服部真理子, 関美雪, 伊草綾香 :
新任保健師研修参加者における専門的能力の獲得 : 「標準的なキャリアアラダー」による評価 (第一報) (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)
6. 服部真理子, 石崎順子, 関美雪, 伊草綾香 :
新任保健師研修参加者における専門的能力の獲得 : 現任教育体制・就労環境との関連 (第二報) (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)
7. 関美雪, 服部真理子, 石崎順子, 伊草綾香 :
卒業時の到達目標の学生自己評価による保健師教育の評価 (第10回日本公衆衛生看護学会学術集会)

講座テーマ紹介

2021年度は、埼玉県令和3年度新任保健師研修とPDCA研修のファシリテーター、越谷市保健師階層別研修の講師をさせていただきました。

アピールポイントなど

2021年度は、埼玉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員、さいたま市健康づくり・食育推進協議会委員をさせていただいています。



看護学科

東原 亜希子 准教授

【研究分野】 補完代替医療、骨盤位（逆子）、シミュレーション教育、女性のセルフケア
 【キーワード】 ヘルスプロモーション、女性と運動、模擬産婦を活用したシミュレーション
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=148higa>



研究概要

【妊婦や母親のセルフケア能力を引き出すプログラム】

女性が本来持っている力を導くため予防的視点から妊婦や母親のセルフケアに関する研究に取り組んでいます。その中でも特に「妊婦と産後の母親への有酸素運動」、「妊婦自身が自宅で実施できる逆子治療やマイナートラブルの改善としての灸の効果」を研究しています。

【シミュレーション教育】

少子化、産婦の高齢化、ハイリスク妊産婦の増加に伴い、分娩見学の経験がない、分娩介助実習が困難という現状を考慮し、学内で臨場感ある体験から学んでいく模擬産婦を活用したシミュレーション教育に力を入れています。

研究紹介

1. 逆子の研究

逆子妊婦の思い・骨盤位の鍼灸治療と胎動・妊婦が実施する灸の身体症状への影響・骨盤位の自然回転・骨盤位妊婦が実施する灸の頭位変換とマイナートラブルへの影響

2. 模擬産婦が分娩第1期から第2期を演じるリアルな分娩介助演習の実践と評価

分娩介助実習前に模擬産婦を活用したシミュレーション演習が学生にとってどのような効果があるか、今後様々な角度から更に検証していく予定です。

講座テーマ紹介

【看護学の代替医療との協働に関連した講座】

- ・「逆子のケアで悩む妊婦への支援」
- ・「逆子治療に灸は効くのか」
- ・「妊婦が自宅で実施する灸のマイナートラブルへの効果」
- 【妊婦や母親を含めた女性への運動に関連した実技も合わせた講座】

- ・「妊婦のエアロビクス&ヨガクラス」
- ・「産後1カ月から1年の母親のエクササイズ&ベビーマッサージ・乳児体操クラス」
- ・「途上国で暮らす女性への支援～イスラム教女性の運動指導者としての歩み～」

【模擬産婦を活用したシミュレーション教育】

- ・「模擬産婦養成プログラムの開催」

アピールポイントなど

・妊婦のエアロビクスクラス・ヨガクラス、産後の母親のエクササイズクラス&ベビーマッサージ・乳児体操クラスを担当している現役のインストラクターです*。

詳しくは、次のURLでの「～ビスク～」クラスをご覧ください。

https://hospital.luke.ac.jp/guide/maternity/mch_class.html

*現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で休講しています。

・モルディブ共和国で2年間、フィットネスの普及、女性の運動指導者を養成する活動をしていました。

・シミュレーション教育に関しては、他の助産教育機関と共同研究も希望しています。



看取りケア 死を看取る看護師の態度育成

看護学科

平野 裕子 准教授

【研究分野】 がん看護学、成人看護学

【キーワード】 看取り、死への態度

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=116hira>

研究概要

少子高齢多死社会の看取りを支える担い手として看護職者の活躍が期待されています。しかし、看護職者であっても最期まで患者や家族に寄り添いたいと願う反面、人の死という重大な事態にかかわり続けることでいのちの終焉に対する責任や使命などからさまざまな感情をもたらすため、精神的負担や苦痛を体験しています。

患者の死を悼むとともに、患者を看取することで生じた自己の悲嘆感情と向き合い、癒すことで精神的負担や苦痛を緩和させ、尊厳ある人生の最期に寄り添い、ご家族の悲嘆ケア（グリーフケア）実践ができるよう、知識や技術とあわせて患者の死に曝され続ける看護師の**看取り力深化を目指した態度教育プログラム開発**に関する研究を行っています。

講座テーマ紹介

●看取り、End-of-Life Careに関連した一般および専門職者向け講座

<一般向け>

- ・「どうやって看取ればいいの?」：最期のときの身体変化とかかわり方
- ・「最期まで自分らしく生きるために」：人生会議-もしものための話し合い-

<専門職講座>

- ・「質の高いEOLケアの提供」：ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの提供
- ・「看取り時のケア」：基本的知識の解説、実践の分かち合い
- ・「グリーフケア」：基本的知識の解説、実践の分かち合い

●看取りを行う看護職者の態度育成に関連した専門職者向け講座

- ・「どんな気持ちで死に立ち会っている?」：患者を看取することで生じる思いを分かち合おう-省察-

アピールポイントなど

現在、看取り力深化を目指した態度教育プログラム開発に向け、構想中です。参加協力者および病院を探しております。関心がおありでしたら、ぜひご連絡をお願いします。お待ちしております。

看取りに関する知識・技術の提供の場が必要であれば、微力ですが ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの開催協力も可能です。一緒に学ばせていただければ幸いです。



看護学科

丸山 優 准教授

【研究分野】 老年看護実践

【キーワード】 入院治療、要介護高齢者、回復

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=125maru>


要介護高齢者の入院治療時および治療後の回復支援

研究概要

要介護高齢者の入院治療に際して、「動けなくなった」「認知症が進んだようだ」という言葉を聞きます。もともと予備能力が低い要介護高齢者は、入院に至った疾患の影響だけでなく、入院治療に伴う安静によって心身に様々な弊害が起こります。

すべて元通りに回復することは不可能ですが、適切なケアの提供によって弊害を減らし、その人らしい生活の継続につなげられます。病院や介護保険施設で働く看護職にとっては自明の理ですが、その実現には効果の見えにくさ、安静保持や事故予防との兼ね合い、組織的に取り組む必要性など様々な困難が存在します。これらの課題をクリアすべく研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 急性期治療後の後方支援施設への転入時ケア実践モデルの開発

急性期病床から医療療養病床に移行した高齢患者に適用する「転入時ケア実践モデル」を開発しました。（右図、URL参照）

医療療養病床での実践に基づいて、モデルを構築しましたが、地域包括ケア病棟や介護保険施設等、急性期治療後の高齢者を受け入れる施設に適用できる可能性があると考えています。モデルに基づいた実践による成果を明らかにすることに取り組んでいます。



<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006414071>

2. 急性期病院における高齢患者のmobility（動き）促進に向けた実践プロトコルの開発

急性期治療のために入院する高齢者のmobilityを促進する病棟看護実践プロトコルを開発しています。現在進行中です。

身体可動性の保持や回復は生活の継続に重要な要素ですが、入院治療を受ける高齢者は不動に陥りやすく、看護職は安静保持や事故予防の観点から積極的な実践となりにくい現状があります。本研究では、病棟看護職の日々のmobilityの積極的な把握によるアセスメントから実践に結びつけるプロトコルを開発し、ADLの維持回復、転倒やルート類除去等の事故の減少、身体拘束の最小化を図ることを目指しています。

講座テーマ紹介

- 要介護高齢者に関わる病院、介護保険施設の専門職者（看護職・介護職他）を対象とした講座…病院・施設の現状に合わせて演習を組み合わせた講座の実施も可能です。

アピールポイントなど

要介護高齢者にとって生活のターニングポイントとなる急性疾患への罹患や入院治療の機会におけるケア方法を考える機会になればと思います。



看護学科

森田 牧子

精神科訪問看護による虐待予防 精神障害者と家族の生活を支援します

准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

精神科訪問看護による家族支援、訪問看護師における虐待予防プログラムの開発
精神科訪問看護、家族支援、精神障がい者支援、虐待予防、産業保健
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=132mori>



研究概要

地域で生活する精神障害者の8割は家族と同居しており、多くの家族が精神障害者の退院後の地域生活を支えています。在宅精神障害者の訪問看護利用は、介護負担や家族の高齢化に伴い、増加傾向にあります。看護内容は疾患の状態観察から日常生活支援、家族支援と多岐にわたります。そのため看護師は、家庭内で生じる虐待やリスク状態にある場面に遭遇することがあります。そのようなハイリスクな家族に訪問看護師はどのような観察や看護を提供することで虐待予防に繋がるのか、調査研究を実施しています。

研究紹介

- 精神障害者虐待予防に向けた看護ケアプログラムの構築
 - 1.訪問看護師が虐待リスクを測定できる指標「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」の開発
 - 2.訪問看護師の虐待リスク家庭への介入ケア内容の分析
 - 3.訪問看護師の観察内容と「在宅精神障害者の支援状態評価尺度」のリスク度測定調査（実態調査）
 など、精神科訪問看護師の実践での困難、家族や当事者の困難を共有し、支援方法を検討しています。
- 訪問看護師による精神障がい者の注意サインの研究
精神科訪問看護師が精神障がい者の症状悪化をどのように捉え、どのようなサインが悪化に繋がるかについてミックスメソッドを用いて研究しています。

講座テーマ紹介

- 精神障がい者虐待予防、訪問看護における虐待予防などに関連した一般向けおよび専門職向けの講座
- 虐待予防における多職種連携に関連した講座など
- 産業保健におけるメンタルヘルスなど

アピールポイントなど

精神科訪問看護師の経験から、精神障がい者が安心して地域生活を送るための支援や調査を行っています。また、産業保健におけるメンタルヘルスの講演も対応可能です。



慢性の病いとともに生活する人のセルフケア支援

看護学科

山岸 直子 准教授

【研究分野】 糖尿病とともに生活する人のセルフケア支援、看護師のアセスメント
 【キーワード】 慢性の病い、糖尿病、セルフケア、自己管理、アセスメント、高齢者、独居
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=113yama>



研究概要

糖尿病や高血圧などの「慢性の病い」とともに生活をする人は、健康維持のため様々な「セルフケア」が必要となります。「セルフケア」とは、‘自分自身のために’‘自分で行う’ことを意味しますが、このようなセルフケアを生活の中で継続的に行うことは容易なことではありません。さらに、セルフケアが困難となりやすいひとり暮らし高齢者や高齢夫婦のみで生活している人も増加し、生活状況に合わせたセルフケア支援が求められます。

そのため、その人の生活状況に合わせて、生命や健康の維持のみならず生活の楽しみも維持しながら自分らしく生きることを目指した「セルフケア支援」に関する研究に継続的に取り組んでいます。

研究紹介

- 糖尿病とともに生活をする人を対象とした調査と、その人々を支援している看護師を対象とした調査に取り組み、双方の視点を統合した多角的・包括的な支援を検討しています。
- 独居の高齢2型糖尿病患者の自己管理の実際と支援ニーズ
 –同居者のいる高齢2型糖尿病患者との比較–
- 独居の高齢2型糖尿病患者に対する熟練看護師の看護支援
- 高齢糖尿病患者のセルフケア支援のためのアセスメントツールの開発
- 人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み（アドバンス・ケア・プランニング）の推進に向けた共同研究にも取り組んでいます。
- 人生の最終段階に向けた医療・ケアに関する住民の意思表明プロセスを推進する研修プログラムの開発

講座テーマ紹介

- 糖尿病・高血圧・慢性腎臓病などの生活習慣病の予防や健康維持を目指した行動促進（行動変容）に関する講座
- 高齢者やひとり暮らし高齢者の健康や生活の楽しみの維持を目指した支援に関する講座
- 健康な人・慢性の病いをもつ人へのアドバンス・ケア・プランニング推進に関する講座

アピールポイントなど

これまでの研究では、主に糖尿病とともに生活をしている人々からの「病いの語り」を伺い、どのような体験や思いを抱きながらセルフケアに取り組んでいるか、求められる看護について明らかにしてきました。病いとともに生活をする人々の視点に立ち、生活の楽しみの維持を大切にセルフケア支援に取り組んでいます。

身体活動・シミュレーション教育

看護学科

山本 英子 准教授

【研究分野】 身体活動、助産師・看護師教育、規範意識
 【キーワード】 行動変容、親子体操、育児肯定感、シミュレーション教育、模擬産婦
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=144yama>



研究概要

- 身体活動（生活活動＋運動）は、糖尿病、循環器疾患、がん、認知症などのリスクを低減し、メンタルヘルスや生活の質の改善などの効果が認められています。子どもから高齢者まで、多くの人が無理なく日常生活の中で身体活動を実施する方法の提供や環境をつくることが求められています。とくに、女性のライフステージに応じた身体活動に焦点をあてて、研究を行っています。
- 妊娠・分娩のハイリスク化、分娩数の減少、さらに、感染症流行下において、臨地実習経験の不足が懸念されています。そのため、助産師・看護師教育において、臨床判断力や実践能力などの向上を目指したシミュレーション教育が重要であり、その実践と研究を行っています。

研究紹介

1. 乳児をもつ母親の育児肯定感を高める親子体操プログラムの開発とその効果検証
 - － 乳児とその母親が日常生活で実施しやすい親子ふれあい体操プログラムを作成しました。
 - － プログラム参加による母親への効果が確認でき、母子関係や母親の心身健康状態を良好に維持させる可能性も示唆されました。
- 親子体操の開発
 - 子どもの成長発達にあわせたベビーマッサージ・エクササイズや母子のふれあいと産後の身体を考慮した母子体操を歌の活用など継続しやすい工夫をし、同一対象者に3回実施
- 効果検証
 - 唾液アミラーゼ値と不安感が有意に低下、快感情やリラックス感が有意に向上
 - プログラム継続理由は、母子関係や母親自身への効果の実感、習得の容易さなど
2. 模擬産婦やICTなどを活用したシミュレーション教育
 - 看護師・助産師教育におけるシミュレーション教育、模擬産婦養成などの研究を実施しています。



講座テーマ紹介

- ベビーマッサージ・エクササイズ
- 親子ふれあい体操
- 育児期ママのエクササイズ
- 更年期女性のエクササイズ など

アピールポイントなど

- 自治体における男女共同参画推進委員会、埼玉県看護協会助産師職能委員会、県内高等学校・学校評議員会にも参加させていただいております。



看護学科

金 さやか 助教

【研究分野】 慢性病看護、睡眠衛生、眼疾患患者の看護
 【キーワード】 慢性病看護、ナルコレプシー、睡眠障害、過眠症
 【URL】 <https://researchmap.jp/~1209>



ナルコレプシー患者の支援

研究概要

ナルコレプシー患者のQOL（Quality of life）向上につながる看護支援モデルの開発を目的として研究を行ってきました。

ナルコレプシーは日中の強烈な眠気の特徴とする過眠症です。個人により違いはあるものの、情動脱力発作（笑いや驚きなどの感情の動きに伴い生じる筋力の脱力）、入眠時幻覚や金縛りなどの症状が生じます。有病率は世界で2,000人に1人（0.05%）ですが、日本では600人に1人（0.16%）と、他国と比べて高いとされています。子ども・青年期の発症が多いことから学業や仕事への影響も大きく、患者のメンタルヘルスにも問題が生じやすいことは知られていますが支援には課題があり、その解決に向けて研究をしています。

研究紹介

現在まで

- 患者を対象とした実態調査
- 患者の困難さに焦点を当てたインタビュー調査
- 患者のQOLへの影響要因の検討

今後の予定

- 医療機関を対象とした支援実態調査
- 支援ツールおよび看護モデルの開発

講座テーマ紹介

- 学校を対象とした睡眠衛生に関する講座
若年層で多くみられる睡眠の問題（睡眠不足、概日リズム障害、ナルコレプシーや特発性過眠症の概要）と学校生活への影響、学校での配慮などについてお話します。対象（教員、生徒）にあわせた講演が可能です。
- 一般の方を対象とした睡眠衛生講座
睡眠に関する一般的な知識、セルフケアについてお話します。

アピールポイントなど

睡眠は、健康や気分だけでなく労働生産性にも影響を与えることから、個人としても社会的にも重要なトピックといえます。研究としては過眠症に焦点を当ててきましたが、今後は、保健師・養護教諭・公認心理師としての知識を生かし、一般の人も含め、幅広い対象に対して、睡眠に関する健康教育の実施やメンタルヘルス支援を行いたいと考えています。



妊産婦の座位行動、シミュレーション教育

看護学科

柴田 由里子 助教

【研究分野】 妊産婦の座位行動に関する研究、看護・助産学生のシミュレーション教育の研究
 【キーワード】 妊産婦・女性の健康、座位行動、シミュレーション教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=312shiba>



研究概要

近年めざましい技術革新によって現代人の座位行動は増加し、覚醒時間の約50%以上を占めると報告されています。長時間の座位行動は、中高強度の身体活動と独立して総死亡率など様々な健康指標に悪影響を与えます。妊婦は解剖生理学的に心身に多様な変化を伴うため座位行動は一般人以上にリスクが高く、これを回避するために医療従事者の介入が必要となります。しかし、妊婦を対象とした座位行動の研究は非常に少なく、支援方法は見いだせていません。妊産婦や児の健康水準の向上のため、研究を進めています。

COVID-19流行に伴い臨地実習の中止を余儀なくされた看護学生に代替実習や分娩介助実習前のシミュレーション教育を提供するための研究を行っています。

研究紹介

- 妊婦における座位行動の実態と関連要因に対する研究
 - * 質的研究による、妊婦の座位行動の実態と修正可能な関連要因の検討
 - * 効果的な取り組み構築への示唆
- 看護・助産学生に対する代替実習やシミュレーション教育に関する研究
 - * 看護学生における学内代替実習の工夫と実践について
 - * 助産学生における分娩介助実習前の模擬産婦を活用した教育効果の検討



アピールポイントなど

- COVID-19の影響から、人々の座位行動はさらに増加しています。特に妊婦は、感染回避のため自宅で過ごす時間が増し、スクリーンタイムが増加することで座位行動が増加しているとの推察されます。この状況下で行動変容を促進できるような支援や環境などの開発のための研究に取り組み、母児の健康水準の向上に尽くします。
- 看護・助産学生に対して、臨地実習ができない状況でも代替実習やシミュレーションを取り入れて疑似的体験による臨地実習に近い教育を目指しています。



発達障がい児と親の支援・発達障がい児の看護

看護学科

瀧田 浩平 助教

【研究分野】 小児看護、発達障がい児、子どもの権利擁護
 【キーワード】 小児看護、小児保健、発達障がい、子どもの権利擁護
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2911aki>



研究概要

発達障がいをもつ児の多くは身の回りの生活習慣を含めセルフケアに困難を示すことが多く、児本人によるセルフケアが困難もしくは不十分なときは家族が担っています。児が元々もっている生きる力を最大限活用し、社会的な自立や発達をしていくためにもセルフケア獲得へむけた支援は重要です。

発達障がい児とその親へのセルフケア獲得に向けた支援ならびに支援する看護師や支援者に関する研究を行っています。

1. 発達障がい児の看護に関する研究
2. オレムセルフケア不足理論に基づいた看護実践に関する研究
3. 子どもに携わる看護師の権利擁護実践能力に関する研究

講座テーマ紹介

- 子どもの健康・疾患に関連した講座
 - ・子どもの身体的特徴や発達など基礎的な内容
 - ・子どもに関連した代表的な疾患など
- 子どもの安全に関連した講座
 - ・子どもの事故予防や救急処置
 - ・子どもの感染予防
- 発達障がい児に関連した一般講座
 - ・発達障がい児の特徴や現状
 - ・発達障がい児との関わり方（養育者・看護師・施設スタッフ向け）

アピールポイントなど

放課後デイサービスや児童デイサービスなどで子どもの健康や疾患、看護技術等に関する講演・研修を行ったことがあります。発達支援施設のスタッフや利用する子どもの養育者などを対象に講演や研修等をお考えでしたらお声掛けお待ちしております。

また発達障がい児と家族の支援や看護に関する研究などもお誘いお待ちしております。



外国人住民支援・シミュレーション教育

看護学科

千葉 真希子 助教

【研究分野】 母性看護学、助産学、国際協力
 【キーワード】 在留外国人支援、多職種連携、学内代替実習
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=275chi>



研究概要

- 妊娠・出産・育児はどんな方にとっても重要なライフイベントとなります。外国人住民や外国に由来する方々が日本で妊娠・出産・育児をする中で、言葉や文化の相違等により妊娠や育児に影響を及ぼすリスクが指摘されています。誰もが安心して妊娠・出産・育児するために必要な母子保健サービスについて、自治体や外国人支援団体、専門機関等の多職種連携や支援体制の整備について研究を行っています。
- 臨地実習が困難となる状況の元で、臨地での母性看護学実習に近づけた学内代替実習を行うことで臨地実習経験の少ない学生に実習教育の質が担保できるよう、工夫と実践を行っています。

講座テーマ紹介

- 母子保健サービス提供にむけた簡便なコミュニケーション、更なる情報提供
 - ・多くの母子保健サービス提供者が外国人住民への適切な情報提供に課題や葛藤を抱えながらサービス提供をされているなかで、やさしい日本語などをはじめとする簡便なコミュニケーション方法や情報提供の更なる可能性についての検討など。
- 国際協力についての出前講座等（国際協力出前講座/遠隔での講座も対応）
 - ・国内外においてなぜ国際協力が必要なのか、身近な国際協力とはどんなことから始められるのか、等についての情報や体験学習などに関するご提案等。
- 代替学内実習臨地実習（シミュレーション教育）
 - ・代替学内実習を余儀なくされる中で、臨地実習経験が少ない学生にとって学習段階として臨地実習が代替実習となるための工夫や実践の検討。



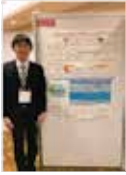
代替学内実習の1シーン



タイ Chiang Mai Rajabhat Universityでの出前講座の様子

アピールポイントなど

- これまで、自治体や外国人支援団体の皆様に研究のご協力いただいております。また、日本やタイでの小学校～専門学校、大学等への出前講座をさせていただいた経験があります。協働できる形をご提案させていただけましたら幸いです。



看護学科
辻本 健

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

助教

小児がん、ケアモデルの開発、概念構築
小児がんをもつ親、レジリエンス、ケアモデルの開発
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2711su>



小児がん患児をもつ親のレジリエンス向上のための ケアモデルの開発

研究概要

小児がん患児が健やかな社会復帰を果たすため、退院後その子どもを支えていく親に対するサポート体制を整えることは急務です。

小児がん患児をもつ親が逆境の体験に立ち向かったり、克服したり、逆境の経験によって強化されたり、変容させる能力を向上できるケアモデルの開発と普及に関する研究を行っています。

研究紹介

退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンスの概念の構造をモデル化するため、国内外の文献より小児がんをもつ両親のレジリエンスの概念分析を行い、本概念分析より既存の尺度から質問紙調査を作成し、分析を行いました。その結果、退院後または外来通院中にレジリエンスを高めることができればPTSDになる可能性が低くなることが検討されました。一方でレジリエンスとの関連がある出来事は明らかになりましたが、どの時期に、どのようなプロセスでレジリエンスが高まったのかは明らかにできず、探求していく箇所であると考えております。

今後は退院後の小児がん患児をもつ親のレジリエンス変化とレジリエンスの向上に影響を与えた体験のプロセスを質的に分析し、ケアモデルの開発と有用性の検証を行い、ケアモデルを全国に普及させることを目的とし研究を進めております。



講座テーマ紹介

小児がんの患児・家族等に関連した専門職者向けの講義

アピールポイントなど

小児専門病院での臨床経験を活かし、小児がん患児・家族への告知、小児がんの長期入院に伴う環境整備、小児がんの妊孕性に関する様々な小児がんの看護研究を行ってきました。今後、課題が山積している小児がん分野の研究を行い、看護を発展させるためのエビデンス構築の看護研究を行っていきたくと考えております。

慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力獲得支援

看護学科

望月 浩江 助教

【研究分野】 小児看護学
 【キーワード】 小児、慢性疾患、セルフケア、子育て支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=138mochi>



研究概要

慢性疾患をもつ子どもは、成長発達に伴い親が子どもに代わって行っていた病気のケアを子ども自身が獲得し、日常生活の中で実施していくことが必要になります。慢性疾患をもつ子どもが自分自身で病気の管理を行っていく力（＝セルフケア能力）を獲得するための支援について、研究しています。

研究紹介

●慢性疾患をもつ子どものセルフケア獲得支援に関する研究

慢性疾患(特に1型糖尿病)をもつ子どもがセルフケア能力を獲得していくために、親は子どもにどのような関わりを行っているのか、どのような困難があるのか、子どもはどのようにセルフケア能力を獲得していくのか、そのための支援について研究を行ってきました。

●慢性疾患をもつ子どもへの保育所での支援に関する研究

慢性疾患をもつ幼児期の子どもの保育所生活において、保育所看護職がどのように保育士や親と連携しながら子どものセルフケア能力高める支援をしているのか、また親のケア能力を高める支援を行っているのか明らかにし、保育所における慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力を高める支援の看護方法モデルを開発していきたいと考えています。

講座テーマ紹介

- 慢性疾患をもつ子どものセルフケア能力を獲得への支援について
- 慢性疾患をもつ子どもの保育所・学校での支援について

アピールポイントなど

小児病棟での臨床経験から、慢性疾患をもつ子どもと家族への支援について研究を行ってきました。慢性疾患をもつ子どもがセルフケア能力を獲得していくための支援、慢性疾患をもつ子どもが保育所や学校で生活しやすい支援体制を構築するための研究に、取り組んで参りたいと考えています。



喪失と「こころ」のケアの研究 自己回復とスピリチュアリティ

看護学科

山田 牧子 助教

【研究分野】 死や病氣障害、災害など喪失に向き合うケアの現場での「こころ」のケアと倫理
 【キーワード】 スピリチュアルケア、ケアの倫理、意思決定支援、レジリエンス
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=313yamada>



研究概要

困難な病氣や障害、身近な死に直面することは、生きることそのものに疑問を抱き、人生の意味、死後の恐怖などについて苦しみを抱くことが起こる。これらをスピリチュアル・ペインといい、苦しみを支えていくことをスピリチュアル・ケアという。その実践の倫理やスピリチュアルペインを抱く人々の意思決定支援について、研究している。

研究紹介

東日本大震災の被災地でこころのケアを継続して行う宗教者のケアラーとしての倫理的アイデンティティ形成のプロセスについての研究。スピリチュアルケアの実践に必要な倫理的能力を、ケアラーがどのように発達・発展させてきたのかについて宗教者の語りから学び、スピリチュアルケア実践に必要な倫理について明らかにする。

1. 東日本大震災で被災した高齢者のレジリエンスとスピリチュアリティ
2. 東日本大震災で心のケアを行う宗教者の倫理的アイデンティティの形成について
3. 不登校の子供たちのスピリチュアリティとレジリエンスを支える場の研究

講座テーマ紹介

- ・ 困難をとる中でのレジリエンスを高める
- ・ スピリチュアルケアについて学ぶワークショップ
- ・ 患者と家族のこころのケアについて

アピールポイントなど

生と死の問題は宗教や哲学などを通して人間が問い続けてきている問題で、生きる意味は、患者さんでなくとも、私たちも抱え付き合っていかなければならない問題です。スピリチュアルケアについて学ぶことは、よく生きることにもつながっていきます。



看護学科

吉村 基直 助教

【研究分野】 専門職連携
 【キーワード】 専門職連携教育、多職種連携教育、尺度
 【URL】 https://www.jstage.jst.go.jp/article/spujhcs/8/0/8_1/_article/-char/ja/



専門職連携教育（IPE）の評価研究

研究概要

近年、保健医療福祉の多様なニーズに対応していくために、各専門職の専門性だけでなく、職種間連携の重要性が増えています。しかし、IPEは発展途上であり、特に、評価研究においてはその実証性が課題として挙げられています。現在IPEの評価方法は様々であり、各教育機関の実情に合わせて独自に行われているものが多いです。そこで、汎用性の高い評価尺度を開発し、IPEプログラムの客観的な評価指標としての活用や、教育プログラムの改善を目的に研究に取り組んでいます。

研究紹介

既存の尺度や先行研究を参考に、IPEに必要とされる技術や態度、コンピテンシー等において共通する要素について検討し、5つの下位尺度と24の質問項目から構成されるIPE評価尺度（原案）を作成しました。 ※調査項目の詳細は上記URLの本研究の文献よりご覧になれます。

IPE評価尺度を用いて本学の学生を対象に調査・分析を行ったところ、下記の3因子11項目が抽出されました。今後は、この結果を元に更なる検討を重ねて、尺度の精練を図っていこうと思っています。

- 第1因子：協働的能力
- 第2因子：提言力
- 第3因子：組織形成力

因子名	質問項目	因子分析結果 (N=267)		
		1	2	3
第1因子 協働能力	他者に興味・関心を持つことができる	0.781	0.162	0.371
	チーム活動に意欲的に参加することができる	0.776	-0.154	0.019
	チームメンバーが集めた情報をメンバーと共有することができる	0.645	0.112	0.026
	チームメンバーが集めた情報をメンバーと共有することができる	0.628	0.157	0.005
第2因子 提言力	チーム活動を通して、自分と他者の価値観の違いに気づくことができる	0.564	0.062	0.013
	自分の考えを分かりやすく伝えることができる	-0.212	0.823	0.152
	自分の体験、考えを振り返り、言語化できる	0.126	0.747	-0.16
	課題解決に向けて、具体的な方法をチーム全体で検討することができる	0.246	0.563	0.023
第3因子 組織形成力	自分の意見を述べることができる	0.092	0.425	0.091
	他者の考えを引き出す関わりができる	-0.01	-0.033	0.850
	チームが形成されていくプロセスを自分で振り返ることができる	-0.067	0.135	0.672
	他者の気持ちをよくみ取ることができる	0.241	-0.073	0.568
<因子情報>		第1因子	第2因子	第3因子
		0.649	—	—
		0.530	0.589	—
		尺度全体 $\alpha = .870$		

講座テーマ紹介

- ・専門職連携に関連した講座「チームについて考える」

アピールポイントなど

【文献】

- ・吉村基直, 田口孝行, 常盤文枝. 保健医療福祉系大学における専門職連携教育（IPE）評価尺度の作成. 保健医療福祉科学. 2019; 8 : 1-9.

【科研費】

- ・基盤研究C 専門職連携教育（IPE）評価尺度の因子構造および信頼性・妥当性の検討（研究代表者）

【所属学会】

- ・日本保健医療福祉連携教育学会



理学療法学科

今北 英高 教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】基礎理学療法学分野
COPDモデル、心不全モデル、糖尿病モデル、慢性腎不全モデル、肝障害モデル
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=327ima>

研究概要

呼吸・循環・代謝は、生きていく上で欠くことのできない組織・機能であり、その重要性は周知の事実であります。私は主に、呼吸器疾患モデル、心不全モデル、腎不全モデル、肝障害モデル、血管閉塞モデル、横隔神経切除モデルなどを作成し、その後を生じる生体反応や病態を分析したり、運動療法や物理療法、栄養療法、薬物療法などの介入における効果を検証したりしております。分析手法は、生理学的、免疫組織化学的、生化学的手法を用いております。



正常な腎組織

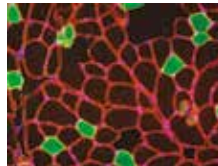


腎不全モデルの腎組織

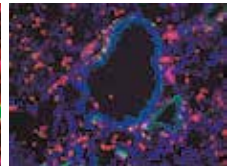
講座テーマ紹介

2020年度から2021年度に実施した実験課題のタイトルです。

- ・慢性腎不全モデルに対する軽度高圧酸素療法の検証
- ・心不全モデルラットに対する糖質摂取が心機能に与える影響
- ・糖尿病性心筋障害モデルラットを用いた高強度インターバルトレーニングが及ぼす効果
- ・肺気腫モデルラットに対するMild Hyperbaric Oxygen Therapyが骨格筋に及ぼす影響
- ・呼吸器疾患モデルに対する運動療法および加圧酸素療法の併用が筋機能へ及ぼす影響
- ・薬理的筋損傷モデルラットにおける筋再生への週齢別検討
- ・関節固定後の筋萎縮における分岐鎖アミノ酸摂取によるAkt/mTOR系の反応など、多角的に実験してきました。



骨格筋の免疫染色



肺組織の免疫染色

アピールポイントなど

呼吸・循環・代謝系疾患モデルを用いた研究は20年以上続けております。その間に大学院にて多くの修士修了生、博士修了生とも共同で実験を継続しております。さらには、留学経験からアメリカや台湾の研究者とも交流を続けております。

様々なモデルにおいての介入効果についての共同研究をお待ちしております。



Fascia（ファシア）に関連する研究開発

理学療法学科

今北 英高 教授

【研究分野】 運動器分野、ファシアに関する治療開発やハイドロリリースの研究
 【キーワード】 Fascia、ファシアハイドロリリース、ファシアモデル開発
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid/334.html?pdid=327ima>



研究概要

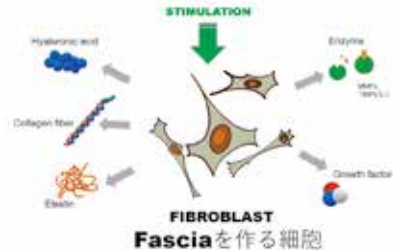
日本において、fasciaというものの知識や概念は、いまだ浸透しているとは言えませんが、2018年6月ジュネーブにて、世界保健機関（WHO）が約30年ぶりにICD-11（国際疾病分類の第11回改訂版）を公表し、この改定によって、『fascia』が基本構造物や原因部位として追加されました。世界的にはfasciaに関する研究が盛んに行われてきており、その構造や機能が運動器、特に“動き”と“痛み”に大きく関わるということが明らかになってきています。身近でいえば、肩こりや腰痛症などの1つの原因とも言われています。また、動きと痛みといった医療関連だけでなく、小じわやたるみといった美容業界でも大変注目を浴びてきており、その研究開発は国際的にも盛んに行われています。

研究紹介

臨床の医師、理学療法士、鍼灸師、柔道整復師などと症例を共有し、治療効果について日々研鑽しております。特に、医師が実施するファシアハイドロリリースに関しては治療効果が高く、学術論文にも掲載されているほか、メディア（雑誌、テレビ、ラジオなど）でも多く取り上げられています。理学療法分野においても臨床家と一緒に治療手技に関して、話し合いの場を持っています。私は、基礎研究の方面で、それらの病態変化や介入効果を検証しています。

講座テーマ紹介

- ・ Fasciaの解剖生理学的意義
- ・ Fascial pain syndrome
- ・ ファシアハイドロリリース
 など、ファシアに関する初歩的な理解から、それに対する介入効果について講演可能です。



アピールポイントなど

2018年11月に、ドイツベルリンで開催されたファシアに関する国際会議『5th International Fascia Research Congress』にて、『Best Basic Science Abstract Award』を受賞しました。

2022年2月に、Fasciaに関する秀作ともいわれる洋書『Fascia: The Tensional Network of the Human Body』の第2改訂版にて、Chapter 7.23 『Hydrorelease of Fascia』を共同執筆しました。



理学療法を対象とした疾患に対する運動の効果検証

理学療法学科

金村 尚彦 教授

【研究分野】 理学療法学、リハビリテーション医学
 【キーワード】 運動器、中枢・末梢神経の神経可塑性、加齢
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=164kane>



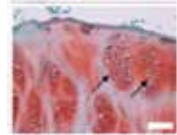
研究概要

運動器疾患や廃用、末梢神経や脊髄神経などの神経可塑性に関する運動介入がどのような効果をもたらすのか、組織学や分子生物学的手法による分析と、バイオメカニクス的手法により理学療法の効果を検証しています。

研究紹介

1.異常関節運動が関節内環境へ与える影響に関する研究

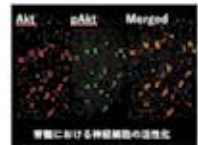
変形性膝関節症や靭帯損傷などにおける異常な関節運動が関節内組織や神経機能にどのような影響を与えるのかについての研究を行っています。



変形性関節症モデルラットの関節軟骨像

2.末梢神経損傷後の理学療法効果に関する研究

運動介入により末梢神経損傷後や脊髄神経などにどのように活性化されるか、神経機能回復に着目した研究を行っています。



脊髄における神経繊維の活性化

3.加齢における運動が神経機能に与える影響に関する研究

加齢における身体機能低下を予防するためには、運動することがよいとされていますが、運動の効果について、筋や神経に着目し研究を進めています。

4.身体運動におけるバイオメカニクス

人の動きを捉えるために、三次元動作解析装置や表面筋電計、加速度計などの計測装置により、運動機能や障害の定量的評価を目指しています。

講座テーマ紹介

変形性膝関節症の発症と運動療法の効果について、研究室で実施してきた基礎研究や身体運動におけるバイオメカニクス研究における研究、臨床研究の知見を踏まえた講座

アピールポイントなど

人や動物を対象として基礎研究から得られる結果をもとに、運動の身体への与える効果を研究しています。



健康づくり・地域づくりシステムの開発

理学療法学科

田口 孝行 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、地域支援、ヘルスプロモーション
 【キーワード】 健康づくり、フレイル予防、地域づくり
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=165tagu>



研究概要

「地域包括ケアシステム」および「地域共生社会」において、住民主体による地域課題の解決力強化や体制づくりが必要であることが提言されています。

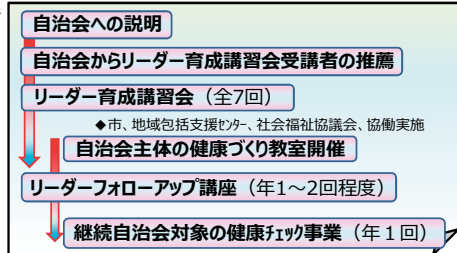
自分個人の健康課題として内向きにとらえるのではなく、地域全体の健康課題として外向きにとらえる志向を持って、**住民が主体となって課題解決（健康づくり）に取り組むことができるシステム（地域づくり）開発**に関する事業研究を行っています。

研究紹介

1.自治会主体の健康づくり活動システムの開発

市、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携による事業研究。

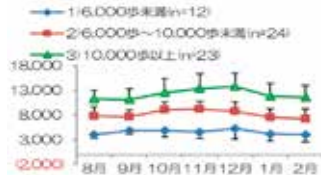
- 1) ご当地体操の開発（ホースター・DVD作成）
- 2) 「健康づくりリーダー育成講習会」プログラム
の開発・事業実施支援
- 3) 効果・事業成果に関する研究
- 4) 参加者アンケート調査 等



2.「毎日1万歩運動」の効果検証（受託研究）

歩数計測、体力測定結果、血液検査結果、医療費 等から事業の効果検証を実施。

- 開始初月の平均歩数から、6か月間の平均歩数
をある程度予測できる可能性。
- 6,000歩以上の歩数を6か月間継続することで、
下肢筋力や複合動作能力も向上。・・・など



講座テーマ紹介

- 健康づくり/介護予防**リーダー育成講習会**、住民が主体となった**地域づくりのための講習会**など
- **地域支援事業**への関わりのポイント：専門職が地域支援事業に関わる際の留意点など
- **パーキンソン病の在宅支援**：パーキンソン病に特化した在宅生活支援についての解説

アピールポイントなど

自治体における介護保険運営協議会（会長）、地域包括ケア推進協議会（会長）、介護保険認定審査会等にも関わらせていただいております。

自治体との政策等に関する共同研究、企業とのヘルスプロモーション等に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。



理学療法学科

田口 孝行 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、フレイル予防、多職種連 (IPW/IFE)
 【キーワード】 多職種連携教育 (IPE)、多職種連携実践 (IPE)、大学間連携教育、フレイル予防
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=165tagu>



フレイル予防・地域リハビリ・多職種連携

研究概要

フレイルには、身体的・精神的・社会的フレイルが存在します。フレイル研究の多くは、スクリーニングとして早期発見に焦点が当てられます。しかし、その後のアプローチ方法についても検討が必要と思います。たとえば、社会的フレイルは身体的フレイルを引き起こすと言われ、社会参加（他社との交流、趣味活動、ボランティア活動など）が強く推奨されています。しかし、すぐにこれらを実行に移すことは困難であり、直接的にこれらを勧めるアプローチにも無理があると思います。このように、アプローチ方法について検討を進めております。

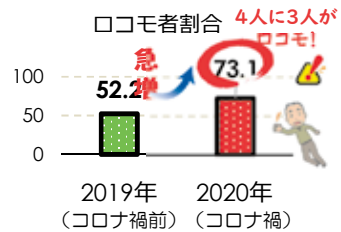
研究紹介

1.フレイル予防事業（受託研究・共同研究）

- フレイル・サルコペニア・ロコモ該当者の状況調査
- フレイル予防事業導入に関する事業研究
「フレイル予防サポーター養成テキスト作成」、
「講習会プログラム作成・実施」、事業効果検証

2.総合事業サービスCにおける遠隔併用リハビリ

- 実施方法と効果検証
- 遠隔リハビリにおけるICTの活用方法



講座テーマ紹介

- フレイル・サルコペニア・ロコモ予防、介護予防に関連した一般向けおよび専門職者向けの講座
（一般者向けには、楽しく講座を聞けるよう工夫しております）
「体力測定結果の意味や見方」、「からだの“痛み”を軽くする運動方法」
「フレイルってなに？ロコモってなに？サルコペニアってなに？」：基礎的な知識と改善のためのヒント
「外出のすすめ」：外出することで得られる刺激についての解説
- 家族介護、介助方法について実技も合わせた講座
「楽に行う介護方法」：楽な介護方法についての実技指導
「家族も一緒に体力アップ」：当事者と一緒に行う運動方法を紹介
- 多職種連携に関連した講座
「多職種連携教育 (IPE) ・多職種連携実践 (IPE) の基本」
「大学間連携教育」：彩の国連携力育成プロジェクトに関する実践紹介

アピールポイントなど

ご当地体操の作成・運営・普及に関する助言等も行っております。

今までに関わったご当地体操は、「そらまめ体操（春日部市）」「なまらん体操（吉川市）」「ながちか体操（行田市）」「バリボリック体操（草加市）」「転倒予防基本体操（足立区）」などです。

『健康づくりリーダー育成講座テキスト』、『フレイル予防サポーター育成テキスト』



理学療法学科

山崎 弘嗣 教授

【研究分野】 からだを動かす原理の探求、応用運動学、運動身体学
 【キーワード】 日常動作、運動協調性、最適性、運動動作分析、姿勢調節、運動制御
 【URL】 <https://researchmap.jp/hym6541>



運動身体の微調整を読み取る

研究概要

日常生活の動作において、**ほとんど無意識***に行われている**身体運動の調節**は、心的負担の経済性や最適性の観点からも、とても高度かつ重要な身体機能です。この仕組みは『**姿勢調節**』や『**運動制御**』と呼ばれ、応用運動学の分野で研究されています。

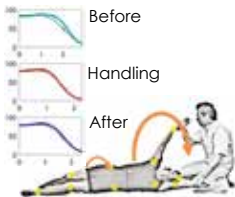
*例) 『ニュース』と言う前から、唇の形は無意識のうちに、すでに『ニ』の次の『ユ』になっている。

この制御機能がうまく作動しているかどうか、普段は気になりませんが、もしかすると、気づかないレベルで、調子が少しずつ変わってきているかもしれません。昨今では、この変調を予知して、健やかな日常動作の基盤を保つための**身体動作の脆弱化の予知・予防**の方法開発も求められています。

『からだを動かす原理』の探究をもとに、**運動中の身体で行われる数多くの微調整を簡単に読み取り見える化する**方法の開発などへの応用が展望できます。

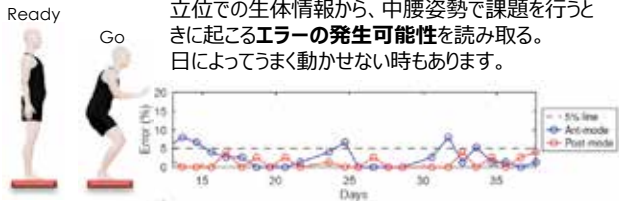
研究紹介

身体治療操作の効果を見える化



運動治療では、対象者の**気づかないレベル**で体の動き方が変わっています。

体がうまく動く状態かどうか 動く前に読み取る



立位での生体情報から、中腰姿勢で課題を行うときに起こる**エラーの発生可能性**を読み取る。日によってうまく動かせない時もあります。

歩くのに助けがいるかどうか 歩く前に読み取る

腰かけの姿勢で片足が上がるかどうかではなく、**足のあげ方**に歩行能力の違いが出てきます。



講座テーマ紹介

- **運動身体学**の一般向けの講座
- **運動協調性、運動最適性**に関する一般向けおよび専門職向けの講座
- リハビリテーションにおける**運動動作分析**に関連した講座 など

アピールポイントなど

応用運動学は、運動科学・工医学・認知情報科学・システム科学分野などの**学際的分野**です。実践的な応用を視野に入れたご提案や共同研究のお誘いもお待ちしております。



効果的な健康増進を考える – 健康寿命延伸に対する提案

理学療法学科

井上 和久 准教授

【研究分野】 身体バランス、健康寿命延伸、生活環境、日常生活に関する理学療法学
 【キーワード】 バランス、健康増進、予防
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=166ino>



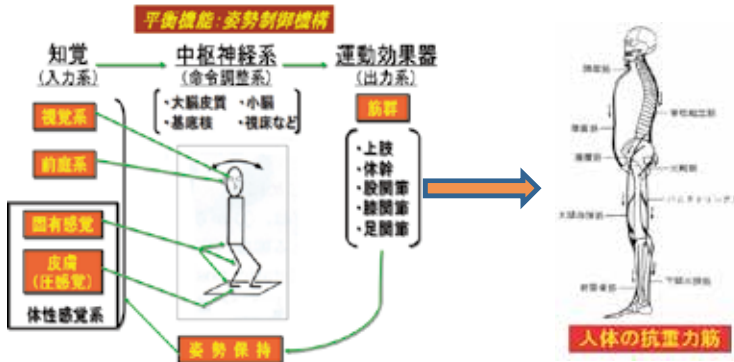
研究概要

「身体バランス機能低下を予防するトレーニング」「機器を利用した運動効果」「運動習慣の導入効果」など。

研究紹介

現在進めている研究として、下記のテーマに関連した内容を実施しています。

1. 健康増進（生活環境支援）に関して
2. 下肢筋力と重心動揺との関係について
3. 義肢・装具について
4. 規範意識について



講座テーマ紹介

1. 健康のために取り組む生活習慣病の対策
 健康を維持するために生活習慣病の実際と対策について講義をさせていただき、普通の生活の中で取り組む具体的な運動について体験等もさせていただきます。
2. 身体バランス（平衡機能）について
 人間が立位を保持するためには、身体のどのような仕組みでバランスをとっているかについて講義し、また、バランスを測定する機器について紹介させていただきます。

アピールポイントなど

2014年6月より日本地域理学療法学会の運営に関わっており、日本予防理学療法学会の運営にも6年間関わっていました。また、全国レベルの研修会・学会等の運営にも参画してきました（第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会：準備委員長、日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会2020：合同学術大会長）。



理学療法学科

小栢 進也 准教授

【研究分野】 リハビリテーション

【キーワード】 変形性膝関節症、膝の痛み

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=267oga>

膝の痛みを予防するには ～軟骨がすり減っても元気な膝を保つために～

研究概要

変形膝関節症は軟骨のすり減りによって生じ、膝関節に痛みを生じる疾患です。しかし、軟骨がすり減った方のうち、70%は痛みを感じないと言われています。定期的な運動、適切な体重、正しい病気の理解、健全な精神状態、負担のかからない歩き方、これらを維持することで**膝の痛みは予防ができます**。私たちは膝の痛みを予防、軽減する方法を研究しています。

研究紹介

歩行による膝関節ストレスの検討

筋骨格シミュレーション解析、膝回旋解析によって膝関節へのストレスを定量化を試みています。膝関節に負担をかけない歩き方を研究しています。



膝の痛みを予防するフィットネスエクササイズ「くやくにや体操」の開発

膝の痛みを有する人は、膝をこわばらせた硬い動きをします。私たちの研究室はこわばった動作から、しなやかな運動をとり戻すエクササイズを開発しています。

健康増進シューズ、ウェア開発

膝関節へのストレスを最小化する靴、インソール、ウェアの開発に取り組んでいます。

講座テーマ紹介

膝の痛みを予防する方法
効果的な筋力トレーニングの方法

アピールポイントなど

子ども、部活動、スポーツ選手、勤労者、高齢者を対象とした体力測定会の実施により、個別にトレーニング法を指導します。

呼吸循環系・姿勢動作に関する評価・治療・支援機器開発



理学療法学科

木戸 聡史 准教授

【研究分野】 内部障害理学療法学、リハビリテーション工学、運動生理学
 【キーワード】 心肺系トレーニング、転倒予防と検知、支援機器、栄養と身体機能
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=171kido>



研究概要

本研究室では主に中高年・高齢者・障がい者における内部機能系・姿勢・動作の、評価・治療・支援を行うことで、ADL・QOLの維持及び向上を図るための機器開発及び新たな知見の解明を行っています。

機器開発に繋がる研究を多く行っているため、研究成果の社会還元を実現すべく、研究初期段階から産学共同研究を行い、助成金等を活用して市場ニーズを意識した研究を行っています。

研究紹介

- 呼吸器のトレーニング支援に用いるシミュレーションモデリング
- Chest Wall Motion評価によるCOPD患者スクリーニング手法の開発研究
- 呼吸筋トレーニングの生理学的メカニズム解明と最適化研究
- 高齢者・障がい者における新たな転倒・転落予測手法の開発
- トイレ・浴室での異常検知システムの開発
- 熱画像センサを用いて転倒・転落の検知通報を行う見守りシステム開発
- ICU入室患者・心不全患者の栄養・身体機能関連研究

*詳しくは研究室ホームページで紹介をしております。<https://kido-lab-info.com/>



講座テーマ紹介

上記研究テーマに関するもの

アピールポイントなど

- 埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金：プライバシーを保ちながら転倒転落等を感知・通報するシステムの開発
- 科研費（基盤研究C）：リハビリテーション評価および治療に使用するための呼吸器シミュレーションモデリング
- 科研費（基盤研究C）：運動時呼吸負荷トレーニングによる呼吸応答戦略の解明と効果予測モデルの構築



理学療法学科

久保田 章仁 准教授

【研究分野】 高齢者の身体活動
 【キーワード】 行動変容、行動記録、低強度身体活動、座位行動、健康づくり
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=170kubo>



健康づくりのための行動変容

研究概要

生活習慣病にならず、無理のない生き生きとした暮らしを送るために 日常生活でいかに活動量を維持していくか

- ・座位行動時間を短くする
- ・低強度身体活動を増やす

研究紹介

1. 健康づくりのために個々の行動変容をねらう
 - ・3軸身体活動量計にて、座位行動、歩数、低強度身体活動の量と時間を計測
 - ・自分だけの行動記録票の作成
2. 身体活動に季節性の特徴がみられるか

講座テーマ紹介

高齢者大学「体力を確認する」	A市
未来大学「楽しく体力アップ」	B県
市民大学「健康講座」	C市

行動目標を達成するまでの5段階の考え方を学ぼう

活動量計を使ってみよう

生活行動記録票を作ってみよう

身体活動量って何？

座りっぱなしって体に良くない？

日常行っている生活活動っていっぱいあるね!!

一日の生活活動を見直してみる?!

リラクゼーション、必要な時にしてる?!

あんなとき、こんなときのストレッチ

靴の選び方

綺麗に歩いて体のラインもきれいに-ノルディックウォーキング-のすすめ

骨のための食事と栄養

おうちでできる楽楽筋トレ

転び方と骨折のいろいろ

アピールポイントなど

出会う全ての方に、NNK（ねんねんころり）でなく、PPK（ぴんぴんころり）を願います



女性のライフステージにおける健康支援

理学療法学科

須永 康代 准教授

【研究分野】 ウィメンズヘルス理学療法学、バイオメカニクス
 【キーワード】 ウィメンズヘルス、姿勢、動作、運動、骨盤、妊娠、産後
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=173suna>



研究概要

女性の生涯にわたる健康支援を目的として、運動学的解析をもとに身体的変化を捉え、各年代における身体機能の諸問題に対する予防・改善のための支援について検討を行っています。

具体的には、思春期における月経周期に関連したスポーツ傷害、妊娠中～出産後の身体的変化に伴う姿勢・動作の問題や痛み、中高年女性の骨粗鬆症や尿失禁など、各年代でのライフイベントに伴う身体機能の変化や加齢による影響など、ライフステージに即した健康課題の解決に向けて研究に取り組んでいます。

研究紹介

■ 思春期 ■



月経周期における身体的変化とスポーツ傷害に関する検討を行っています。

■ 成熟期 ■



妊娠中～産後の姿勢・動作変化の解明や、骨盤ベルトの姿勢安定性への効果検証を行っています。

■ 更年期・老年期 ■



骨粗鬆症予防や尿失禁予防のための調査、指導を行っています。

講座テーマ紹介

■ 中高生の月経とスポーツに関する講座

スポーツに取り組む中高生、指導者など一般の方向けの講座

■ 妊娠中から産後の問題（腰痛・尿失禁など）に関する講座

妊娠中・産後の一般の方向けの調査・運動指導、専門職向けの講座

■ 骨粗鬆症や尿失禁などの予防講座

一般の方向けの調査・運動指導

アピールポイントなど

様々な女性の健康問題に対する支援に取り組んでいます。特に、妊娠中から産後の健康問題に対し、地域の産婦人科や整形外科等との支援体制構築に力を入れています。

論文：Changes in motion patterns among pregnant women turning while carrying an object after rising from a chair. Sunaga Y, et al., Int. J. Ind. Ergon. 2020; 80

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0169814120306478?via%3Dihub>

学会：一般社団法人 日本理学療法学会連合 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会 理事

アライメント評価による足底挿板療法 義肢装具療法のエビデンスと未来



理学療法学科

清水 新悟 助教

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

足底挿板療法、スポーツ工学、義肢装具学
アライメント評価、足底挿板、腰部側弯症、外反母趾、治療効果
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=329shimi>



研究概要

現在、足底挿板は、スポーツジムや靴屋など様々な箇所で作成、販売されている。しかし、アライメント評価を正しく行って、製作しているのかは、疑問であり、専門分野でない方々が、マニュアルで製作しているのが多数である。私は、人の動きを変化させる足の裏に貼るパッドや足底挿板の研究を何十年と行ってきた。人の動きを細かく評価することで、正しい足底挿板療法や義肢装具療法が可能となる。

研究紹介

■腰部側弯症に対する足底挿板療法の有効性

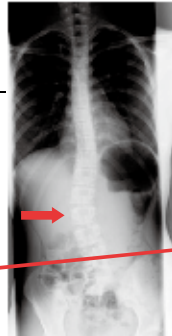
特発性側弯症に対し、足底挿板療法を行い、足底挿板装着6か月後に、cobb角 28度から14度、PCRLが 6°から3°に改善した。



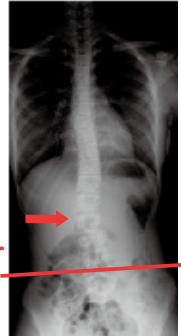
パッド装着時



完成図



装着前



装着6か月後

清水新悟 他、思春期側弯症腰椎カーブに足底挿板療法を用い、側弯の改善をみた1症例、臨床整形外科、第46巻3号、pp269-173、2010

■外反母趾に対する足底挿板療法の有効性

足底挿板療法にて、装着6か月後に、外反母趾角が、右28度が18度、左31度が25度へ改善した。M1M2角、M1M5角も改善した。



骨誘導パッド



パッド装着時



装着前



装着6か月後

清水新悟 他、外反母趾角を短期間で改善させるための足底挿板療法の試み、理学療法学、第36巻6号、pp.359-365、2009

アピールポイントなど

- ・病院や福祉施設との臨床研究の実施
- ・企業様との義肢装具や歩行支援機器などの開発
- ・義肢装具療法の評価などの研修会の実施
- ・サッカーチームのトレーナー活動

足部アーチ機能を備えた足底挿板の開発 義肢装具療法のエビデンスと未来



理学療法学科

清水 新悟 助教

【研究分野】

足底挿板療法、スポーツ工学、義肢装具学

【キーワード】

足部アーチ、バネ定数、減衰粘性時間、カーボン、足底挿板

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=329shimi>



研究概要

足部アーチの機能の中で衝撃吸収機能があるが、この衝撃吸収機能は明確になっていないのが現状である。そこで正常アーチ足と低アーチ足の機能を計測して比較した結果、低アーチ足は、バネ定数と減衰粘性時間に差がみられることを報告した。我々は、この差を埋める材料として、カーボンに着目し、カーボン製の足底挿板を計測した。低下した足部アーチの衝撃吸収機能を補う器具は、足底挿板だけでなく、ロボットの足部、義足の足部、靴などに応用可能である。

研究紹介

足下には荷重計測器を置き、下腿の長軸上に12.5kgの荷重を掛けたときの足部アーチの高さ h と荷重 Fr を計測した。



計測装置



ヒールあり

ヒールなし

ばね定数 $k(N/mm)$ は、力 $f(N)$ を内側縦アーチの変化した距離 $d(mm)$ で除した値
減衰粘性時間は、錘を膝上に載せたときのアーチ高さが定常状態に入った瞬間の時刻から錘を載せた時刻を引いた時間 T_s [sec]

正常アーチ足と低アーチ足の比較

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
正常アーチ足	58.3	0.73
低アーチ足	25.0	1.23

カーボン足底挿板はトリミングを浅くすることで調整が可能であり、正常アーチ足の衝撃吸収機能を備えたカーボン足底挿板の開発を行っていく。

カーボン足底挿板ヒールあり

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
2層	72.1	0.49
3層	64.5	0.38
4層	204.0	0.51

カーボン足底挿板ヒールなし

	バネ定数[N/mm]	減衰粘性時間[sec]
2層	39.5	0.56
3層	49.0	0.61
4層	72.1	0.56

<参考文献>

- ・清水新悟 他、機械的特性に基づく低アーチ足の衝撃吸収機能の補償、バイオメカニズム25・慶應義塾大学出版会、pp.139-148、2020
- ・清水新悟 他、扁平足に対するフットプリントとアーチ高率値の信頼性、臨床バイオメカニクス、Vol.30、pp.243-248、2009

講座テーマ紹介

- ・入谷式足底挿板導入コース
- ・知覚連動インサート
- ・NPGインサート

地域での自立支援ケアに関する研究

作業療法学科

臼倉 京子 教授

【研究分野】 リハビリテーション、社会福祉
 【キーワード】 地域リハビリテーション、自立支援、社会参加、通所介護、就労支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=182usu>



研究概要

介護や地域リハビリテーションに関する研究を行っています。

- ・通所介護における生活行為を視点としたマネジメントに関する研究
- ・要介護高齢者の生活期リハビリテーションマネジメントに関する研究

研究紹介

- ・通所介護における生活行為向上を視点とした総合的なマネジメントモデルの開発に関する研究
- ・通所介護における要介護高齢者の機能訓練の質を高めるために、主体性を伴うとともに社会的な自立を促進する総合的な自立支援型機能訓練マネジメントモデルの構築に関する研究
- ・多主体協働による地域課題解決を推進するための体制・方法に関する研究

講座テーマ紹介

- 生活課題解決型機能訓練研修
- 心身機能の維持回復から社会参加に至るまでの戦略的自立支援ケアの実践研修
- 福祉用具講座（高齢者と体の不自由な方の生活に便利な用具を知ろう）
- 住宅改修講座
- シーティング講座
- 生活行為と作業療法
- 利用者の意向確認の現状・課題、対応方法
- 本人の想いに沿ったケアを展開するためのスキルアップ研修会：「高齢者疑似体験プログラムの提案」
- A銀行新人社員研修：「新入社員向けノーマライゼーション研修」

アピールポイントなど

県や市町村との研修会・講座、企業との共同研究・講座の実績もあり、今後も積極的に地域貢献に努めてまいります。よろしくお願いいたします。



作業療法学科

川俣 実 教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】子どもの運動能力と指導、発達障害児の保護者に対する育児支援
発達障害、運動能力、作業療法、感覚統合療法
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=179kawa>

発達障害児の理解と指導

研究概要

日本では、障害者総合支援法に基づき、障害児を対象にしたサービスが展開されています。児童発達支援のガイドラインでは、「個々の障害の状態及び発達の過程・特性等に応じた本人への発達支援を行うべきとされ、本人支援の領域は「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つで、とても幅広い状況にあります。そのため、児童発達支援に携わる支援員の役割は、多様で高度な能力を求められています。そこで、支援員を対象にした発達障害児の理解と指導に関する研修会の企画についての研究を行っています。

講座テーマ紹介

●発達障害児の理解と指導に関する講座

(事業所内での一般支援員向けの講座)

- ・事業所に出向いて、専門用語は極力減らした分かり易い講義や実技の指導をします。
- ・事業所を利用されている障害児の事例検討を行います。

(事業所内での作業療法士等の療育専門職員向け講座)

- ・事業所に出向いて、専門職の方への講義や実技の指導をします。
- ・感覚統合療法や作業療法の専門知識を盛り込んだ指導をします。
- ・事業所を利用されている障害児の事例検討を行います。

(自治体が企画する講座)

- ・感覚統合療法や作業療法の専門知識を生かした講義や実技の指導をします。

アピールポイントなど

自治体が主催する発達支援事業における講師・指導者としてだけでなく、事業の参画にも参加させて頂いております。同様に事業所での企画もご相談下さい。



高齢者の睡眠と昼間の活動との関係性

作業療法学科

久保田 富夫 教授

【研究分野】 睡眠障害、昼間の活動量と内容

【キーワード】 睡眠、活動

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=176kubo>



研究概要

睡眠・時間生物学に関する研究

・高齢者の在宅生活における、昼間の活動量と生活リズムが夜間の睡眠にどのような影響を与えているのかなどの研究を行っている。

研究紹介

コロナ禍における一人暮らしの在宅高齢者の睡眠の見守りと訪問支援の検討（日本睡眠学会2021より）

研究の目的は、在宅で訪問看護サービスを利用している一人暮らし高齢者の日中の活動と夜間の睡眠の実態を明らかにし、訪問看護の効率化や支援の一助とすることである。方法対象は8名の一人暮らしの高齢者、1人2週間、昼夜の活動を測定した。日中はリストバンド型の活動量計、夜間はシート型体振動計を用い、各測定項目との相関関係を分析した。その結果、対象者のPSQI得点は平均6.4点であり、主観的に睡眠に問題を抱えているのは4名であった。活動量計からは、日中の歩数が少ないことなどの問題が明確に示された。

講座テーマ紹介

・シニア世代の睡眠健康学－睡眠準備体操

オリジナルの睡眠準備体操を考案し、ビデオなどでその特徴を紹介し一緒に実施することで入眠がスムーズにおこなえるような工夫などについて講演・実技を行っている。

・埼玉未来大学（春日部・熊谷など）睡眠の不思議

2021年には高齢者の方を対象とした、講義を5回実施した。睡眠はまだわからないことが多く、不思議な世界である。その不思議をクイズ形式などを用いて優しく解説・理解する。

・「こころの健康づくり講座」睡眠を中心に

・なぜ学生は授業中に眠くなるのか

大学生へのアンケートなどを参考にして、昼間に学生が眠くなる理由や改善方法について講義する。

アピールポイントなど

COVID-19により、高齢者への感染リスクと死亡率の上昇を恐れ、不要不急の外出制限が推奨されました。それに伴うサルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルなどの機能低下が懸念され、今後大きな問題となる可能性があります。コロナ禍では人との交流も極端に減っており、一人暮らし高齢者の日常生活の過ごし方に注視する必要があります。もう一度、睡眠と健康について、一緒に考えてみませんか。睡眠に不安があれば、ぜひ講演を依頼してください。



「生活の質」からケアや支援を捉える社会的ケア関連QOL尺度の活用

作業療法学科

中村 裕美 教授

【研究分野】 地域リハビリテーション、在宅生活、尺度開発
 【キーワード】 介護保険利用者、家族介護者、社会的ケア関連QOL
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=177naka>



研究概要

我々は「生活の質」の観点から、介護保険を含む社会的支援の理解や見直しを推進しています。そのために、社会的ケア関連QOL尺度（ASCOT）の日本語版を開発してきました。これは英国で開発され、国際的に利用されている尺度（評価したいことを測るモノサシ）です。

この尺度は、介護保険等社会的ケアを利用して在宅生活を営む人びと、そして家族介護者の生活の質を測定します。

多様なケアの場で利用できる尺度なので、臨床はもとより組織管理（自己評価・内部評価等）、自治体の介護保険実施計画や施策に活用できます。

研究紹介

1.在宅生活を営む介護保険等社会的ケア利用者版

①文化間妥当性と尺度の信頼性妥当性の検証

(Nakamuraら2019 国際学術誌 Health and Quality of Life Outcomesで公開)

②日本人用採点システムの構築

(Shiroiwaら2020 国際学術誌 Quality of Life Researchで公開)

③得点に影響する要因の解明（森山ら2020 国内学術誌:保健医療科学で公開）

2.家族介護者版

①尺度の信頼性妥当性の検証

(Nakamuraら2022 国際学術誌 Home Health Care Management & Practiceで公開)

②日本人用採点システムの構築

(Shiroiwaら2022 国際学術誌 Quality of Life Researchで公開)

講座テーマ紹介

- 1) 「生活の質」の視点からみた介護保険を含む社会的ケアの理解
- 2) 社会的ケア関連QOL尺度（ASCOT）の訪問サービスでの活用
- 3) 同尺度を用いた組織管理（自己評価・内部評価等）
- 4) 同尺度を用いた自治体の介護保険実施計画や施策への活用

アピールポイントなど

我々は「社会的ケア関連QOL ASCOT日本語版」普及委員会を組織して、この尺度の啓蒙活動を行っています。参画者は、医療福祉サービスの企画や評定を専門とする多領域の研究者です。興味がある方は下記サイトをご覧ください。
<https://scrqol-ascot.jp/index.html>





手指運動機能リハビリテーション評価システムの開発

作業療法学科
濱口 豊太 教授

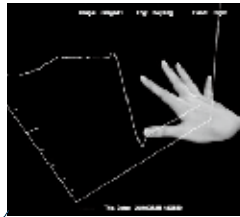
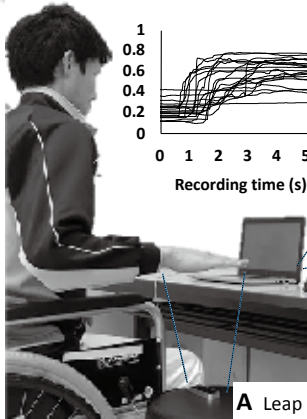
【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学
【キーワード】 脳卒中、運動麻痺、手指、運動機能評価、キネマティクス
【URL】 <https://researchmap.jp/toyota>



研究概要

- 私たちは熟達した理学療法士や作業療法士が判断した患者の運動障害の程度を、人工知能に学習させ、パターン解析によって得られた識別子 (classifier) によって、様々な患者の病態を自動解析するシステムを開発しています。
- リハビリテーション評価システムは、脳卒中片麻痺患者の運動麻痺の重症度評価、骨折や末梢神経障害による運動器疾患患者の関節運動の重症度判断等を、人工知能 (Support Vector Machine, Convolutional Neural Network, Generative adversarial networks) を用いた画像解析によって行うものです。
- この装置を用いれば、人工知能により、これまでリハビリテーションの評価技術に熟達した理学療法士や作業療法士が行っていた運動障害のある患者の手指の重症度を、小さな赤外線カメラで「グー」「パー」のわずか二つの動作をさせるだけで、数秒で、それらを高い精度で評価できるようになりました。

研究紹介



B Application of hand motion recording

A Leap Motion Controller detection

- 現在は、開発した人工知能システムを強化しながら、手指だけでなく、肩関節、肘関節、下肢の関節など、あらゆる運動を画像解析して運動障害を正確に診断できる評価システムの開発を進めています。
- 開発した手指病態運動評価装置 (特許No. 6375328) は竹井機器工業株式会社により2019年9月に製品として市販されました。
- 2021年度より再開発を進めています。

【この研究に関する論文】

- Takeshi Saito, Toyohiro Hamaguchi et al. **Predictive Ability of Fahrenheit, a Hand Motion Recording System for Assessing Hand Motor Function in Patients with Hemiplegia Post-Cerebrovascular Disease—A Pilot Study** *Applied Sciences* 11(17) 8153, 2021.
- Toyohiro Hamaguchi, Takeshi Saito, et al. **Support Vector Machine-Based Classifier for the Assessment of Finger Movement of Stroke Patients Undergoing Rehabilitation.** *Journal of Medical and Biological Engineering* 40(1) 91-100, 2019.



脳電位でパワーアシストするロボットリハビリテーション

作業療法学科

濱口 豊太 教授

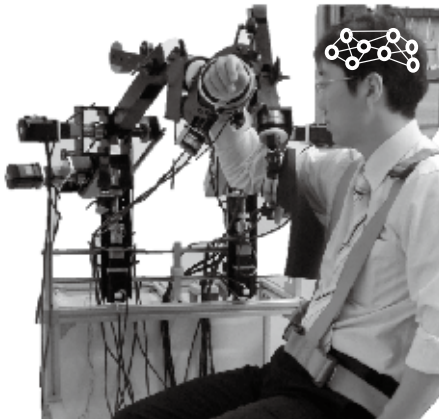
【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学
 【キーワード】 脳卒中、運動麻痺、脳電位、上肢運動機能練習
 【URL】 <https://researchmap.jp/toyotota>



研究概要

- 私たちが開発した上肢運動療法ロボット-Dicephalus（特許NO.6307210）を患者自身が脳波解析装置で制御して自発的に運動療法に参加できる新しいロボティクスリハビリテーションの創発に挑んでいます。
- Dicephalusとは、ギリシャ神話の双頭の生物です。Dicephalusは人間の上腕と前腕を把持する2つのロボットアームから構成されています。
- 現在のDicephalusは、ベテランの理学療法士や作業療法士が行った上肢運動麻痺の患者に対する上肢を運動療法を再現することができます。

研究紹介



リハビリテーション支援システム（特許第6598319号）

- 脳卒中片麻痺患者の運動機能を回復させるリハビリテーションで大切なことは、患者さんが自らの意思で運動しようということです。

- そのためは、患者さんの意思を正確に読み取って、パワーアシストする方法が有効です。

そこで

- 私たちは、患者さんの脳から直接的に運動誘発脳波と呼ばれる電位を取得して解析し、その情報をロボットに伝達する仕組みを開発しています。

- Dicephalusは人間の意思を脳波から読み取って動く方向と速さを計算して最適な運動をパワーアシストするロボットです。

【この研究に関する論文】

- Toyohiro Hamaguchi, Hiromi Nakamura Thomas. **Mechanism of the Developed Sensorimotor Therapy Device: Synchronous Inputs of Visual Stimuli and Vibration to Improve Recovery of Distal Radius Fractures.** *Biomed J Sci & Tech Res* 38(2) 2021.
- Yuki Saito, Toyohiro Hamaguchi et al. **Reproducibility between robot and human movements: preliminary development of a robotic device reconstructing therapeutic motion.** *Journal of Ergonomic Technology* 20(1) 10-19, 2020.



手指の痛みや運動障害を予防するパワーアシストハサミ

作業療法学科

濱口 豊太 教授

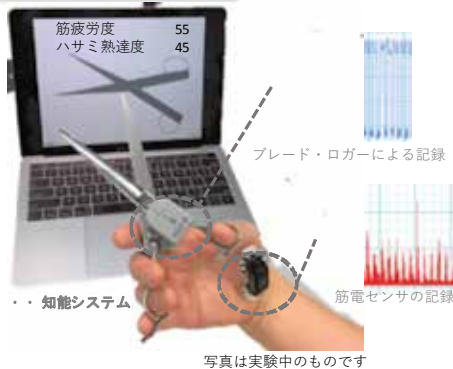
【研究分野】 リハビリテーション、サイバネティクス、行動医学
 【キーワード】 手根管症候群、関節障害、筋電位、手指運動
 【URL】 <https://researchmap.jp/toyota>



研究概要

- 私たちは、道具の操作に熟達した人の手の運動生理を人工知能（Support Vector Machine, Convolutional Neural Network）に機械学習させて、道具使いの上手・下手を判断して教えてくれる「手の使い方達人の人工知能システム」を開発しています。
- その第一弾として、「ハサミの達人」の開発に挑んでいます。
- この仕組みは「手指操作支援装置及び支援方法」として特許第6982324号を取得しました。

研究紹介



- ハサミをよく使う美容師には手根管症候群のような手の痛みや運動障害が見られます
- 手の痛みや手くびの関節運動障害は美容師らが離職する深刻な原因となっています
- * 障害を予防するためには手指の関節への負担が少ない上手な操作があるはず

そこで・・・
人工知能システムを搭載したハサミ練習装置を開発しています

手に痛みが生じていない美容師たちの熟達したハサミ操作の運動生理を実証して

- ①人工知能システムが安全なハサミ操作を記憶して解析し
- ②それらを美容師の初心者たちが人工知能に導かれてハサミ操作を練習することで
- ③業務上で出現しやすい手の痛みや腱鞘炎による障害予防をめざします

【この研究に関する論文】

- Kohei Koizumi, Kumiko Sasao, Yuji Koike, Akihisa Okino, Kazuhisa Takeda, Toyohiro Hamaguchi. **Usefulness of Scissors with a Power-Support Mechanism to Assist Thumb Movement: An Observational Study.** *Applied Sciences* 11(16) 7756-7756, 2021.
- Takahashi Rina, Hamaguchi Toyohiro et al. **Reproducibility and reliability of performance indicators to evaluate the therapeutic effectiveness of biofeedback therapy after elbow surgery - An observational case series.** *Medicine* 99(34) e21889, 2020.



作業療法学科

石岡 俊之 准教授

【研究分野】 行動神経科学、作業療法学、脳科学
 【キーワード】 中枢神経疾患、メンタルヘルス、地域住民、神経基盤
 【URL】 <https://researchmap.jp/tishioka/?lang=japanese>



自分らしく社会で活躍するために

研究概要

その人らしく社会で活躍できる支援方法を開発するために

- 1) 行動神経科学、心理学、脳科学の手法を用いて疾患の徴候や障害の機序を解明する。
- 2) 解明した徴候や障害の機序を応用した評価方法・支援方法の開発する。

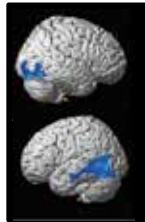
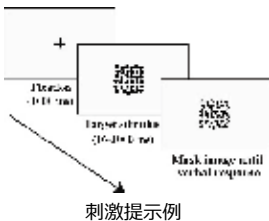
ことを主の目的とした研究を行っております。

中枢神経疾患（脳血管障害や神経変性疾患など）を有した人や地域住民を対象に研究しております。最近では、発達に不安がある児童を支援するための研究や新型コロナウイルス（COVID-19）環境下によるメンタルヘルスの調査研究も進めております。

研究紹介

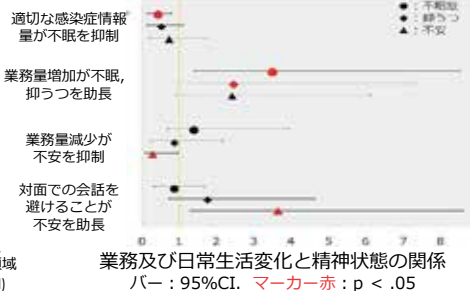
パーキンソン病患者に主観的輪郭検査とFDG-PETを実施して、高次視覚皮質機能低下と関連した主観的輪郭知覚の困難さを解明。

Ishioka et al., Neuroimage: Clinical. 2021



主観的輪郭知覚閾値と関連した脳糖代謝低下領域
 ($p < .05$, uncorrected)

COVID-19拡大下で日本の作業療法士のメンタルヘルス(MH)と生活の変化との関係を調査。Ishioka et al., AJOT. 2021



講座テーマ紹介

中枢神経疾患の運動症状や非運動症状の最新の知見や支援方法についての講座

- ・ リハビリテーション専門職や医療保健福祉領域で活躍されている皆様を対象とした実践で役立つ内容をお話します。

加齢や認知症の特徴や生活習慣との関係性についての講座

- ・ 地域住民の皆様や企業での研修会など参加者の希望に添った内容をお話します。

アピールポイントなど

対象者の行動特性の神経機序の解明や根拠に基づいた臨床実践に興味がある研究者、臨床家は御連絡ください。対象者の社会生活の質向上に向けて本学のNIRSやHMDを活用した共同研究や大学院への進学など要望に添った形で共に研鑽していきましょう。

「作業療法神経科学研究会」を2014年に発足し、研究職と医療職との橋渡しの活動もしています。 <https://www.ot-neuroscience.com>





高次脳機能障害者の社会参加支援に向けて

作業療法学科

石岡 俊之 准教授

【研究分野】 行動神経科学、作業療法学、脳科学
 【キーワード】 高次脳機能（障害）、地域、社会参加
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=184ishi>



研究概要

高次脳機能障害は、外見からはわかりづらく周囲の人だけでなく当事者自身もその障害を理解して対応することが難しいことが特徴です。

そのため、地域での社会性生活を円滑に営むためには当事者自身の障害特徴を理解し、その特徴に応じた支援方法をテーラーメイドで開発する必要があります。また、高次脳機能障害について社会全体に理解していただく活動が必要です。

研究紹介

当事者がその人らしく地域で生活を営むための支援活動

- ・ 障害者総合支援法の自立訓練事業での介入実践
- ・ 当事者やその家族と地域社会との橋渡しのためのグループ活動の支援

高次脳機能障害についての理解していただく啓蒙活動

- ・ 高次脳機能障害についての特徴や支援方法についての研修会講師

当事者やその家族を支援できる専門職養成活動

- ・ 教育活動と地域事業活動を橋渡しによる当事者と初学者との協働活動による障害理解を促進する活動
- ・ リハビリテーション専門職への高次脳機能障害に対する研修会講師

講座テーマ紹介

高次脳機能障害への理解の普及やその対応方法についての講座

- ・ 地域住民の皆様や企業での研修会など参加者の希望に添う内容をお話します。
- ・ 小学生や中学生に向けた体験型の研修会も企画できます。
- ・ 作業療法学を学びたい高校生に向けた講義や進学相談にも対応できます。

高次脳機能障害の最新の知見やその知見の応用方法についての講座

- ・ リハビリテーション専門職や医療保健福祉領域で活躍されている皆様を対象とした実践で役立つための内容でお話します。

アピールポイントなど

急性期から回復期の臨床現場での経験もあり、現在も自治体の事業に参加して当事者への支援をしております。この経験を活かして高次脳機能障害による認知機能の特徴や行動精神症状の特徴と脳機能との関係性を解明する研究から支援者の養成の実践研究まで幅広く行っております。

発症から地域生活まで各時期に沿った支援方法の開発に向けた研究に興味がある研究者や臨床家の人からの御連絡をお待ちしております。

「作業療法神経科学研究会」を2014年に発足し、研究職と医療職との橋渡しの活動もしています。 <https://www.ot-neuroscience.com>





当事者との共同創造による精神科作業療法授業の開発

作業療法学科

上原 栄一郎 准教授

【研究分野】 精神科作業療法、精神科デイケア、WEBモニタ

【キーワード】 精神科、作業療法、当事者、授業

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=280ueha>



研究概要

現在、大学における精神科作業療法の授業では、当事者の方々の参画が一部ですが実現しています。今後さらに当事者の参画度合いを高める必要性を感じていますが、それらは十分に検証されているわけではありません。専門職教育は専門域の教員が行うのは当然かもしれませんが、諸外国においては当事者が教育に参画する度合いは日本より高く成果を収めています。こうした**当事者との共同創造による授業の開発**をシラバスの作成から、教育実施、学生の評価までを一緒にに行い、授業の効果や課題を明らかにします。

講座テーマ紹介

●当事者との共同創造による精神科作業療法授業の開発に関する講座 (当事者、家族向け講座)

- ・「今の大学の授業では何を教えているのか？」
授業を体験し当事者から意見をいただきます
- ・「海外の大学の当事者参画授業の方法って？」
国内外の先進的な取組の流れや効果を知って学びます
- ・「今の大学の教育の流れを知る」
一般的な教育方法などから改善点のヒントを得ます
- ・「あなたの伝えたいこと検討会」
グループで授業の内容に関して共同創造し意見交換します
- ・「学生と語りあおう」
様々な学年の学生と授業を共同創造し意見交換します
- ・「授業をやろう！」
実際の学生に授業を行いその効果や課題を体感します

(専門職、教員向け共同研究講座)

- ・「当事者との共同創造する授業のポイント」
未だ十分な検証が伴わない共同創造授業に関し相互研鑽を進めます
- ・「海外の大学の当事者参画授業の方法って？」
国内外の先進的な取組の流れや効果を知って学びます
- ・「WEBモニタを活用した調査」
WEBモニタには精神科領域のみならず各種疾患モニタが登録されています
その活用方法の実際をお伝えします

アピールポイントなど

作業療法士のみならず、精神科領域の関係者とのネットワークを大事に考えております。精神科看護領域における教育者をはじめ、当事者との共同創造授業に関する情報交換を進めています。また領域問わず当事者との共同創造授業に関心をお持ちの方との交流を願います。その他、当事者や精神科領域の臨床家とのネットワークをWEBで展開しています。



作業療法士による保育所・小学校への訪問研修

作業療法学科

押野 修司 准教授

【研究分野】 発達期作業療法学、身体運動学、作業療法教育学、動物介在療法学
 【キーワード】 小児作業療法、連携、障害児保育、通級による指導
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=186oshi>



研究概要

地域共生社会の実現に向け様々な課題を、障害のある人もない人も一緒に乗り越えてゆかねばなりません。そのためには子どもの頃から共に育ち合う経験をするのが大切であるといわれています。私は、児童発達支援の経験から、特性に応じた環境調整や関わり方、集団への働きかけなど、作業療法士の視点から、各事業所、学校で可能な研修を考案しております。

講座テーマ紹介

保育園や小学校の先生方ができる幼児、児童のアセスメントを紹介、試行し、障害のある、またはその疑いのある幼児、児童の行動を理解することを目的とします。

必要な自助具、学習支援機器を作成、またはご紹介し、先生方に使用方法、または購入先をご説明いたします。その他、作業療法士の視点で、保育園や学校で実行可能なご提案をいたします。

「小学校訪問研修」

対象：通級による指導（通級指導教室）、特別支援学級を運営している小学校
 小学校の教諭への研修

内容：①訪問日時についての相談・派遣依頼
 ②授業参観後、研修と質疑応答

費用：無料 訪問研修は1研修につき2回までとさせていただきます。

「保育園訪問研修」

対象：障害のある子どもを保育されている保育所
 保育所の保育士への研修

内容：①訪問日時についての相談・派遣依頼
 ②保育参観後、研修と質疑応答

費用：無料 訪問研修は1研修につき2回までとさせていただきます。

アピールポイントなど

公立保育園の巡回支援を実施いたしました。

入間市教育委員会子ども未来室 スーパーアドバイザー巡回支援指導者(2012-2015年)
 狭山市福祉こども部保育幼稚園課 公立保育所巡回指導講師(2014-2018年)

特別支援学校、通級指導教室の巡回支援を実施いたしました。

埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園 巡回教育相談指導者(2019年)
 豊島区立小学校 特別支援教室 研修(2021年)



作業療法学科

笹尾 久美子 准教授

【研究分野】 身体機能作業療法学、義肢装具学

【キーワード】 上肢切断、義手、情報提供

【URL】

<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=187sasa>

上肢切断・義手に関連した研究

研究概要

上肢切断・義手をKeywordに上肢切断者を取り巻く現状把握やより適した義手操作技能の評価法などについて調査・研究を行っています。

研究紹介

1. 能動義手使用者の基礎的な義手操作技能を評価する指標に関する研究

日本では上肢切断者に特化した評価指標は存在せず、現場では代替の評価法を用いて実施している現状にあります。より適したツールで切断者の義手操作技能を評価できるように、能動フック使用時の能動義手の操作技能を評価する評価法を考案し、臨床での応用について研究しています。

2. 日本におけるSHAP使用に関する研究

欧米では成人の義手技能評価法として7つの標準化された評価指標が存在し、このうちの1つにThe Southampton Hand Assessment Procedure (SHAP)があります。SHAPは2002年に英国で開発された上肢機能検査であり、球体や円柱など形状と重さの異なる12項目の物品移動検査と14項目の両手動作を含む日常生活検査から構成されています。私たちはSHAPを開発した研究者に許可を得てSHAPマニュアル日本語版を作成し、日本人におけるSHAP標準値の収集などを行っています。

講座テーマ紹介

1. 義手の理解を深めよう～模擬義手操作体験～

本学には、自分の身体の動きを利用して義手をコントロールする体内力源式能動義手と筋から発生する電気信号を利用して義手をコントロールする筋電義手の操作体験が行える模擬義手があります。模擬義手の操作体験を通して、それぞれの義手の特徴や仕組み、機能を知って義手に対する理解を深めていただき、人間の手との違いについても感じていただけたらと思います。

2. SHAP評価法のご紹介・使用体験

SHAPは日本ではまだ馴染みのない評価法ですが、日常生活動作を取り入れているなどユニークな内容を含んだ評価法となっております。上肢切断者の評価にも使用できますが、他の疾患にも使用ができる構成となっております。本学にはSHAPの評価キットがありますので、使用体験をしていただきながら評価方法をご紹介します。

アピールポイントなど

- ・長らく上肢切断・義手をKeywordに調査・研究を行っており、上肢切断の作業療法経験を基に講義や執筆などを行っております。
- ・SHAPマニュアルの日本語版を作成しました。



作業療法学科

柴田 貴美子 准教授

【研究分野】 精神障害リハビリテーション
 【キーワード】 社会生活スキルトレーニング (SST)、発達障害、コミュニケーション
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid/334.html?pdid=288shi>



社会生活スキルトレーニング (SST)

研究概要

発達障害を持つ子どもが増え、子どもが抱える生きづらさだけでなく、養育する親のストレスを低減する支援が必要です。発達障害を持つ子どもとその親を対象とした**社会生活スキルトレーニング (SST)** の実践や、**ロールプレイを用いた社会的スキルを測定する尺度開発**を行っています。

また、精神障害を対象としたSST、心理教育の効果検証、作業科学の観点から若年性認知症者が経験する作業やジェンダーイデオロギーについて探索をしています。

研究紹介

- **発達障害を持つ子どもとその保護者を対象としたロールプレイトストの開発**
基本的な社会的スキルを対面で測定する尺度を作成。また、この尺度をタブレットを用いて測定できるツールを作成。
- **精神障害者を対象としたSST**
主として統合失調症を対象としたSSTについて、効果的な実践方法や般化を促進する方法を検討。
- **障害児を持つ母親の作業参加に対するジェンダー・イデオロギーの影響**
わが国の社会的規範などが、障害児を持つ母親の作業や複数の役割に及ぼす影響を検討。

講座テーマ紹介

- **SSTに関連した一般向け、専門職向けの講座**
 - ・「子どもに対するSST」：発達障害を持つ子どもを対象としたSSTの紹介
 - ・「親子でソーシャルスキルを高めよう」：ソーシャルスキルの概要と基本的なソーシャルスキルの紹介
 - ・「SSTの進め方」：SST実践者向けのグループ運営、アセスメントの紹介
 - ・「SSTを体験してみよう」：SSTの概要とSSTの体験
- **統合失調症などの精神障害や発達障害に関連した一般向け、専門職向けの講座**
 - ・「家族の接し方について」：統合失調症の特徴と家族支援の解説
 - ・「精神障害当事者の父親のための研修会」：精神障害の特徴と家族支援（主として父親）の解説
 - ・「発達障害に対する理解と作業療法」：発達障害の概要と作業療法の紹介

アピールポイントなど

自治体における精神保健福祉連絡会、就労継続支援B型事業所の運営にも携わっております。



人が新たな運動を学習することについて 運動学習、書字、手の動き

作業療法学科

鈴木 貴子 准教授

【研究分野】 運動学習、手の動き（特に書字）
【キーワード】 運動学習、書字
【URL】 <https://researchmap.jp/szktkk>



研究概要

1. 病気や障害によって運動が困難になった方に対し、リハビリテーションでは体の動きの再獲得や改善を目指して運動の練習を行います。その際に、セラピストは対象者の体に触れ、支えながらより良い動きへと誘導します。この時、対象者の脳や体にはどのようなことが起きているのか、運動の再獲得をより効率的に促す手段はないか、これらを研究疑問として取り組んでいます。
2. 人が幼少期から長い時間をかけて獲得する動作の一つである文字を書く動作について、動作そのものの分析、文字に対する評価など多方向からの解明と、リハビリテーションや教育領域への貢献を目指して取り組んでいます。

研究紹介

1. 最速運動軌道と脳活動

セラピストが対象者の上肢を支持して動きの誘導・介助をするときに対象者が感じる違和感、脳内の活動はどのようなものなのか、それは何を意味しているのか、セラピストが誘導すべき運動は本当はどのようなものなのか等を明らかにするため、主に脳波計測や運動学的解析を用いて研究を進めています。

（科研費：20K11234）



身体誘導時の脳波等計測

2. 文字（数字）に対する人の主観的評価

人は文字を、上手・下手、さらには元気な・丁寧などの様々な形容によって表現・評価することができます。しかしこのような、人による文字の評価は絶対的なのか相対的なのか、明らかになっていません。文字に対する主観的評価の法則性を明らかにするため、機械学習を用いた研究を進めています。

（東京家政大学生活科学研究所 総合研究プロジェクト）

3. 箸操作練習に関する調査研究

作業療法の現場で行う麻痺のある手や非利き手での箸操作練習における現状調査を行っています。（学部生と共同で実施）

過去の研究：運動錯覚と皮質脊髄路の興奮性について、書字の時の手指の動きについて

講座テーマ紹介

「手」の不思議、手に関する基本的な知識を中心に(お子さん・一般の方向け)
(過去に市民大学、こども大学等で実施)

アピールポイントなど

特刊・上肢運動学習講座（特許:6425355号）（濱口豊大教授と共同）

所属学会等：日本作業療法士協会、日本作業療法研究学会、日本臨床神経生理学会、他都内の高次脳機能障害専任相談員（H28年度～）

コミュニケーション支援用具・機器の提案・開発

作業療法学科

南雲 浩隆 准教授

【研究分野】 コミュニケーション支援用具・機器、難病、意思伝達
 【キーワード】 神経難病、リハビリテーション、コミュニケーション支援用具
 【URL】 <http://researchmap.jp/nagumo16>



研究概要

・難病のコミュニケーションにおける支援用具・機器の特徴は、個性が高いことです。必要性が高いながらも実用的な製品が不十分な状況です。しかしながら、これまでの研究から、一般化の出来る汎用性の高い製品を開発をすることが可能なことがわかってきています。

コミュニケーションのステージ分類と対応



コミュニケーション用の支援用具



透明文字盤

特殊スイッチ



スイッチ固定用具

研究紹介

＜共同研究・受託研究のご提案＞

- ・難病のコミュニケーション、支援用具・機器について、共同研究や提案を致します。
- ・福祉用具・機器の適合と支援技術に関する研究
 神経変性疾患、いわゆる難病は進行性の病気であり、身体機能の状況に合致した支援用具・機器を活用することで、日常生活の自立度を高めるとともに、生活の満足度を大きく改善することが可能です。特にコミュニケーションは、'意思を疎通する営み'として重要であり、身体機能の状況に応じた対応が必要となります。なかでも、ALS向けのスイッチは種類が多く、さらには個性も大きいため導入には細心の留意と対応が必要です。これらについて開発・改良を進めて製品化してみませんか。
- ・難病療養者における生活環境と作業療法支援に関する研究

講座テーマ紹介

- ・コミュニケーション障害のアセスメントと支援についての専門職種向けの講座

アピールポイントなど

- ・東京都における'コミュニケーション障害のアセスメントと支援(在宅難病患者訪問看護師等養成研修)について'の専門職種向けの講座にも協力させていただいています。



障害のある学生支援・車いす・作業療法・多職種連携教育

作業療法学科

松尾 彰久 准教授

【研究分野】 障害学生支援

【キーワード】 障害学生支援、作業療法、福祉機器、自助具

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=185matsu>



研究概要

障害学生支援では、**多職種が連携**して学生の支援を実施します。そのような中、わたしは**作業療法士**という専門職の立場から、**福祉機器の活用**や**環境の調整**を通して学生への支援を実践しています。

2013年に成立した障害者差別解消法は2016年より施行され、2020年の見直しに関する意見書の取りまとめ、事業者団体・障害者団体ヒヤリングを経て、2021年6月には改正法が成立しました。改正法では国や地方公共団体だけでなく事業者についても**合理的配慮**の提供を義務としました。障害学生支援のあり方も日々進化しており、新しい障害学生支援の取り組みやあり方について研究しています。

講座テーマ紹介

●障害学生支援に関連する講座

(専門職講座)

- ・「障害のある学生支援には、どのようなものがあるか？」
- ・「学校教育における合理的支援の考え方」

●多職種連携に関連する講座

(専門職講座)

- ・「多職種連携とは？ 多職種連携の基本を学ぶ」

●車いすについて

(一般講座)

- ・「車いすに関する実技指導」
- ・「車いすから考えるユニバーサルデザイン」

●作業療法について

(一般講座)

- ・「作業療法とは？ 作業療法の基本を学ぶ」

アピールポイントなど

車いすの操作・介護・介助方法については一般向けの講座で、作業療法については高校生・中学生向けの講座で多くの経験があります。

障害学生支援についてはアドハイザーとして複数の大学で実践中です。障害者差別解消法は改正され、今、制度と合わせて実践を知ることは有益なことといえるでしょう。



身体障害者の病態運動を再現するシミュレーション教育用ロボットを用いたリハビリテーション臨床技能教育プログラムの開発

作業療法学科

小池 祐士 助教

【研究分野】 ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ
 【キーワード】 ロボティクスリハビリテーション、教育、ロボット、シミュレーション
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=189koi>



研究概要

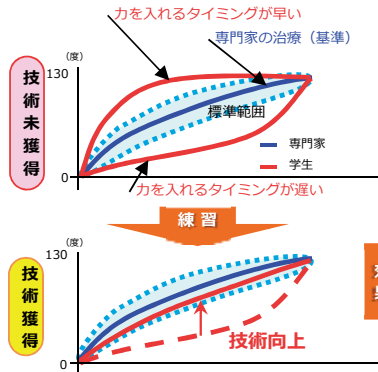
作業療法士などのリハビリテーション専門職におけるこれまでの学生教育や新人教育において、「見て学ぶ」から「学生や新人の知識や技術に合わせた指導」へと変化してきています。その教育方法の一つとして近年注目されているのが、**ロボットを活用したシミュレーション教育**です。これは、医学分野などにおいて既に取り入れられており、効果が示されています。そこで、リハビリテーション分野においてもその教育方法が有効である可能性があるため、リハビリテーション技術を視覚的に提示できるロボットを開発し、そのロボットを活用したシミュレーション教育の効果検証に関する研究を行っています。

研究紹介

①シミュレーション教育用ロボット>
(特許6307210号)

②ロボットを用いた教育効果

患者の運動を記録・再現



患者の利益

- ・安心
- ・無痛
- ・不利益が軽減

学生の利益

- ・安心
- ・反復練習可能
- ・リハ技術の早期獲得

患者・学生の相互に利益

講座テーマ紹介

- ◆ シミュレーションロボットを用いた教育効果に関連した講座
- ◆ 学生指導や新人教育、後輩育成など、教育に関連した講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツー脳卒中片麻痺者用ー
- ◆ 認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師



作業療法学科

小池 祐士 助教

【研究分野】 ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ
 【キーワード】 障害者、自立促進、脳卒中、片麻痺、衣服、排泄動作
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=189koi>



障害者の自立を促進する衣服の開発

研究概要

障害者の自立促進や社会復帰に関して、国や企業等でも対策が講じられているものの、まだ障壁が多くあり、**障害者の衣服の問題**がその一つです。私たちが健康である時は、衣服のデザインやサイズが豊富にあり、自分たちが着たい衣服を着ることができています。しかし、障害を持つことや高齢になることで身体に変化が生じ、**着やすい衣服が少ない**のが現状です。障害や身体に合わせて作られている衣服も少なく、作られていたとしてもデザインが画一的でオシャレ感に欠けたりなど、**社会復帰を阻む要素の一つ**になっています。そこで、社会復帰に繋がるための障害者の自立を促進する衣服を開発しています。

研究紹介

脳卒中片麻痺者の排泄動作障害の改善に向けた衣服の考案と効果検証



排泄後の試作品の汚染の有無

▶ 片麻痺患者でも、試作品の汚染なく、排泄が可能であった

講座テーマ紹介

- ◆ 障害者の自立促進に関連する講座
- ◆ 障害者の排泄動作など日常生活活動（Activities Daily of Life : ADL）に関連する講座
- ◆ 福祉用具の開発に関連する講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 障害者の自立を促進する衣服の開発（共同研究進行中）
- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツー脳卒中片麻痺者用ー
- ◆ 認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師



作業療法学科

小池 祐士 助教

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】

ロボティクスリハビリテーション、地域支援、教育、福祉用具、3Dプリンタ
リハビリテーション、地域支援、自立支援、自助具、福祉用具、3Dプリンタ
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=189koi>



研究概要

リハビリテーション専門職は、日常生活の困りごとについて、筋力や麻痺の改善に向けたリハビリテーションだけでなく、環境調整や道具（福祉用具やその方に合わせた自助具）を用いて解決する支援を行っています。その自助具について、近年では**3Dプリンタを使って、その方に合わせて自助具を作製**する機会が増えてきています。また、高齢化社会の我が国において、リハビリの専門職だけでなく、**日常生活上の困りごとを自分たちもしくはは家族、地域住民同士、友人同士で解決できる力が求められています**。そこで、3Dプリンタを活用した自由なモノづくりの可能性を知ってもらうための活動・研究をしています。

研究紹介



3Dプリンタで作製した作品や生活を支援する自助具

講座テーマ紹介

- ◆ 3Dプリンタに関連する講座
- ◆ 自立支援、地域支援に関連する講座
- ◆ 福祉用具・自助具の開発に関連する講座 など

アピールポイントなど

- ◆ 特許第6307210号：病態解析装置とそれを用いたリハビリテーション技術教育装置
- ◆ 特許第6372882号：紐引き股割れパンツー脳卒中片麻痺者用ー
- ◆ 認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー、キャラバンメイト、臨床実習指導認定者、埼玉県高齢者元気力アップ応援事業所認証事業講師



がん患者の前向きな生活適応へ心理支援と運動介入方略の開発

作業療法学科

小泉 浩平 助教

【研究分野】 がんリハビリテーション、行動医学
 【キーワード】 身体活動量、運動療法、心理療法、がん
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=303koi>

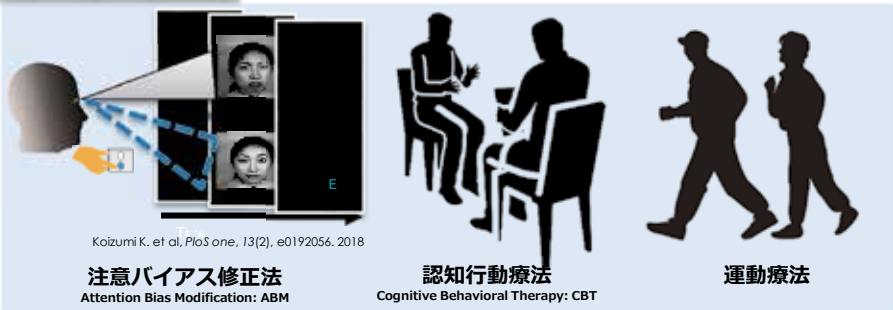


研究概要

がん患者は診断後、長期に渡り高いストレス状況下にさらされます。そのため、不安気分、抑うつ症状を呈しやすく、陰性情動の影響で行動が低減し、身体活動量が低下することが指摘されています。がん患者が前向きな生活を営むために心身の状態を高める方略は、生活支援を行うリハビリテーションにとって重要な課題です。

がん患者の前向きな生活を支援するために、心理-身体活動に配慮したリハビリテーション方略の開発を行っています。

研究紹介



1.がん患者の陰性情動惹起の機序に関する研究

嫌悪な事象へ注意が偏向する現象「注意バイアス」を調査し、陰性情動が惹起される機序について検証しています。

2.がん患者の陰性情動に起因した活動量減少を防ぐためのリハビリテーション方略の検証

心理-身体連関の側面から、心理-行動に配慮した集学的な介入が、運動効果を高めるか検証しています。

講座テーマ紹介

- がん患者の心理的效果を高める方法と実践についての講座
- がんサバイバーの身体活動量を高める、効果的な方法についての講座

アピールポイントなど

がん患者が有する多様な病態背景に対し、注意・認知・行動の視点から心理-身体活動を階層的に捉えます。多様な症状へ集学的な介入を実践することで、心理-身体活動に起因する課題を収束したいと考えています。



職業リハビリテーション・就労支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

朝日 雅也 教授

【研究分野】 障害者福祉、職業リハビリテーション、就労支援 他
 【キーワード】 障害者就労支援、障害者雇用制度、自立支援、虐待防止、インクルーシブな社会
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=191asa>



研究概要

障害のある人の「働く」、「暮らす」に焦点を当てて、インクルーシブな社会づくりに貢献する研究を進めています。具体的には、就労支援の制度、実践に関すること、障害のある人の「自立」を支援するための障害当事者と専門職者等との協働のあり方、インクルーシブな働き方、暮らし方を実現するための実践のあり方など、多岐にわたります。

特に障害の問題を基点に「誰も排除しない」社会の創造は、今後の誰もが生きやすいことに繋がることを確信して、障害者福祉の理念、制度、障害を理由とした差別の禁止、虐待の防止、障害者雇用における事業所の支援など、多様な可能性の探究に努めています。

研究紹介

最近では、障害者の多様な働き方に関する研究、障害者雇用率制度に関する研究、支援者の「支援」に関する研究の他、ヤングケアラー、生活困窮者の就労支援やひきこもり状態にある人の支援、障害者就労支援におけるアセスメントなどについても研究を進めています。

同時に、何らかの支援を必要とする人々の生活課題を解決するための多職種専門職連携を重視するとともに、当事者ならでの「専門性」を生かした関与の在り方について、言説を展開しています。

講座テーマ紹介

上記の研究テーマに関連するものであればいかなる講座ニーズにも対応させていただきます。

最近の実績としては、職業リハビリテーションや障害者就労支援はもとより、障害の理解、社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）の実現、障害者虐待防止、農福連携の在り方、就労支援と特別支援教育、ピアカウンセリング、いわゆる福祉的就労における工賃問題、福祉サービス第三者評価、福祉サービスにおける苦情解決の仕組みなどがあります。

アピールポイントなど

障害のある人の生活支援や就労支援を基盤に、地域福祉の観点も含めて、数多くの自治体の障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画、地域福祉計画等の行政計画の策定に関わっています。さらには、社会福祉協議会の地域福祉活動計画や、自治体独自の分野横断的な協議の場にも参加させていただいています。当事者、支援者、行政機関等が縦割りに分離されることなく、インクルーシブな社会創造のプレイヤーとしてそれぞれ主体的に活動できるような仕組みづくりに貢献できればと思っています。



家庭訪問型子育て支援の充実と発展について

～ホームスタートというボランティアの実践を通して考える～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

市村 彰英 教授

【研究分野】 家族臨床心理学、非行臨床心理学、コミュニケーション、悪循環と好循環の分析
 【キーワード】 子育て支援、家庭訪問、傾聴と協働、児童虐待、グループワーク
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=192ichi>



研究概要

<研究概要> 1

子育て支援には子育てサロン、子育て広場など、子育てをする母親たちが集まる拠点が設けられています。孤立感の強い母親たち（以下「利用者」と記す）は、その場所にまで足を運ぶことができないのです。そこで必要とされるのが家庭訪問型子育て支援（ホームスタート：以下「HS」と記す）というボランティア団体のサービスです。ネットやピラなどでこの存在を知った母親たちは、ネットや電話などで連絡をします。とりまとめ役であるオーガナイザー（以下「OG」と記す）が連絡のあった利用者宅に足を運び、事情を伺い、訪問担当するホームビジター（以下「HV」と記す）を選びます。初回はペアで家庭訪問し、その後HVが1～2週間ごとに4回訪問します。HVはその間に利用者たちに傾聴と協働を繰り返し、利用者たちの子育てをサポートします。その結果として子育て支援の拠点につながったり、必要ない行政サービスなどを受けられるようになっていく場合もあります。このHSシステムの有効性を質的機能的に分析し、保健医療福祉分野である病院や保健センター、市役所子育て支援課、保育所、児童相談所などの行政システムとの子育て支援の協働の在り方を考えています。

<研究概要> 2

子育て支援という母親支援をイメージしますが、児童虐待の半数は実母ですが、3分の1は実父なのです。私は17年に亘ってわが子を虐待をしてしまった父親たちのグループワークを行ってきました。グループワークを繰り返す中で虐待の起こる父子、夫婦、家族の関係が相互的に変化していきます。マザー＆チャイルドグループ（通称「MCG」）は保健センターなどでよく施行されていますが、父親グループは東京と大阪で行われている以外に続いているところが少ないのです。このような取り組みができるようなシステムを構築し、子育て支援、児童虐待防止につながっていく試みを目指したいと考えています。

講座テーマ紹介

- <1> 家庭訪問型子育て支援のボランティアと保健医療福祉分野の行政との協働について
- <2> わが子を虐待をしてしまった父親たちのグループワークと家族再統合について
- <3> 虐待を受けた子どもたちが辿る非行という行動化のメカニズムについて

アピールポイントなど

私はこの大学に来て現在で19年目になります。それまでは20年間家庭裁判所調査官という専門職国家公務員として家庭裁判所でカウンセリング、ソーシャルワークをしてきました。家族やシステムの中で生じる悪循環を好循環にしていって解決に必要な円環的因果論（家族成員の相互関係）について、臨床的に研究し、実践しております。



社会政策・社会保障

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

伊藤 善典 教授

【研究分野】 社会政策、社会保障、福祉国家
 【キーワード】 政策、行政、医療、介護、貧困、イギリス、欧州、外国人労働者
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=195ito>



研究概要

学際的視点から社会政策・社会保障に関する研究を行っています。特に少子高齢化が進み、財政制約が強まる中での福祉国家・社会保障制度の持続可能性に関心があり、国際比較分析等を通じて、今後の政策・制度の在り方を考えています。

具体的には、財政危機、難民危機、高齢化や格差拡大等に直面する欧州の福祉国家のあり方について、以下のような研究を行っています。

- イギリスの医療・福祉政策
 - ・ 医療制度改革、高齢者介護政策、子どもの貧困対策、社会的企業など
 - 欧州の福祉国家の動向
 - ・ 政府債務危機時やその後の社会支出の動向とその要因、福祉国家の方向性
 - 外国人労働者の動向
 - ・ 先進国において外国人家事労働者が増加した要因
- また、日本の医療・福祉問題については、
- 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の役割に関する研究
 - 在宅医療・介護における多職種連携研修プログラムの開発
 - 医療制度・医療保険制度のあり方に関する研究
- などを行ってきました。

講座テーマ紹介

一般の方、教育機関、自治体、団体等向けに、社会保障に関係する様々なテーマで話をさせていただきますことが可能です。

(例)

- 社会保障制度の現状と課題
- 持続可能な社会保障制度の構築
- 外国人の社会統合・多文化共生
- 国民健康保険等の医療保険制度の現状と課題
- 高齢者介護の現状と課題

アピールポイントなど

国（厚生労働省等）や自治体において長く制度・政策の企画立案に従事してきた経歴から、行政実務経験を活かし、自治体等の政策立案や計画作成などのお手伝いを行うことができます。自治体の会議への参加実績には、次のようなものがあります。

- ・ 埼玉県国民健康保険運営協議会会長
- ・ 埼玉県福祉サービス第三者評価認証等委員会委員長
- ・ 和光市長寿安心プラン策定会議会長
- ・ 越谷市まち・ひと・しごと創生懇談会委員



障害当事者参加による地域社会づくり

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

河村 ちひろ 教授

【研究分野】 障害者保健福祉、ソーシャルワーク

【キーワード】 障害、当事者、てんかん

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=196kawa>



研究概要

- てんかん発作のある人々の保健福祉に関する研究
- 病気・障害の経験者からみた社会に関する研究
- 障害者保健福祉施策における相談支援の現状と課題に関する研究

研究紹介

● てんかん発作のある人々の語り

日常生活・社会生活を送るうえで、てんかんという疾患がどのように影響しているのかについて、てんかんのある人本人に対してインタビュー調査を行った。協力者は25歳以上65歳以下。小児期または成人期に発症した人（高齢期に発症したてんかんは含まない）。ことばのコミュニケーションが容易な方をお願いした。



語りから得られたテーマは26種類に及びそれらは(1) 病気に伴う心身の変化および治療に関連する事項（図の灰色の部分）、(2)日常生活・社会生活への影響（緑色）、(3)心理面への影響（オレンジ色）、(4)本人の外側にある問題（水色）の4つに整理することができた。

てんかん発作と直接的にまたは間接的に関係するその他の心身の状態や症状に関する課題が、場合によってはてんかん発作やその症状よりも生活上の課題と大きいことが示唆された。たとえば、発作のコントロールが難しくかつ軽微な認知障害の低下がみられる場合では、周囲の人間との関係がうまくいかず不全感や精神的な不安定さがある。

てんかんのある人々への既存のセルフマネジメントプログラムの活用と主に、継続的かつ個別の対応の充実が必要である。

講座テーマ紹介

● 障害当事者とともに行う講座

地域住民が病気や障害を理解し共生社会を目指すための講座

アピールポイントなど

自治体の自立支援協議会、障害者計画・障害福祉計画の策定委員会、社会福祉法人内に設置された利用者権利擁護のための委員会などに参加しています。



スマホを活用した地域のつながりと支援システムの検討

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育&専門職連携実践
 【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、世代間交流、デジタルデバイドの縮小、ボランティア
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2020ga>



研究概要

デジタル化が進展し、日常生活において欠かせない存在となっています。

わが国では「**高齢化**」と「**デジタル化**」が同時に進行しており、総務省の通信利用動向調査によるとスマホの普及は8割以上（86.8%）の世帯で保有しています¹⁾。その一方で、「端末の操作が難しい」、「近くに相談できる人がいない」といった理由で、**デジタル活用を躊躇する人たちが高齢者を中心に存在**することが明らかとなっています。

新型コロナウイルス感染症により、地域における高齢者らの集いの場となっていたサロン等が休止、減少により「**社会的孤立者**」の割合は、コロナ流行前に比べ増えており、また、男性・高齢であるほど社会的孤立に陥りやすくなっています。

本研究及び活動では、**スマホを日常的に使い、操作方法やその利点を知る学生らがその強みを活かし、地域のなかでつながりを持ちにくい状態にある高齢者とともにスマホの使い方を学ぶ機会や交流をとおして、一人ひとりのニーズに合った支援のあり方、及び生活課題解決のためのシステム開発**に関する事業研究を行っています。

1) 総務省（2021）「令和2年通信利用動向調査の結果」
 (https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/data/210618_1.pdf, 2021.10.1)

研究紹介

社会福祉協議会〔生活支援体制整備事業〕における協議体（地域支え合い会議）、自治会、地区サロン、地域包括支援センター等との連携による事業研究。

- 1) サロン、居場所づくりの実施、課題解決支援
- 2) 地域支え合い推進員等との連携による協議体運営企画・実施支援
- 3) 介護予防活動支援事業、勉強会、サポーター養成
- 4) 質的研究、インタビュー調査等



講座テーマ紹介

- ・地域包括ケアシステムにおける高齢者の見守り支援について～外出自粛による孤立の防止に向けて～
- ・コロナ禍における安全な通いの場（居場所づくり）の開催
- ・居場所（サロン）に行くと私の何が変わるのか（通っている方へのインタビュー結果から）
- ・サロン運営におけるボランティアが抱える課題と支援
- ・超高齢社会におけるデジタルデバイドと社会的孤立

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」として参加しております。自治体だけでなく民間企業、NPO等との連携も大切にしており、政策や課題解決に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。



多職種連携におけるファシリテーション実践

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育&専門職連携実践
 【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、成年後見、意思決定支援
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=202oga>



研究概要

日々日常的に行われる退院前カンファレンス、術前術後カンファレンス、サービス担当者会議などの各種**カンファレンスにおけるファシリテーションの重要性**はいうまでもありません。

加えて、2014（平成26）年6月に成立した改正介護保険法において法制化された地域ケア会議では、地域包括支援センターまたは市町村が開催主体となり、地域包括ケアシステムの実現のための有効なツールとして、**個別事例の検討をもとにIPWによるケアマネジメント支援、地域のネットワーク構築**が行われています。「個別課題解決機能」「地域包括支援ネットワーク機能」「地域課題発見機能」「地域づくり・資源開発機能」「政策形成機能」の5つの機能を十分活性化させるためにもファシリテーションはなくてはならないスキルと言えます。多職種連携の場面に応じたスキルや支援の開発を行っています。

講座テーマ紹介

〔一般講座〕

- 「地区サロン運営におけるファシリテーション」
- 「住民、参加者一人ひとりをいかした運営にするためのファシリテーション」
- 「多職種連携による地区サロン運営の仕方」
- 「おひとり様でも大丈夫～ゆるい地域とのつながり方」
- 「事例から理解を深める成年後見制度とACP～あなたのことを伝えるために～」

〔専門職講座〕

- 地域包括支援センター、医療と介護の連携窓口、介護福祉施設、介護支援事業所等との連携による研修会、運営、企画
- 「会議参加者の意見が引き出せないと思ったときのファシリテーション」
- 「時間内にまとめられない！一困ったときのファシリテーション」
- 「苦手な人がいると思ったときのファシリテーション」
- 「ファシリテーションの重要な役割とは」

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」として参加しております。自治体だけでなく民間企業、NPO等との連携も大切にしており、政策や課題解決に関する共同研究のお誘いをお待ちしております。



社会福祉とアジール～犯罪・非行・依存に関する フィールドワークからの社会学的考察～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

相良 翔 准教授

【研究分野】 犯罪社会学、福祉社会学、医療社会学、司法福祉
【キーワード】 アジール、回復、ケア、立ち直り、パターナリズム
【U R L】 <https://researchmap.jp/sho-sagara>



研 究 概 要

更生保護施設、民間の薬物依存リハビリテーション施設であるダルク（Drug Addiction Rehabilitation Center）でのフィールドワークを通じて、研究しています。端的に言えば、犯罪・非行や依存の後の「生活」に関する研究です。

また、それらの知見を踏まえて、ケアとアジール（避難所や無縁所などの意味をもつ言葉）の関係、支援におけるパターナリズム等についても検討しています。

研 究 紹 介

①：更生保護施設に関する社会学的研究

更生保護施設の処遇のリアリティの記述を行い、そのリアリティと社会のあり方の関連について考察しています。

②：ダルクに関する社会学的研究

ダルクの実践のリアリティの記述を行い、そのリアリティと社会のあり方の関連について考察しています。

※業績に関してはQRコードにアクセスしてご確認ください。

講 座 テ ー マ 紹 介

①「犯罪および非行に関する社会学的視点からの考察」

⇒この講座では犯罪および非行に関する社会学的視点からの見解について紹介し、犯罪および非行への対応において必要なことを考えていきます。

②「支援者が抱えるストレスに関する分かち合い」

⇒この講座では支援者が抱えるストレスについてグループワーク形式で分かち合い、今後の支援実践・施設および機関運営・社会のあり方などについて考えていきます。

※講座内容に関しては、相談いただいた上で変更することも可能です。

アピールポイントなど

これまでにフィールドワークという手法から、「立ち直り」や「回復」のリアリティについて記述・考察を重ねてきました。現場のリアリティについて把握する方法やそこから考察する方法をお伝えして、よりよい現場のあり方を一緒に考えていく機会を持てれば幸いです。



多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIIPによる好循環 ～IPWに有用なICT搭載と職能団体等への支援～

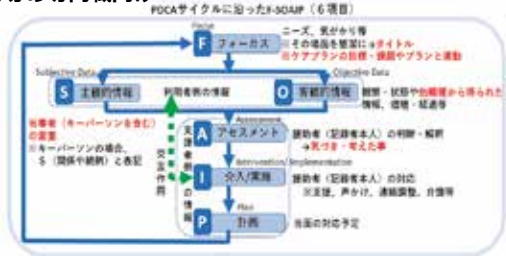
社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻
 末 憲子 准教授

【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援 多職種連携、地域包括ケア
 【キーワード】 F-SOAIIP、生活支援記録法、IPW、PDCA、質向上、マイクロ・メゾ・マクロ、ICT・AI
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要 医療福祉・教育等の専門職向け

効率的かつ効果的の活用が可能な経過記録として、F-SOAIIP（エフソ・アイピー）を開発しました。F-SOAIIPとは、①多職種協働によるマイクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、②生活モデルの観点から、③当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、④F-SOAIIPの項目で可視化し、⑤PDCAサイクルに多面的効果を生む、⑥リフレクティブな経過記録の方法である。（Ver.4、2019年11月）



研究紹介

●文科省科学研究費補助金による研究代表者の他、AMED事業（代表：山口春保：認知症介護研究・研修東京センター）にて認知症BPSD予防のAI（KCIS）をテーマに、厚生労働科学研究費補助金（代表：上田敏文：名古屋市立大学大学院）にて保育領域（フレアーズ）のICTシステムへの搭載を進めています。厚生労働省HIPに「介護分野における生産性向上の取り組みを促進するツール」として、F-SOAIIPを取り上げた介護記録法の標準化（老健事業）の報告書が掲載・紹介されています。
【F-SOAIIPの社会実装】



↑ 放送大学:高齢期の生活変動と社会福祉、260頁の図を修正



↑ 訪問リハビリテーション、第10巻、第1号、67の図



↑ フレアーズ: F-SOAIIPに基づくデータベース型記録システム(案)

講座テーマ紹介

●医療福祉専門職向け：F-SOAIIPによるIPWの促進～マイクロ・メゾ・マクロレベルでの活用～

アピールポイントなど

- F-SOAIIP研修：各都県の介護支援専門員協会、地域包括（在宅介護支援センター協議会、社会福祉協議会、高齢・障害・医療等の法人、福岡県・政令市児童福祉司会等）等で実施してきました。
- ワークショップ等：日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本介護福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会等
- プレゼンテーション：自由民主党政務調査会データヘルス推進特命委員会 データに基づく科学的介護・栄養等WG（主査 小川克巳 参議院議員）／厚生労働省：社会・援護局、老健局、子ども家庭局
- 実践報告：『月刊ケアマネジメント』『訪問リハビリテーション』『看護管理』『臨床栄養』『認知症ケア』『住民行政の窓』『最新医療経営PHASE3』『おはよう21』等
- 生活支援記録法(F-SOAIIP)実践・教育研究所(共同代表者：国際医療福祉大学大学院特任教授 小嶋章吾)
<http://seikatsu.care> 本シリーズの「自治体の地域共生社会向けシステムにF-SOAIIP搭載」もご確認ください。



自治体の地域共生社会向けシステムにF-SOAI搭載 ～ミクロ・メゾ・マクロレベルのデータ利活用によるDXの提案～

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻
 冨末 憲子 准教授

【研究分野】 ソーシャルケア、対人支援 多職種連携、地域包括ケア
 【キーワード】 F-SOAI、生活支援記録法、自治体、福祉相談、地域共生社会、重層的支援、地域課題、DX、ICT
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=198shima>



研究概要 自治体担当者向け

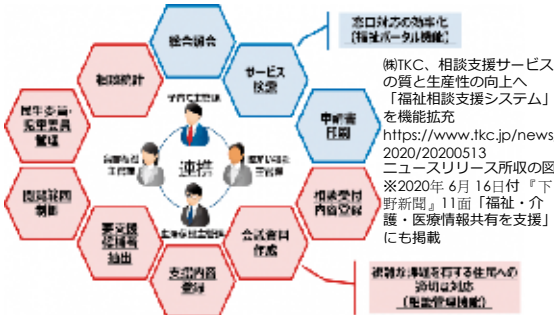
- 対人支援(保健・医療・福祉・介護・保育・教育・心理・司法)の経過記録の方法として F-SOAI(エフソ・アイビー)を開発しました。
- この6項目で、経過記録を漏れなく勘違いなく、効率的に書ける・読めるようになります。
- 行政の相談支援における情報共有、事例検討、OJT、スーパービジョン、リフレクションをはじめ、業務分析などのデータ利活用に役立ちます。

F-SOAIの6項目(実践の可視化:必要最小限)

F Focus 着眼点	ニーズ、気がかり等 ※その場を離れて→ タイトル 関ヶアプランの目標・課題やプランと連動
S Subjective Data 主観的情報	利用者(キーパーソンを含む)の言葉 ※キーパーソンの場合、S(関係や経緯)と表記
O Objective Data 客観的情報	観察・状態や他職種から得られた情報、環境・経過等
A Assessment アセスメント	援助者(記録者本人)の判断・解釈 → 気づき・考え 等
I Intervention Implementation 介入・実施した事	援助者(記録者本人)の対応 ※ 支援、声かけ、連絡調整、介護 等
P Plan 計画	次回の対応予定

研究紹介

- 科学研究費補助金による研究代表者として、実務者(介護支援専門員、介護職、ソーシャルワーカー、生活支援員、医師、看護師、作業療法士、理学療法士、薬剤師、栄養士等)、政策担当者(国会議員、行政等)、システムベンダー等へ、F-SOAIの普及・定着に向けたソーシャルアクションに取り組んでいます。【F-SOAIの社会実装】



F-SOAIテキスト
中央法規出版

↑市町村自治体向け福祉相談支援システム

講座テーマ紹介

- 自治体向け：重層的支援体制の実現～多機関多職種の協議体におけるF-SOAIの活用～

アピールポイントなど

- 「生活支援記録法」「F-SOAI」は、商標登録されています。
- 著書：冨末憲子・小嶋章吾『医療・福祉の質が高まる生活支援記録法[F-SOAI] 多職種の実践を可視化する新しい経過記録』中央法規出版、2020年/分担執筆『ソーシャルワーク記録』誠信書房
- 実践報告：日本加除出版『住民行政の窓』令和3年1月号～4月号連載の執筆者：厚生労働省、生活困窮者自立支援、地域包括支援センター、東京都特別区、福祉事業団、福祉事務所の専門職。
- F-SOAI実践・教育研究所のHPより研修教材等をダウンロードできます。 <http://seikatsu.care>
本シーズの「多職種実践のPDCAサイクルを促進するF-SOAIによる好循環」もご確認ください。



障がいのある方の地域生活支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

高島 恭子 准教授

【研究分野】 障害者福祉、精神保健福祉
 【キーワード】 障がい、地域生活、障害者権利条約
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=298faka>



研究概要

障がいのある方の地域生活支援に関する研究

どこで誰と生活するのかの選択の機会が確保され、地域社会の中で他の人々と共に暮らしていくことは私たちの誰もにとって普通のことであるはずですが、居住、移転の自由や、「自立した生活及び地域社会への包容」（障害者権利条約第19条）は法等に明記されていますが、現実はどうでしょうか。障がいがあるとき私たちはどこでどのように暮らしたいのか、その生活を実現していくためには何をしていくのがよいのかなどを考えていきたいと思えます。その上で、障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしい暮らし方を選択する機会が確保されるための下位目的と手段、**道筋を示すことのできるロジックモデルを作成**します。

研究紹介

1. 国内の障害をもつ方々やご家族の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる願い、思いについての調査研究（聞き取り調査など）により、**あるべき状況と現状のギャップ**を把握する。
2. 国連障害者委員会に提出された各国レポート、市民団体からのレポート、国連障害者委員会から出された一般的意見、障害者権利条約指標を手掛かりに、障害をもつ人の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる**国際動向、方策などを整理**する。
3. 居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる選択の機会を確保し、選択肢を地域社会に具現化するための**ロジックモデル**を作成する。
4. 自分らしい暮らしを思い描き、伝える／受け止めるための**意思決定支援プログラム**を開発する。

講座テーマ紹介

- 「障がい」とは何が考え理解を深める講座
 障害の構造と障害者福祉に関わる理念、精神保健福祉、合理的配慮についての背景、理論、事例など
- 対人コミュニケーションを考える講座

アピールポイントなど

自治体の保健福祉審議会委員、長崎県精神保健福祉士協会理事などをさせて頂いて参りました。また、市にて行われる精神保健福祉に関わる意識向上のための事業や長崎県手をつなぐ育成会の「障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議」事業への参加を通じ、地域社会全体に働きかける活動を行ってきました。その他、日本ソーシャルワーカー協会理事（国際委員）として海外のソーシャルワークを日本に紹介したり、国内外の多文化ソーシャルワークに関する調査研究に参加したりしています。

生きる力・共生社会教育・メンタルヘルス

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

佃 志津子 准教授

【研究分野】 医療心理、メンタルヘルス、医療ソーシャルワーク
 【キーワード】 がん体験、生きる力、ソーシャルワーク、メンタルヘルス、共生社会教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=199tsuku>



研究概要

医療機関における相談支援の実践経験に基づき、逆境や困難のなかで人が**生きる力**に着目した**研究と教育的支援（共生社会教育・専門職教育）への展開**を行っています。

研究紹介

- 対人支援における「その人らしさ」を規定する認知的要素と支援態度の形成との関連
- がん体験者の「生きる力」をふまえたがん教育の展開
 - ・高校生・大学生を対象としたがん教育と「生きる力」に関する研究
 - ・がんと「折り合う」ことに関する研究
 - ・がん体験者の肯定的な変化に関する研究
- 医療ソーシャルワーカーのメンタルヘルスに関する研修効果
- がんとソーシャルワークに関する研究
- 同居家族との死別により生じた入院中の高齢者の社会的課題とその支援
- レビー小体型認知症高齢者の介護抵抗への対応に関する実証的検討 など

講座テーマ紹介

【高校生・地域の方への講座】

- メンタルヘルス** ・レジリエンス 一折れないところってなんだろうー
 ・逆境と向き合う 一あなたの強みはなんですかー
- 共生社会教育** ・がん教育 一共に生きる社会を目指してー
 ・誰もが限りある「いのち」について考えてみる
 ・がんと思いやり 一本人から家族へ・家族から本人へー
 ・寄り添って生きる

対話/心のケア ・こころの力を支える対話

【専門職への教育的支援・メンタルヘルスに関する講座】

- メンタルヘルス** ・気づきと学びのワークショップ「レジリエンス」
 ・自分の強みを支援にいかすーEQS体験と支援への展開ー
- 実践力向上** ・利用者理解とアセスメント
 ・福祉と医療の連携 一実践に活かす医療情報ー
 ・自己決定・意思決定と支援
 ・退院支援と多職種連携
 ・多職種スーパージョンに活かす医療ソーシャルワーカーの視点

アピールポイントなど

- 委員など** ・自治体における地域福祉計画推進委員会・委員
 ・専門職団体における倫理委員会・委員
- 地域貢献** ・メディカル・カフェの開催
 （がん患者・家族・保健医療従事者・地域の方・学生等による対話の場）
- キャリア支援・リカレント教育**
 ・医療ソーシャルワーカー現任者との勉強会 などを行っています。



ボランティア・社会参加に関する研究

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

保科 寧子 准教授

【研究分野】 社会福祉、ボランティア・社会参加活動
 【キーワード】 地域福祉、高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会参加、多様性
 【URL】 <https://researchmap.jp/hoshina-yasuko>



研究概要

- ・ボランティアに関心を持ち、さまざまな角度から**ボランティア・社会参加活動の効果や課題の明確化**に取り組んでおります。
- ・今までに取り組んだ主要なテーマは対話や交流を行うボランティアの有効性や課題の明確化、在日外国人支援を行うボランティアの課題の明確化などです。
- ・最近では埼玉県立大学教育開発センター「小学生と大学生の異年齢交流が子供の社会性に与える影響－子供教室における実践的検討－」に参加し、ボランティアの運営する子供教室の効果を検討しました。

講座テーマ紹介

今までに担当した主要な講座をご紹介します。

【地域福祉・ボランティア分野】

- ・地域福祉実践能力養成研修（複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な相談支援を行うための基本的な支援方法と事例検討を通じた実践的学習）
- ・福祉推進員研修（ボランティアの定義や意義と地域課題を考えるグループワーク）
- ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程：地域福祉（地域で暮らす脳卒中者の活用できる制度や社会資源）
- ・ボランティア入門講座（ボランティア活動に入る際に必要な知識とボランティアの守秘義務を考えるグループワーク）

【高齢者福祉・介護保険分野】

- ・ケアマネージャースキルアップ研修（障害者福祉制度と介護保険制度を併用したケアプランの作成）
- ・高齢者見守りネットワーク会議研修（地域の企業や住民が高齢者を見守るために必要な認知症の基礎知識や支援方法の学習）
- ・主任介護支援専門員スキルアップ研修（8050問題の具体的な事例とそれに実際に対応するための手法・ネットワークづくり）
- ・主任介護支援専門員更新研修（スーパービジョンの手法と助言の実践）

【ソーシャルワーク分野】

- ・社会福祉士実習指導者講習会（実習マネジメント・スーパービジョンの手法と演習）

アピールポイントなど

今までに自治体における地域包括支援センター運営協議会会長、障がい者計画・障がい福祉計画策定懇話会会長、高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会会長、社会福祉協議会理事などを担当させていただく機会がありました。自治体や社会福祉協議会との研究や協働に関心を持っておりまして、お役に立てることがありましたらお声がけいただけますと幸いです。

また、社会福祉法人やNPO法人、ボランティア団体などの支援現場の課題を解決することにも関心があります。共同研究など、お気軽にご相談いただけますと嬉しいです。



社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

富田 文子 助教

【研究分野】 障害者福祉、就労支援、職業リハビリテーション、福祉行政サービス
 【キーワード】 障害者、雇用・就労支援、企業、支援機関、教育、合理的配慮
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=294f0mi>



障害者の就労支援に

研究概要

近年は労働力不足が課題ですが、障害者がその能力を活用し就労することは、それらを解決する一助になると考えられます。また、障害者を企業等で雇用する割合（障害者雇用率）が上昇していることから、一層、障害者雇用が促進されていると言えます。

ただ、雇用の実現には、①企業での人材育成や合理的配慮等といった努力と、②就労支援機関における支援、そして、③自治体による支援機関へのサポート・連携という重層的支援の展開が非常に大きな役割であると考えます。

障害者雇用の支援対象は、障害者と企業です。障害者が就労でき、雇用が維持でき、収入を得て希望する地域での生活が維持できるような方策を考えていきたいです。

研究紹介

障害者の雇用形態や賃金体系を研究しています。また、公務員の経験を活かし、地方自治体との共同研究契約を結び、以下も実践しています。

- 障害福祉サービス事業所を自治体が支援するなどの地域の重層的な就労支援の検討
- 相談支援事業所や福祉事務所・保健所等の支援者に向けた障害者就労支援事業所の選択をサポートするツールの開発
- 就労する知的障害者との余暇支援事業を通じた交流が大学生に与える意識の変容の分析

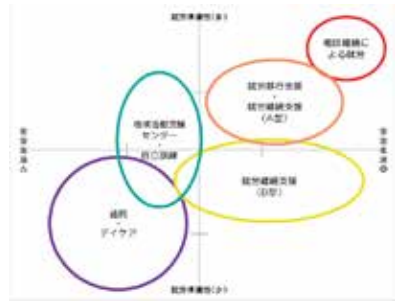


図1 就労支援機関の事業種別による利用時期に関するイメージ (富田2018)

講座テーマ紹介

- 障害者の就労支援を支える地域づくりを考える講座
- 何が合理的配慮なのか／どう合理的配慮を提供するかの考え方・実践のためのワークショップやツールの開発
- 雇用形態や賃金体系の向上に向けた検討



図2 余暇支援事業への参加を通して就労する知的障害者との会話による交流が社会福祉系大学生に与える意識の変容の全体像 (富田2021)

アピールポイントなど

自立支援協議会専門部会委員や、普通高校における配慮の必要な生徒さんへのサポートに参加させていただき、合理的配慮の提供等の実践を踏まえながら研究を進めています。また、合理的配慮の考え方や事例を用いた検討会、企業等の支援者の方向けのスキルアップのための研修などをご依頼いただきました。

障害者の方の希望する生活を支えつつ、支援する方へのサポートも考えた活動をともに考えながら、柔軟な発想で実践していきたいと考えています。



子どもと保護者の心理・保育リーダーシップ

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

越智 幸一 教授

【研究分野】 発達心理学、教育心理学、臨床発達心理学
 【キーワード】 メタ認知の発達、自尊感情、シャイネス、子育て不安、保育リーダーシップ
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=264ochi>



研究概要

- ・子どものメタ認知の発達
- ・児童、青年の自尊感情とシャイネスの関連性
- ・子育て不安・ストレスと関連する諸要因
- ・保育リーダーシップと保育組織の活性化
- ・教育実習・保育実習における不安、シャイネスの諸相

研究紹介

- 母親の育児不安、育児ストレスと関連する諸要因に関する研究
- ・ 愛着の安定性と育児不安との関連性
- ・ 育児ストレスを軽減させる育児サポートの効果
- ・ ママ友の両義性：育児ストレスを軽減させるか、増加させるか
- ・ 育児ストレスと母親のパーソナリティとの関連性
- リーダーシップを発揮した保育組織活性化に関する研究
- ・ 保育組織が活性化していくプロセスを
 - ① 組織内コミュニケーション
 - ② 組織目標の共有化
 - ③ 職員の成長の実感
 から捉え、保育組織を活性化するための園内研修を企画、運営
- ・ 保育組織活性化のための「ドキュメンテーション」導入の効果
- ・ 保育現場において職員の成長を測定するためのコアコンピテンシーの抽出
- ・ 初任者が成長していくプロセスを明らかにするための質的研究
- ・ キャリアパスの導入が保育組織活性化に及ぼす効果

講座テーマ紹介

- 以下のような公開講座、保育者向けの研修会の講師を務めてきました。
- ・ 子どもの心理学入門（一般向け、保育者向け）
 - ・ 保護者の心理、保護者対応について（保育者向け）
 - ・ 保育におけるリーダーシップとは（保育者向け）

アピールポイントなど

- これまで以下のような各種委員会に参加させていただいてきました。
- ・ 子ども関連審議会
 - ・ 就学指導委員会
 - ・ 公立保育所民営化委員会



障害のある子どもたちの発達支援

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

林 恵津子 教授

【研究分野】 就学前の子どもの発達支援、重症心身障害児の発達評価
 【キーワード】 発達障害、特別支援教育・保育、重症心身障害児
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=206haya>



研究概要

幼稚園や保育所における発達支援

集団の中で障害のある子どもない子ども「皆とも育つ」支援のあり方を探っています。

内因性瞬目を指標とした重症心身障害児・者の発達評価

瞬きを用いて興味関心や注意の持続について評価を行っています。

研究紹介

幼稚園や保育所における発達支援

幼稚園や保育所には、発達に課題のある子どもたちが少なからず在籍しています。集団の中で障害のある子どもない子ども「皆とも育つ」支援のあり方を探っています。

内因性瞬目を指標とした重症心身障害児・者の発達評価

重症心身障害児・者は重度の身体障害があるために、感情や意図を表すことに制限があります。そのため、働きかけなどを受けとめているか、体の動きや表情で判断が難しく、支援者や保護者の燃え尽きの原因にもなっています。

瞬きは厳しい運動障害があっても発現することが多く、簡便な機器で記録できます。そこで、瞬きを用いて興味関心や注意の持続について評価を行っています。

講座テーマ紹介

自治体や事業所から依頼を受けて以下のような研修を開催しています。

- ・ 幼稚園や保育所における発達障害のある子どもの支援のあり方
- ・ 保護者支援のあり方
- ・ 乳幼児の発達の道すじ
- ・ 障害のある子どもたちの就学支援

アピールポイントなど

子どもが持てる力を最大限に発揮し幸せに成長できるよう、子ども中心にした支援を大切にしています。



音楽でつながる新たな自分、人との関わり方の提案

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

伊藤 知子 准教授

【研究分野】 音楽、音楽療法、音楽表現
 【キーワード】 趣味、音楽鑑賞、演奏、自己覚知
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=21110>



研究概要

子どもから高齢者まで、また、さまざまな障害を抱える方々がそれぞれの環境の中で音楽を感じることでできる活動が行われています。

音楽には生理的作用・心理的作用・社会的作用があるとされていますが、人は無意識にこれらの作用を活かし音楽を楽しみ、人と繋がっています。

これまで高齢者の音楽療法の観点から音楽の力を療法に活用する方法について考えました。また、「子どもの音楽との出会い」は保育者自身の好奇心が子どもの「もっとやってみよう」につながり、子どもの成長に重要であると考え、保育者自身の保育者養成における音楽表現について研究してまいりました。

普段、あまり気にしない音楽との関わりの中に潜む音楽の力を再確認し、新たな自分と出会い、人と人とが繋がる方法を探していきます。

講座テーマ紹介

- ・親子で楽しむ音楽表現
- ・音探しと音楽作り
- ・音の重ね方を考えよう
- ・音楽理論と照らし合わせながらの音楽鑑賞の楽しみ方
- ・演奏家や作曲家の人間味を感じ、その音楽の特徴を探してみよう
- ・演奏者による演奏の違いを感じ、音楽を扱う漫画の中の演奏を想像してみよう
- ・離れていても、一人でも大丈夫、アプリを利用して合奏（合唱）を楽しもう

アピールポイントなど

日頃、保育者養成を行う中で、子どもと音の出会い、子どもの音楽の出会いについて、学生たちと考えることで、自分自身が思いもよらなかった場所に新たな音や音楽との出会いが潜んでいることに気づくことがあります。

音楽的成長を促す方法を考えることで、自身の好奇心やこだわりに気づくことがあります。先駆者や自身の研究の中で学んだ「音楽の力」や学生たちとの関わりの中で学んだ気づきをもとに、これまで趣味で楽しむ音楽を少しだけいつもと違う楽しみ方を提案します。

演奏家や作曲家、鑑賞する私たちの小さなこだわりや好奇心に気づき、共有し合うことで、自分では思いもよらなかった新たな気づきを見つけましょう。

音楽鑑賞の幅を広げることで不安神経症の治療をおこなったという事例もあります。少しだけの変化がご自身の大きな変化につながります。生活の中に普通に存在する音楽との関わり方を少しだけ意識することで、今までの自分に気づき、より豊かな生活につながるといういいなと考えています。

近代日本・学びのモノづくし 教育掛図・博物図・標本画の図像研究

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

牧野 由理 准教授

【研究分野】 美術教育学、美術教育史、芸術学

【キーワード】 幼児造形教育史、美術教材史、教育掛図、博物図、標本画

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=208maki>



研究概要

近代日本の子どもたちの視覚イメージの源泉を探るため、教育用の絵図や教育掛図、保育記録、教科書、錦絵、雑誌、書籍などの“モノ”を対象として研究しています。さらに教育掛図の原画となった博物図や標本画、それを描いた画家にも焦点をあて図像研究もすすめています。

研究紹介

1. 幼児の造形教育史に関する研究

明治から戦前までの幼児教育の現場でどのような造形教育が行われていたのか、現存する子どもの絵や保育者による保育記録、教材、手本等を分析し研究しています。

2. 教育掛図に関する研究

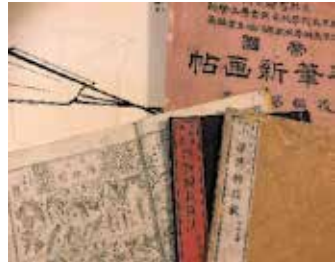
教育掛図とは、教室の黒板や壁に掲げた教授用の大判絵図や表などを指します。欧米から輸入され、幼児教育から大学教育まで幅広く使用されていた教材です。制作に携わった画家や製作者、印刷者等について研究しています。

3. 博物・標本画家についての研究

教材の原画としても扱われた博物図譜や標本画について美術史の観点から研究しています。近代生物学者の標本画家でもあった画家・佐久間文吾についての研究をすすめています。



教育錦絵（筆者所蔵資料）



図画・博物教科書（筆者所蔵資料）

講座テーマ紹介

幼児の造形教育の歴史、美術教育史、美術教材史、教育掛図に関する講演を美術館等で行っております。

アピールポイントなど

国立科学博物館の協力研究員として、美術史の観点から教育掛図や標本画に関する研究をすすめております。



遊びと保育者養成

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

森田 満理子 准教授

【研究分野】 幼児教育、保育者養成
 【キーワード】 実習、保育者養成、遊び、言葉、人間関係
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=209mori>



研究概要

保育者には、子ども理解とともに、遊びの理解の力、子どもとの対話的な活動の構想・展開力が求められています。学生が子どもへの理解を深めるとともに、子どもとともによりよい環境を創造することに挑戦し続ける保育者を目指して巣立つこと、そのことを目指して教育研究活動を行っています。

- ・放課後子供教室における異学年間の交流促進を目的とした実践
- ・学生と行う子育て支援講座における学生の教育効果と保護者の子育て支援の効果
- ・幼稚園教育実習体験による学生の意識変容に関する縦断的研究
- ・日常的保育と小学校の交流活動の一貫的取り組みー成長発達を促す評価の視点からー
- ・保育内容「人間関係」に関する研究、「言葉」に関する研究

講座テーマ紹介

- ・保育における言葉・人間関係に関する講座・学習会
- ・保育実践に関する学習会
- ・地域における遊び等活動の実践

アピールポイントなど

幼稚園教員としての勤務経験を生かし、地域で機会をいただき、保育者を志す学生とともにさまざまな遊び・活動の準備・計画・実践を行ってきました。具体的には、幼稚園の保育活動への参加や公民館での子育て支援の広場の実施、小学校の放課後子ども教室での小学生同士の異年齢交流を促す活動の実施などです。子ども教室では大学生の意図的な関わりが小学生にとってよい刺激となることが見えました。

現場に巣立つ学生にとって大きな学びの機会となるだけでなく、現場の皆様にとって、後の実践への材料としていただけるような活動を一緒に行っていきたいと思っております。

自治体における子ども・子育て会議委員を務めております。



地域と協働する保育実践・保育者養成

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

田口 賢太郎 助教

【研究分野】 保育学、地域に根差した保育実践、保育の評価

【キーワード】 保育、地域連携、コミュニティ、保育者養成

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=304tagu>



研究概要

近年、幼児期の保育・教育への公的資金の投入が社会政策的にも効果的であるとの研究の裏付けを得て、保育・幼児教育への関心が社会的にも高まっています。しかし、一方でその関心の集め方には、保育の社会的な意義をただちに経済的な指標に結び付け、あるいは個々の子どもの能力の伸長のみ還元してしまいかねないという危うさもあります。

特色ある保育実践や子どもの具体的な育ちを、「園」内や個々の子どもにとっての意義のみに完結させずに、「地域」や「社会」における意義からも捉えなおしたいと考えています。「保育」の営みが地域や社会にとってどのような意義があるのかを追究し、また保育から「地域づくり」を興していくための基礎的研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. 認定こども園におけるカリキュラム・全体的な計画にみる1号・2号（および3号）認定の子どもに提供される「保育」「教育」の差異
2. 保育士養成課程の科目・保育士等キャリアアップ研修内容にみる保育士の専門職性・コアスキルとキャリア展望
3. 保育学研究における（エピソード記述等を含む）現象学的アプローチの意義と課題
4. 保育・教育における「生活」概念の思想史的探究—大正新教育期の言説を中心に—
5. 19～20世紀フランスにおける「道徳」の理論・思想の研究

講座テーマ紹介

これまで自治体・保育所等からの依頼を受けて、以下のような講演・研修等の実施実績があります。

（一般向け講座）

- 男性の子育て・育児参加について（山梨県）

（保育士等専門職者向け講演・研修）

- 記録をもとにした保育の振り返り（鳴沢村・保育所）
- 保育士による保育研究・保育実践の評価（岡谷市・保育所）
- 「保育士等キャリアアップ研修」／保育所等関係職員研修（山梨県）
「幼児教育」「マネジメント」
- 「保育所保育指針」の改定に関する講習（甲州市、韮崎市、大月市、山中湖村）

アピールポイントなど

教育哲学・思想史研究をバックグラウンドに、保育の具体的な実践や保育者養成のあり方を探究してまいりました。保育の具体的な実践においては、背景にある思想—子ども、保護者、保育者、地域の思い—も同時にしっかり「考える」ことを大切にしています。



健康開発学科 健康行動科学専攻

大木 いずみ 教授

【研究分野】 公衆衛生学・疫学、疾病登録、がん対策
 【キーワード】 がん登録、がん検診、がん対策、地域保健
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=3150ki>



がん登録からがん対策への期待

研究概要

全国がん登録のデータから、都道府県ごとのがん罹患・死亡状況を観察して、その地域に重要ながん対策へつなげる研究をしてきました。

市町村のがん検診事業においても、感度・特異度、陽性反応の中度を求めたり、プロセスを含めて評価検討し、より効果的な検診事業改善への提言をしてきました。

公衆衛生対策を実施する際に必要な、エビデンスとしてのデータ収集について、様々な角度から関与しています。データ利用促進に関する研究・活動もしています。

研究紹介

Cancer Observatory がん統計ポータルサイト
<https://canobs.jp/>



講座テーマ紹介

1. がん登録から地域のがんの状況把握、がん対策への応用など（長期的な検討）
2. がん検診の精度管理の評価
3. 院内がん登録の評価方法
4. 院内がん登録を用いたがん診療の実態把握・感染症（COVID19等）や災害ががん診療に与える影響を把握する
5. がん登録の精度評価・向上対策
6. ライフステージに応じた健康講座
 「がん」に関する健康講座（一般向け）：総論的な内容と予防
 「がん」に関する授業（小学生～中学生向け）

アピールポイントなど

栃木県では、保健医療福祉関係の方の調査研究サポート事業に参加実施してきました。国・都道府県の各種委員会に参加しています。
 日本がん登録協議会副理事長



健康開発学科 健康行動科学専攻
北島 義典 教授

【研究分野】 運動疫学、公衆衛生学、健康教育学
【キーワード】 自立高齢者、集団戦略型健康づくり、身体活動、協働
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=218kita>



社会的成果につながる健康づくりへ －研究をどのように実社会に還元するか－

研究概要

社会的成果につながる健康づくりへ

これまで高齢者の健康づくりは機能回復に主眼が置かれる傾向にあります。これから高齢者が地域の中に生きがいや役割をもって生活できるような環境を整備して健康づくりを目指す必要があります。そのためには、**全ての人々を対象とした集団戦略型の健康増進対策として健康づくりを実践することが重要**です。これらを実現するためにはヘルスプロモーションを念頭においた多領域・多分野の専門家が学際的に連携し、さらに**住民と行政との協働によって、包括的な健康づくりの方法を開発**することが必要となります。

研究紹介

都留スタディ

テーマ

地域の自立高齢者を対象とした生活拠点型介護予防システムの開発

山梨県都留市（総人口；31,246名、高齢者人口；8,155名） 2019年時点

* 高齢化率：26.1%（全国26.7%；県内19位/27市町村）

ベースライン調査 2016年1月



追跡調査



2018年1月
2019年1月
2022年1月

研究対象者：**全ての自立高齢者6,661名**

（市在住の要介護認定を受けていない人）

調査方法：**全数調査（郵送法）**

回収数（率）：5311名（79.7%）

調査内容：基本チェックリスト、身体活動、膝痛、認知機能、うつ、睡眠、フレイル、既往歴など

☆ベースライン調査と同様のものを毎回実施

☆介護認定者数等の把握

☆各調査期間までのデータを用いて変化を検討

※**研究者と行政との連携から**

→ **地域保健政策に活かせるエビデンス（根拠）の提供**

講座テーマ紹介

・地域高齢者の集団的健康づくりの開発とその評価について

アピールポイントなど

現在、我々は山梨県都留市の全自立高齢者の健康実態調査を用いて、**厚労省が進めている「通いの場」の効果検証**を進めています。**住民主体の健康なまちづくりを住民・行政・研究者の協働ですすめてみませんか。**

自治体での委員

- ・都留市 セーフコミュニティ外傷サーベイランス委員（2018年11月～）
- ・春日部市 健康づくり推進審議会 委員（会長）[2019年4月～]
- ・春日部市 高齢者保健福祉計画等推進審議会 委員（会長）[2019年4月～]
- ・越谷市 生涯学習審議会 委員（副会長）[2021年4月～]
- ・戸田市 保健対策推進協議会 委員（会長）[2021年4月～]



社会的成果につながる健康づくりへ — 身体活動を用いた不眠改善プログラムの開発 —

健康開発学科 健康行動科学専攻
北島 義典 教授

【研究分野】 運動疫学、公衆衛生学、健康教育学
【キーワード】 自立高齢者、集団戦略型健康づくり、身体活動、睡眠
【U R L】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid/334.html?pdid=218kita>



研究概要

身体活動を用いた不眠改善プログラム

我々は 睡眠に不満を持っている女性自立高齢者31名を4週間、毎日就寝前にヨガストレッチ（5～10分）＋日中に散歩（20分）を実施する群（介入群：15名）と4週間これまで通りの生活を過ごす群（対照群：16名）とに無作為に分けて、ストレッチ運動が不眠に及ぼす影響を検討しました。その結果、運動を実施した群で中途覚醒時間の短縮（一晩に途中で目が覚めずに眠り続けられるようになる：図1）、及び主観的な睡眠感の得点の減少（得点の減少は良好であることを示す：図2）が示されました。このことから、実施した運動によって軽度な疲労が生じ、その疲労を回復するために眠り続けられるようになり、そのことで睡眠への満足度が高まったことが分かりました。

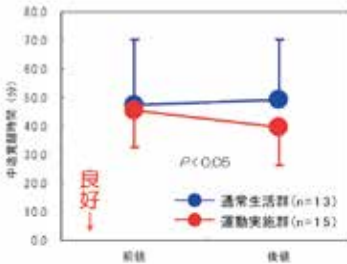


図1 中途覚醒時間の変化
＜眠り続けられるようになった＞

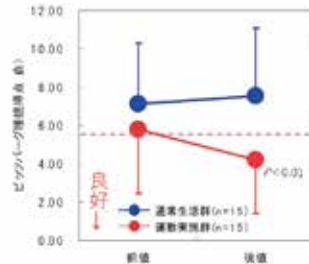


図2 睡眠総合得点の変化
＜睡眠に対する満足度が高まった＞

講座テーマ紹介

- ・地域高齢者の福祉について
- ・身体活動の推進（座位行動の減少）について
- ・地域高齢者の身体機能・精神的機能について

アピールポイントなど

これまで、高齢者の健康づくりは機能回復に主眼が置かれる傾向にありました。これからは高齢者が地域の中で生きがいや役割をもって、いきいきと生活できる環境を整える中で健康づくりを目指すことも必要です。また上記のような科学的根拠に基づいた健康支援プログラムを用いて、より多くの人を対象とした際の集団戦略型の介入研究の蓄積が必要になります。住民主体の健康なまちづくりを住民・行政・研究者の協働ですすめてみませんか。

自治体との共同研究

- ・都留市 長寿介護課との共同研究（1995年6月～）
- ・都留市 セーフコミュニティ外傷サーベイランス委員（2018年11月～）



健康開発学科 健康行動科学専攻

高橋 宏至 教授

【研究分野】 学校安全、学校保健、学校体育
 【キーワード】 学習指導要領、教育課程、教師行動、言葉かけ、教材づくり
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=265taka>



学校における健康・安全の推進

研究概要

学校教育の充実のためには、家庭・地域の協力は不可欠です。さらに、行政機関や関係諸機関との連携の基で、各学校は自校の特色を生かした教育活動を実施する必要があります。研究では、「学校安全」「学校保健」「学校体育」等を通して、教師の言葉かけなどの指導法、学習指導要領を基準に教育課程の編成の工夫などに取り組んでいます。

講座テーマ紹介

●学校安全講座

学校安全の3つの領域である「生活安全」「災害安全」「交通安全」について、児童生徒を学校・家庭・地域で守る観点で解説します。

- ・「生活安全」
防犯教育として、不審者から身を守るために、学校・家庭・地域でできることを、地域安全マップをもとに考えていきます。
- ・「災害安全」
地震だけでなく、台風、津波、火山噴火などの自然災害について、学校安全の立場から考えていきます。
- ・「交通安全」
交通事故にあわないためには、児童生徒に危険を予測し回避する力を身に付けさせることが必要です。交通事故にあうリスクを減らすために危険予測学習をもとに考えていきます。

アピールポイントなど

学校安全に長年にわたり関わってきました。現在は埼玉県教育委員会から学校安全アドバイザーを拝命し、県内の管理職研修や教員研修をはじめ、直接授業の指導にあたり、より良い授業づくりを目指しています。



健康開発学 健康行動科学専攻

延原 弘章 教授

【研究分野】 保健統計、疫学

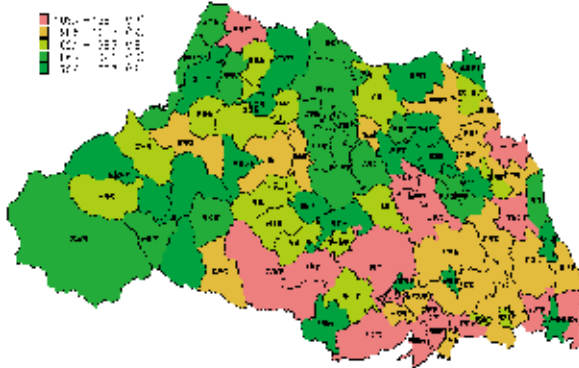
【キーワード】 標準化死亡率

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=215nobu>

保健医療福祉に関する調査研究

研究概要

地域における調査や行政統計などを用いた疫学研究を行っています。現在は主要な死因について、1983～2017年の全国市区町村別標準化死亡率（SMR: Standard Mortality Ratio）の推移についての研究を行っています。SMRは塗り分け地図（SMR分布地図）を作成することにより特定の死因の地域的な偏在の確認ができますが、長期的な推移についてはこれまであまり検討されることがありませんでした。そのため、まず同一の基準で時系列で比較可能なSMRのデータベースの作成を試みています。



埼玉県市町村別乳がん(女)SMR(バイズ統計量)分布地図(1996-2000年)

講座テーマ紹介

●専門職向け

「調査データ分析の基礎」：統計調査の経験の少ない方は、どのような統計手法を使えばいいのか分からなくて困っていると言われるかもしれません。しかし、一緒に作業をしてみると、そもそもデータの入力方法が間違っている、統計分析に適さないデータの収集の仕方をしているということが少なくありません。データクリーニングという概念すら知らないままに分析をする方もいます。調査データ分析の基本的な内容から簡単な分析までをお話しします。

「データ分析演習」：特別な統計分析ソフトがなくても、ある程度のことはExcelやフリーソフトで可能です。簡単な統計分析の演習を行います。

アピールポイントなど

岡山県看護教員養成講座の看護研究（調査研究）講師、岡山県看護協会研修会講師（看護研究）等の経験があります。また、2001年から約10年にわたってインフルエンザワクチン需要予測調査（厚生労働省科学研究費補助事業）を実施してきました。



健康開発学科 健康行動科学専攻

内山 真理 准教授

【研究分野】
【キーワード】
【U R L】公衆栄養、栄養教育
食育、栄養、食事調査
<https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=220uchi>

研究概要

食育は、対象集団の食生活に関する実態を把握し、健康・栄養上の課題を明らかにすることから始まります。そこで、下記①～③について提案を行い、学校、地域、職域におけるエビデンスに基づいた食育をサポートします。

- ①食育計画立案、評価のための食生活に関する実態調査（食事調査を含む）の計画、実施、分析、評価
 - ②実態調査に基づいた食育計画の立案
 - ③食育計画に基づいた食育プログラムの計画、実施、評価
- こうした活動を通じ、食・栄養に関するエビデンスを構築し、幅広い世代の健康づくりに貢献したいと考えています。

スタート

小学生を対象とした
親子食育講座大学生を対象とした食育イベント
(埼玉県立大学HPより)「地域住民を対象とした
減塩講座」

講座テーマ紹介

学校・自治体・企業等から依頼を受け、下記のような講演・食育活動を行っています。

- ・食育講座 「朝食の大切さ」、「子どもからはじめる減塩」
- ・生活習慣病予防講座 「健康的にやせる栄養の基礎」、「減塩の工夫」
- ・介護予防講座 「高齢者の栄養」、「骨粗鬆症予防のための食事」
- ・市民講座、高校出張講座 「健康食品・サプリメントとの上手な付き合い方」
- ・食育活動 「親子食育講座」、「大学生を対象とした食育イベント」

アピールポイントなど

人々の食は、家族、経済、環境などの様々な要因が複雑に絡み、多様化しています。また、食は、栄養素を摂取するという生理的な機能だけではなく、楽しく食べることで心の満足感を得たり、人と人のコミュニケーションを円滑にするといった心理的な機能、食文化、食習慣を伝える文化的な機能を持ちます。管理栄養士としての専門性を生かし、さまざまな専門分野、職種の方々とのつながりを大切にしたいと考えています。



日本人の他界観・犯罪被害遺族と司法

健康開発学科 健康行動科学専攻

白岩 祐子 准教授

【研究分野】 社会心理学、死生学、被害者学
 【キーワード】 死別・死生観・死後観・信仰、被害者法制・効果検証・交通事故の撲滅
 【URL】 <https://yukoshiraiwa-rana.jimdo.com/>



研究概要

犯罪被害者という「心のケア」が注目されがちですが、多くの被害者やご遺族は**刑事司法**（捜査や裁判など）に強い関心と利害を有しています。そのため日本では2000年以降、複数の被害者法制が制定されてきました。それらの司法制度について心理学的な観点から**効果検証**を行ったり、**交通事故**を根絶するための政策を提言したりしています。

また、被害者遺族との交流をきっかけに死別や死生観にも関心を抱くようになりました。ここ数年は**日本人の他界観・死後観**をテーマとして、その構造や社会的機能を明らかにするための取り組み（実験や調査など）を行っています。

研究紹介

1. 被害者のための司法制度

- 1) 「被害者対策要綱」の効果検証：警察による配慮・情報提供・公正な捜査
- 2) 「被害者参加制度」の効果検証：事件について知る権利
- 3) 交通事故を根絶するために：人ではなく環境（道路・自動車など）に働きかける政策

2. 死別と他界・信仰

- 1) 日本人の他界観・死後観：その全容と社会的機能
- 2) 死をめぐる所作（形見への愛着、解剖の拒否、死者の理想化）
- 3) 信仰が社会的行動（援助や違反など）に及ぼす影響

講座テーマ紹介

1. 犯罪政策・政策一般

- ・犯罪被害者のための刑事司法：これまでの遺族の歩み・制度の意義と課題
- ・本気で考える「交通事故ゼロへの一歩」：社会心理学的アプローチ
- ・ナッジ・行動インサイト：人間の実態をふまえた政策デザイン

2. 死別と他界・信仰

- ・「故人は見守ってくれている」：ご先祖様信仰からみる日本人の死後観
- ・なぜ死者を批判してはいけないのか：5つの仮説と実証 など

アピールポイントなど

- ・警察庁 犯罪被害類型別調査 企画分析会議 委員
- ・東京大学 死生学・応用倫理センター 運営委員
- ・環境省 日本版ナッジ・ユニット連絡会議 有識者委員
- ・公益財団法人 犯罪被害者支援基金 理事などを歴任



健康経営の推進～健康課題の見える化と健康文化の醸成～

健康開発学科 健康行動科学専攻

津野 陽子 准教授

【研究分野】 健康経営に基づく保健・医療情報を活用した健康課題の可視化
 【キーワード】 健康経営、データヘルス、労働生産性、働き方改革、産業保健
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=299tsuno>



研究概要

健康経営とは、従業員の医療・健康問題を経営課題と捉え、健康と生産性の両方を同時に行うマネジメント（Health and Productivity Management）の手法です。

組織の健康課題を可視化し健康リスクを評価する手法および健康リスクと生産性の関連は国内外において研究が蓄積されてきていますが、健康経営に取り組んだ効果をどのように測定するのか、何をもちて効果があると言えるか、学術的にも実践的にも検討課題となっています。組織における健康経営の効果はどのように測定するか、健康経営を促進する健康文化について研究しています。

研究紹介

- 健康経営に基づく健診データ等を活用した健康課題の見える化
- 健康経営推進のための組織（職場）の健康文化の醸成
- 健康課題の見える化と働き方改革の推進
- 健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築
- 健康・医療情報を活用した「健康経営」の効果測定の分析モデルの開発

対象組織参加型で共同研究を提案しています。

講座テーマ紹介

- 健康経営と働き方改革
- 企業・組織と保険者とのコラボヘルス推進
- PDCAサイクルに基づく保健事業の展開

などをテーマにした講演、研修会

アピールポイントなど

日本再興戦略に「健康経営」という言葉が出る前の2013年から健康経営研究に従事してきました。共同研究等により実践的な健康経営の推進とともに国内外の知見を踏まえた研究的エビデンスの蓄積を進めております。これまで保険者、経営者、保健事業担当者、健康管理担当者などを対象に多数講演・研修会を実施させていただいております。

（参考）健康経営の枠組みによる健康課題の見える化 <http://square.umin.ac.jp/hpm/>



ビジュアルを活用した医療情報伝達

健康開発学科 健康行動科学専攻

原本 万紀子 准教授

【研究分野】 医療コミュニケーション、情報リテラシー
 【キーワード】 メディカルイラストレーション、インフォグラフィック
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=300hara>



研究概要

複雑な医療情報を齟齬なく伝達するため、文字に加えて、情報の興味関心の喚起・理解促進・知識持続に効果的なイラストレーションの研究を、科学的に実施しています。

イラストと一口にいても、様々な描き方や情報の切り取り方があり、それらをパターン化することで、伝えたい情報と伝えたい相手に対して、どのような情報作りが適しているのかを、探っていきます。

研究紹介

■がん情報の提供を想定した適切なイラストレーションの模索

国立がん研究センターと共同で、がんセンターが保有する患者さん向けがん情報資料を活用し、それに付随するイラストとしてどのような描写、どのような描き方が出来ているのかを、がん経験者・未経験者それぞれに、性別や年齢、普段の情報収集の仕方等、様々な因子で被験者を分類し、科学的にイラストの効果について探りました。

■裁判員の心理的負担軽減に向けた裁判員裁判で用いる御遺体写真のイラスト化の検討

裁判員裁判は刑事事件に市民が参加をする制度ですが、参加を行う際に凄惨な証拠写真を見ることがあり、心理的負担を訴える人も少なくありません。そのような状況を減少すべく、情報として適切なかつ凄惨さを軽減するようなイラストレーションの特徴を科学的に分析しています。

講座テーマ紹介

- ビジュアルを活用した情報伝達及び情報受信
- ディープフェイクや、デマ等に惑わされないための情報リテラシー構築
- ビジュアル・リテラシーの構築

アピールポイントなど

現在、誰でもどこでもビジュアルによって情報を得られる日常となっています。それらの情報を疑い、またどのように自身でもイラストやビジュアルを活用し、情報をうまく発信できるのか、そのような点を探っていきたいと考えています。



不明確な診断をめぐる諸問題の解明

健康開発学科 健康行動科学専攻

本間 三恵子 准教授

【研究分野】 医療社会学、ヘルスコミュニケーション
 【キーワード】 不定愁訴（MUS）、医療化、受療行動、説明モデル
 【URL】 https://researchmap.jp/mieko_homma



研究概要

「健康になるための方法」というより「<健康>を追求する人々の価値観とは？」「<健康/病気>の境界とは？」のように、俯瞰的な視点から「健康」を考えています。

特に自覚症状が強いにも関わらず、診断がつきにくく・効果的な治療法がない、いわゆるMedically Unexplained Symptoms（MUS）をめぐる諸問題を、関係者の意識、解釈、受療行動に注目して明らかにしてきました。最近ではより人文社会的アプローチ、文化・社会的側面に着目して立体的に現状を明らかにしようとしており、特に北欧の取り組みや状況と比較しながら進めています。併せて診断というラベル自体が持つ意味、診断の成立過程についても、多様な利害関係者間の相互作用に着目しつつ考察しています。

研究紹介

1. 診断をめぐる諸問題、医療化（sociology of diagnosis/ medicalization）
2. 健康志向・ヘルシズムと社会文化的事象
3. 機能性疾患の診療における患者・医師の説明モデル（日本・デンマーク）
4. ナチュラル・オーガニック志向とライフスタイル（日米比較）

健康に関わる行動や人々の捉え方を、evidence-basedな選択という側面だけでなく、個人の価値観や文化という視点から広く考えています。

特にこれまで、北欧と米国（ハワイ）をフィールドとした調査を実施してきました。

アピールポイントなど

臨床のトピックに特化しているわけではなく、健康や身体に関わるテーマを中心にとした現代社会論という観点で、保健医療福祉以外のテーマにも取り組みたいと思っています。特にメディアや大衆文化と人々の意識・価値観に関心があります。



生体内の微量成分の分析法の研究開発

健康開発学 検査技術科学専攻

廣渡 祐史 教授

【研究分野】 生化学、分析化学、臨床化学、動脈硬化
 【キーワード】 HPLC、リポ蛋白、ビタミンE、血小板、セロトニン
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=228hiro>



研究概要

病態および疾患に関連する生体内の微量成分の分析法を研究し確立いたします。病態や疾患に関連する生体内の微量成分は多い。しかしながら、ターゲットとなる物質が明らかにされていたり、推定されていたりしても、その分析法が確立されていないケースも多い。また、その分析法が確立されていても、操作が煩雑であったり、感度や再現性が低く研究が進んでいないケースも多い。

研究紹介

現在の主な研究テーマは次となります。

- ① 血小板活性化を反映する血液中の検査マーカー（サロゲートマーカー）の探索研究
- ② リポ蛋白垂分画の分析法の検討および臨床有用性
- ③ LDL中ビタミンEの臨床的有用性

これまでの研究実績は次となります。

① リポ蛋白中コレステロールの分析法の確立と臨床有用性の検討

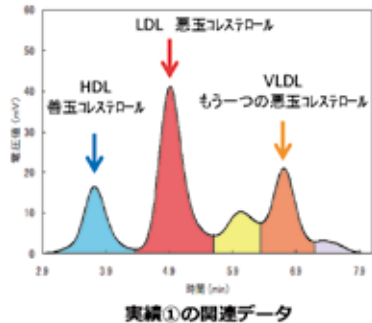
- ・HDL、LDLだけでなくIDL、VLDL、Chylomicron、Lp(a)中のコレステロールの定量を可能にした。
- ・ダイエットによりLp(a)コレステロールが上昇することを明らかにした。

【関連文献】 Hirowatari Y, Yoshida H, Kurosawa H, et al. J Lipid Res. 2010 May;51(5):1237-43.

② 血小板活性化を反映する乏血小板血漿中セロトニンの分析法の確立と臨床有用性の検討

- ・乏血小板血漿中セロトニンの定量を可能にした。
- ・微小血管狭心症では冠動脈中の乏血小板血漿中セロトニンが上昇することを明らかにした。

【関連文献】 Hirowatari Y, Hara K, Kamihata H, et al. Clin Biochem. 2004 Mar;37(3):191-7.



実績①の関連データ

講座テーマ紹介

動脈硬化・生活習慣改善などの健康に関する講座を行っています。テーマ・内容はご要望をお聞きます。

- ① 全身に張りめぐらされた血管
血管のことを学びながら、健康について考えてもらいたいと思います。血管の老化と病気について話します。
- ② 食べることの大切さと健康について
食べ過ぎは病気になること、偏食も病気につながること、味わって食べることの大切さを話します。

アピールポイントなど

共同研究により、臨床有用性の高い生体内の微量成分の分析法を確立します。確立した分析法の有用性を実際の臨床検体を用いて研究を進めます。必要に応じて、分析法を商品化するために測定時間の短縮などの検討をいたします。



健康開発学科 検査技術科学専攻

松下 誠 教授

【研究分野】 臨床化学、酵素化学、病態検査学

【キーワード】 酵素、臨床化学検査、電気泳動法、酵素活性

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=224matsu>

臨床酵素の酵素化学的研究

研究概要

酵素は生体に不可欠となる種々の化学反応を触媒しています。臨床検査では、①血液中に含まれる AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) や ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ) などの酵素量を調べ、さまざまな疾患をスクリーニングすること、②酵素を検査試薬として使い、感度および特異性の高い検査法を確立することなど、現在の医療に幅広く利用されています。本研究室では、現在までにアルカリ性ホスファターゼ (ALP) と血液型との関係、および乳酸脱水素酵素 (LD) 活性とH型およびM型サブユニットとの関係などを解明し、臨床酵素を酵素化学的に解析して医療に貢献する研究に取り組んでいます。

研究紹介

1. ALP と血液型との関係の解明とその対応

ALP は肝胆道系疾患や骨疾患のスクリーニング検査として広く利用されています。このALP は産生する臓器によって構造が異なる4つのアイソザイム (肝臓 ALP、骨 ALP、小腸 ALP、胎盤 ALP) が存在し、これら4種のアイソザイムの総和を測定することがALP 検査となります。私たちは、小腸 ALP はBまたはO型の分泌型に依存して出現することから、これらの血液型の約5%の人で ALP 検査が偽高値を示し、誤った診断がなされてしまうことを明らかにしました。一連の私たちの研究成果より、日本における ALP 検査の基準法が2020年4月より血液型の影響をより受けない IFCC 法に変更されました。

2. LD のH型およびM型サブユニットの反応性の相違と疾患との関係

LD はH (heart) 型およびM (muscle) 型という異なる2種のサブユニットから成る4量体であり、その組み合わせから5つのアイソザイムが存在しています。この中で心筋に多いLD1 (H4型) は心筋梗塞など心疾患、またLD5 (M4型) は急性肝炎などの肝疾患の指標とされています。私たちは、H型がM型に比べ約5倍の活性を有していることを明らかにし、血中に流出する酵素分子数と疾患との関係を明確にしました。

講座テーマ紹介

1. 酵素検査の基礎と健康・病気との関係
2. 臨床酵素の酵素化学的研究
3. 分光光度法を活用した臨床化学検査の特徴

アピールポイントなど

1. 上記研究テーマで多数の学会賞を受賞しています。①日本電気泳動学会児玉賞、②日本臨床化学会学術賞、③日本臨床検査医学会論文賞、④小島三郎記念技術賞、など。
2. 日本臨床検査学教育協議会副理事長、事務局長などの役職を10年以上経験しています。



市中の黄色ブドウ球菌（MRSA）実態調査

健康開発学科 検査技術科学専攻

村井 美代 教授

【研究分野】 細菌学、細菌遺伝学、感染制御
 【キーワード】 黄色ブドウ球菌保菌調査、MRSA、AMR対策アクションプラン
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=227mura>



研究概要

近年、抗菌薬が効かない**薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）細菌**が世界中で増えています。これまでは適切に治療をすれば回復できた感染症が、治療薬が無効になるため重症化しやすくなり死亡に至る可能性が高まっています。何も対策を講じない場合、2050年には世界で感染症による死亡者数は、がんによるものを超えると推定されています。

AMR対策の標的のひとつである多剤耐性の**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）**は、1980年代から病院内で猛威を振るっていました。現在MRSAは、院内にとどまらず健常者に常在していたり、環境に広く分布しているといわれていますが、その実態は明らかではありません。私たちは**市中におけるMRSA制御に貢献すること**を目的に、主に健常者やヒトを取り巻く環境から黄色ブドウ球菌を分離して、比較解析を行っています。

研究紹介

1. 黄色ブドウ球菌の咽頭保菌に関わる要因の探索

健常者の鼻腔と咽頭保菌調査から得た以下の知見を基に、咽頭からの黄色ブドウ球菌除菌法を検討しています。

- ① 咽頭保菌率は鼻腔保菌率よりも高い。
- ② 咽頭保菌と鼻腔保菌は独立した現象である。
- ③ 口腔保健行動を活発に行う集団は咽頭保菌率が低い。
- ④ 咽頭は鼻腔に比べて菌株の入れ替わりが多く、環境の影響を受けやすい。

近年健常者の鼻腔と咽頭における黄色ブドウ球菌保菌状況
2016-2018年調査 (n=313)



2. 下水から分離された黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率の調査

ヒトの全身の常在菌が含まれる生活排水（下水）から黄色ブドウ球菌を分離し、MRSAの割合をモニターしています。分離したMRSA株は、その下水処理場の流域下水道処理区域内から得られた臨床分離MRSA株と比較解析し、相互の関係を明らかにする予定です。

講座テーマ紹介

- **感染対策に関する講座〈一般向け〉**
 - ・「そのマスクは誰のため？」：新型コロナウイルス感染対策について
 - ・「その風邪に抗生物質は効きますか？」：抗菌薬適正使用について
- **感染症遺伝子検査に関する講座〈専門職向け〉**
 - ・「今さら聞けない！感染症遺伝子検査の基礎知識」
 - ・「場面に応じたMRSAの遺伝子型別法の使い分け」

アピールポイントなど

AMR対策アクションプラン実施にもかかわらず、臨床におけるMRSA率は目標の20%に届かず、40%代後半で下げ止まっています。市中のMRSA蔓延状況の調査と菌株解析を通じて、臨床のMRSA率の低下に貢献したいと考えています。



睡眠を改善する介入プログラムの開発と効果の検証

健康開発学 検査技術科学専攻

有竹 清夏 准教授

【研究分野】 臨床生理学、睡眠医学、時間生物学

【キーワード】 睡眠、不眠、脳波、脳機能、温熱生理（体温）、認知科学、女性、運動、睡眠衛生、超音波

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?paid=225ori>



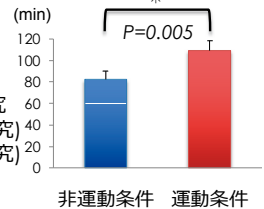
研究概要

一部の不眠症やうつ病では、自身の睡眠時間を著しく少ないと評価する**睡眠時の時間感覚の異常**が認められ、その背景には**深い睡眠の減少**が関連している可能性が考えられています。そこで**不眠症の生理学的メカニズム**を探るとともに、**深い睡眠を増やす身体運動や温熱刺激を用いた有効な介入プログラムや新たな評価法**を確立し、現代社会で誰もが抱え得る**不眠の改善**に貢献したいと考えています。健康者や不眠症者、精神的・身体的不調を抱えやすい女性を対象に基盤研究・臨床研究に取り組んでいます。

研究紹介

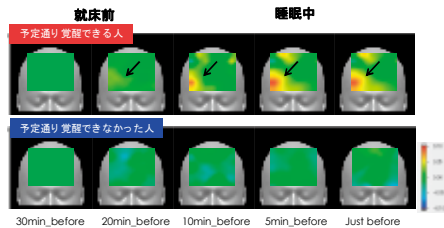
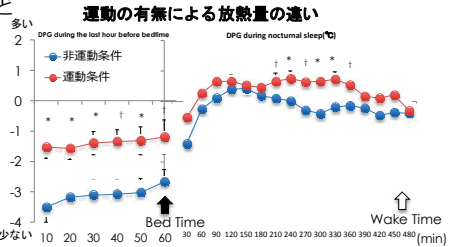
- 睡眠中の時間感覚と生理学的メカニズムの研究
- 女性の睡眠と体温リズムに関する研究
- 身体運動が睡眠中の生理機能と認知機能に与える効果に関する研究
- 睡眠呼吸障害時の脚運動と心血管疾患リスクに関する研究(共同研究)
- 地域包括に向けた高齢者の睡眠マネジメントに関する研究(共同研究)
- 乳幼児の睡眠と運動発達に関する研究(共同研究)
- 新たな睡眠指針のための環境整備に関する研究(共同研究)
- 睡眠衛生、QOL、疲労に関する疫学研究 など

運動の有無と深睡眠量



講座テーマ紹介

1. 高齢者への睡眠衛生に関する講座
2. 小、中、高、大学生を対象とした睡眠衛生教育講座
3. 睡眠の基礎、睡眠障害に関する一般、専門職者向け講座
4. 睡眠計測・睡眠判定基準に関する専門職者向けの講座
5. 睡眠の臨床研究(治験)における医療技術講座・支援



アピールポイントなど

1. Increased cerebral blood flow in the right frontal lobe area during sleep precedes self-awakening in humans. BMC Neuroscience, 2012
2. Prevalence and associations of respiratory-related leg movements: The MrOS Sleep Study. Sleep Medicine, 2015
3. Diurnal repeated exercise promotes slow-wave activity and fast-sigma power during sleep with increase in body temperature: a human crossover trial. Journal of Applied Physiology, 2019
4. Periocular skin warming elevates the distal skin temperature without affecting the proximal or core body temperature. Scientific Report, 2019
5. Periocular skin warming promotes body heat loss and sleep onset latency: a randomized placebo-controlled study. Scientific Report, 2020



心血管系の組織発生と標本の作製法

健康開発学 検査技術科学専攻

安藤 克己 准教授

【研究分野】 組織学、発生学、病理学、病理検査学

【キーワード】 心臓、血管、組織発生

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=229an>



研究概要

・心臓動脈の発生をきっかけに、発生期の心内膜組織や血管組織の染色性、血管組織マーカーの発現から、冠状動脈と大動脈の形成過程での関わりについて調べています。最近では、病理検査で使われている弾性線維染色の染色能力について、形態形成途上の組織の面から比較検討しています。

講座テーマ紹介

生物組織標本の作製と観察

(一般講座)

- ・「魚の顕微鏡標本を作ろう」
「ごはんの友シラスを極める！」など小学生向けの「生命科学体験教室」として開講。食材としてなじみの深い魚を材料に、それらの組織標本や骨格標本を作り、顕微鏡観察を通じて、魚類から人類に到る進化の中で引き継がれる体のしくみについて解説。
- ・「食肉組織を見てみよう」
オープンキャンパスでの模擬講座として開講。精肉のみならず加工肉製品について組織標本を作製し、肉製品の製造過程で添加される炭水化物や脂質の分布について観察。

病理学・病理検査学

(教育機関向け)

- ・「病理学・病理検査学」
高校生向け開放授業「臨床検査概論」の中の病理検査の回を担当。また以前、県立高校の専攻科にて「病理学」の授業も担当。

アピールポイントなど

当時、北浦和の地にあった前身の学校に勤めてから、動物組織を生かした教育や研究にずっと取り組んできました。昨今の騒動が始まる以前は、スーパーの店頭にも並んでいるような食材を使つての公開講座で、毎年、小学生の皆さんにもお目にかかっていました。

生物組織標本を作製するためには、ミクロトームなどの特殊装置がいくつか必要ですが、本学には教育上の使命からそれらの装置が十分な数、設置されています。教育研究での希望があればご相談ください。

白血病幹細胞/前駆細胞のシグナルに関する研究

健康開発学科 検査技術科学専攻

井原 寛子 准教授

【研究分野】 血液学、細胞検査学

【キーワード】 白血病、幹細胞、シグナル伝達

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=233iha>



研究概要

- ①白血病幹細胞/前駆細胞の過剰な自己再生能と分化停止が原因である白血病に関して、その白血病幹細胞の増殖を制御しているHedgehog、Notch、Wntシグナルにおける自己複製能のコントロール機序と各シグナルのクロストークについての検討。
- ②造血器腫瘍の遺伝子異常解析とその検出法の検討。

研究紹介

- 種々の白血病細胞に対するWnt、Hedgehogシグナル阻害剤の作用及び、他剤との併用効果に関する検討
- 急性骨髄性白血病におけるNPM1遺伝子変異について、quenching probeを用いた簡便かつ高感度な検出方法の確立

講座テーマ紹介

- 白血病幹細胞を制御するシグナル研究の紹介
「白血病細胞におけるWntシグナルについて」
- 血液学に関する基礎講座
「貧血はなぜおこるのか」
- 小学生向け体験講座
「血液1滴からわかること」

アピールポイントなど

分子標的療法をはじめとする薬物療法の進展に伴い、白血病治療の奏効率も改善しつつありますが、依然として難治・再発例があり、これらの症例では薬効を逃れた白血病幹細胞が耐性、再発に関与していると考えられています。完治には白血病幹細胞の自己複製能の制御が重要であり、白血病幹細胞の自己複製と分化に関するシグナルについて種々の白血病細胞を使用した基礎研究を行っています。

また、小学生を対象とした公開講座を継続しており、血液検査の一端を経験してもらいながら血液細胞や、造血の仕組みの理解につながる講座を目指しています。



大腸がん検診の向上、AI (Deep learning) による画像分類システム開発、腎疾患スクリーニング検査

健康開発学科 検査技術科学専攻

岡田 茂治 准教授

【研究分野】 大腸がん検診、AI (Deep learning) による画像分類、腎疾患スクリーニング
 【キーワード】 大腸がん検診、人工知能、Deep learning、腎疾患スクリーニング
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=301oka>



研究概要

●大腸がん検診の有用性に関する研究

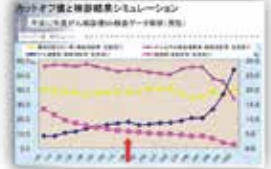
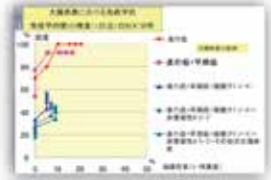
我々の研究結果では、適正なカットオフ値の設定とカットオフ値を参照した精検受診の勧奨が、大腸がん検診の効率向上に望ましかった。大腸がん検診の効率化により、大腸がん発見率の向上と有効な精検受診勧奨の実施、そして大腸がんによる死亡者の抑制に貢献できるものと考えている。さらに性別、年齢を加味したカットオフ値の検討を行うことで、さらに効率をあげられることが期待される。

●AI (Deep learning) による画像分類

臨床との共同研究で、舌癌術後リンパ節転移の予測AIシステムの開発や血液細胞の形態学的分類の施設間差是正へのAIシステムの開発などを行っている。臨床画像の分類モデル技術を確立しているため、様々な画像分類への応用が可能である。

●腎疾患スクリーニング

非侵襲的に腎疾患の早期発見や経過観察に有用な精度の高い検査法の開発を目指している。



研究紹介

●適正なカットオフ値や1次スクリーニング検査陽性者に対する精検受診者への勧奨のあり方、結果報告・勧奨方法など大腸がん検診の向上にむけた研究

●画像分類に対応できるAI (Deep learning) プラットフォームを、様々なAI画像診断に応用しAIシステムを開発する

●臨床診断精度の高い腎疾患スクリーニング法の開発を目指した基礎研究

講座テーマ紹介

●大腸がん検診のすすめ (一般市民向けのがん検診の理解とポイント)

●大腸がん検診の問題点と精度向上に向けて (がん検診従事者向け)

●腎尿路系スクリーニング検査の有用性 (一般市民向け)

アピールポイントなど

いままで臨床現場で大腸がんの検証研究を様々なアプローチで行ってきました。大腸がん検診に従事されている方々と共同で大腸がん検診のさらなる向上に向けた実践的研究活動を希望します。人生100年、QOLの向上など今後さらにがん検診や腎疾患スクリーニング検査への理解が重要になっていくので、一般市民への啓発活動も積極的にやりたいと思います。また、さまざまな画像に対応するAI画像識別技術を確認しています。画像識別におけるAIの活用は応用範囲がとても広い技術です。臨床だけでなく様々な分野の方々と共同研究ができることに期待いたします。



埼玉県内の臨床および下水から分離した ESBL産生大腸菌の解析

健康開発学科 検査技術科学専攻

岸井 こずゑ 准教授

【研究分野】 微生物学、臨床微生物学、感染制御学

【キーワード】 AMR、One health approach

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=269kishi>



研究概要

広域特異性拡張型βラクタマーゼ（extended-spectrum β-lactamase: ESBL）産生 *Escherichia coli* は、1980年代から欧米で出現し、瞬く間に全世界の医療機関に広まりました。我が国では2000年代に入り徐々に増加が見られ、その後、分離数が急激に増加しました。近年では、健康者の腸管内に一定の割合でESBL産生大腸菌が保菌されていることも明らかにされ、ESBL産生菌の感染対策には、臨床だけではなく市中および環境を含め、継続的に監視する必要性が高まっています。本研究では、環境および臨床由来ESBL産生 *E. coli* を対象として薬剤感受性試験、耐性遺伝子解析および全ゲノム解析を行い、各分野の薬剤耐性の状況や相互の関係性を明らかにすることを目的としています。さらに、本研究結果は新しい薬剤耐性監視システムの開発にもつながり、環境および臨床の垣根を超えた感染制御「One health approach」の一環として行うESBL産生 *E. coli* 感染対策に大きく貢献します。

研究紹介

- ①対象菌株及び菌種同定
 - ・ 下水処理場流入水由来および臨床由来 ESBL産生 *E. coli*
 - ・ MALDI-TOF MSにより *E. coli* であることを確認
- ②薬剤耐性遺伝子解析
- ③MLST解析：菌株間の関連性についての情報を獲得
- ④比較ゲノム解析：環境および臨床由来株における薬剤耐性遺伝子と遺伝子伝播に関与する遺伝子の保有・変異状況の調査



https://amr.ncgm.go.jp/pdf/20180326_ig_vol7.pdf

講座テーマ紹介

- ・ 日本国内の各分野における薬剤耐性 (AMR) 対策に関する一般向けおよび専門職者向け講座（専門職者向け講座はヒトに関する分野が中心となります）
- ・ AMRの世界的な動向に関する講座 など

アピールポイントなど

本研究は国立感染症研究所 薬剤耐性研究センターとの共同研究であり、同センターはWHOの“The Tricycle Project”から協力要請を受け、日本での実態を評価しています。本研究は関東圏の代表として埼玉県内での下水処理場流入水を収集し、AMRに関する状況の調査を目的とした下水サーベイランス事業に参加しています。それと並行して、埼玉県内の下水と生活圏が重なる地域病院からの臨床分離ESBL産生 *E. coli* の比較を行い、地域の薬剤耐性菌の関係性を解析しています。今後は同地域の畜産分野由来のESBL産生 *E. coli* の解析も進めたいと考えています。



健康開発学科 検査技術科学専攻
久保田 亮 准教授

【研究分野】 予防医学検査、食品検査に関する研究
【キーワード】 セルロースアセテート膜電気泳動法、腎障害、尿蛋白
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid/334.html?pdid=234kubo>



セルロースアセテート膜電気泳動法と 高感度銀染色液を用いた腎障害部位分類法

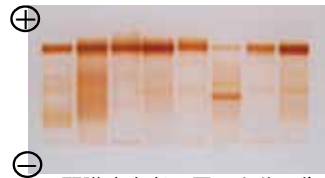
研究概要

腎疾患に関わるような尿中蛋白質を感度よく早期に発見することで、現在増加している透析患者を減らすことに貢献したいと考えて研究を行っています。

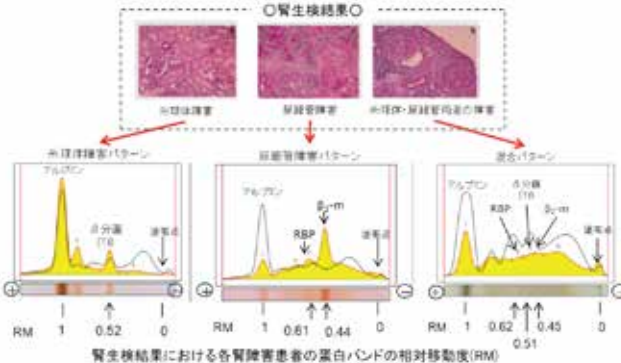
研究紹介

患者尿をセルロースアセテート膜に塗布し電気泳動を行い、専用の銀染色液で染色後、尿蛋白分画（右図）を行う。この分画像を尿蛋白病態解析ソフトウェアで解析することで、下図のように腎障害部位を分類でき、腎臓病の診断の補助になると考える。また本法は腎生検^{*)}結果と良好な一致率が得られている。

*) 腎生検とは腎臓を細い針で刺して、一部組織を取ってくる検査



腎臓病患者の尿蛋白分画像



講座テーマ紹介

- 【1】電気泳動法等の蛋白質分離方法の技術指導
- 【2】取得資格を活かした市販薬と健康食品に関する講演（公開講座）

アピールポイントなど

これまで下記に示した様々な研究テーマでも産業支援を行っています。

- ・発光検出によるイムノクロマト法に関する研究
 - ・電気泳動法を用いたリポ蛋白質分類法に関する研究
 - ・オゾンジェルを用いたう蝕、歯周病予防に関する研究
 - ・健康食品（サプリメント）の成分分析に関する研究など
- 上記研究テーマ以外でも、お気軽にご相談ください！



疾病予防に繋がる新たな免疫機能増進法の開発

健康開発学科 検査技術科学専攻

白土 佳子 准教授

【研究分野】 免疫学、生体防御学
 【キーワード】 自然免疫、NK細胞、NKT細胞、ノック式胸腺刺激法、疾病予防
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=19>



研究概要

超高齢社会を迎えたわが国では、平均寿命延伸するなかで“健康寿命延伸”に向けた取り組みが重要視されています。健康寿命延伸のためには、加齢に伴う免疫状態の低下を免れ、日常生活の中で免疫状態向上を自ら主体的に取り組むことが非常に重要であると考えます。私たちは、免疫機能の増進を図る目的で考案された「ノック式胸腺刺激法」が免疫機能の活性化をもたらす方法として、「多くの人が簡便で利用しやすい健康維持・増進 並びに 疾病予防」となる効果的な方法として確立を目指すために、胸腺刺激の効果について末梢血免疫細胞動態を調べ、科学的な検証を行なっています。

末梢血中の免疫担当細胞の活性化動態を幅広く解析することで、高齢者における免疫機能の維持・増進に繋がる新たな免疫賦活法として提案することにより、予防医学に貢献したいと考えています。

研究紹介

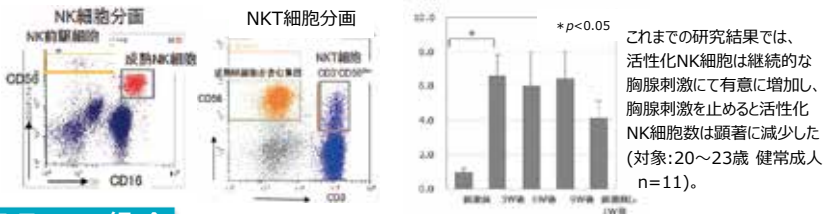
「ノック式胸腺刺激法」

- ① 両腕を胸の高さにあげ、両肩をそらして3回広げる。
- ② 胸骨部（心臓よりやや上方）を3回叩き、胸腺を刺激する。
- ①, ②を一連の動作として10セットを1日2回（朝、晩）実施する。



胸腺刺激法の特徴は、特殊な器具を必要とせず、いつでも、どこでも行うことができ、且つ 経済的負担がないことです。

科学的検証では、とくに、病原体などに対する初期の生体防御反応を担う重要な自然免疫系の免疫細胞であるナチュラルキラー(NK)細胞やNKT細胞の細胞活性化動態に注目している。中でも、NKT細胞は強力な抗腫瘍効果を示す細胞である。また、NK/NKT細胞活性化時における免疫反応の制御性応答(制御性T細胞)にも注目しており、幅広い視点で生体防御に関して新たな知見を得たいと考えています。NK/NKT細胞(下図の分画)の解析には、本学設置のフローサイトメーター(細胞1個ずつの特性を詳細に測定・解析できる測定機器)にて行います。



講座テーマ紹介

免疫力を高める方法、その効果などについて、健康増進、疾病予防に関する一般者向けの講座

アピールポイントなど

近年、NK/NKT細胞はがん免疫療法(NK細胞療法/NKT細胞療法)の一つとして非常に注目されています。ノック式胸腺刺激法にて強力な抗腫瘍効果をもつNK/NKT細胞の増加や活性化の亢進が見出されれば、高齢者における疾病予防に大きく貢献する研究となります。

今後、対象者を中高年者を含めた検討を実施するにあたり、生体防御機能に関わる共同研究のお誘い、ご相談をお待ちしております。



電子顕微鏡を用いた細胞診検査法の開発

健康開発学 検査技術科学専攻

矢野 哲也 准教授

【研究分野】 電子顕微鏡を用いた細胞診検査に関する研究、病理組織技術に関する研究
 【キーワード】 細胞診検査、電子顕微鏡、染色法、細胞表面解析
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=270yano>



研究概要

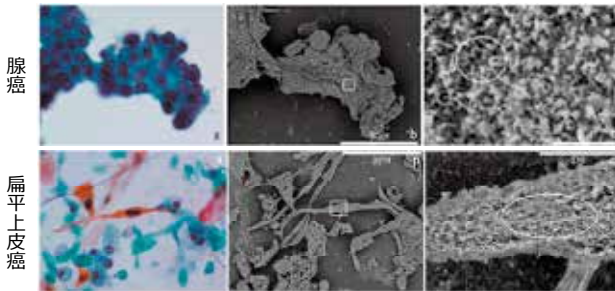
細胞診検査はパピニコロウ染色標本を光学顕微鏡にて観察し、がんなどの異常細胞を判定する検査です。しかし、光学顕微鏡での形態学的解析では分からないことも多く、分解能の高い電子顕微鏡を用いた観察によって、精度の高い検査を行うことを目指し研究しています。

研究紹介

卓上型の低真空走査電子顕微鏡を用い、細胞診検査で用いられるパピニコロウ染色標本の細胞表面の構造を詳細に解析し、悪性腫瘍の細胞判定の精度を向上することを目的としています。

細胞診検査では、病理組織診と比較し、低コストで侵襲性が低く患者さんへの負担が少ない一方、採取される検体量が少なく診断に苦慮することも少なくありません。低真空走査電子顕微鏡は、光学顕微鏡観察後の標本にリンタングステン酸処理を施すことで、細胞表面の詳細な観察を可能とします。

病理検査や細胞診検査についてどのような検査なのか、一般の方向けに分かりやすく解説します。



典型的な肺の腺癌と扁平上皮癌のパピニコロウ染色像（左）と同部位の走査電子顕微鏡像（真ん中、右）である。右写真では、細胞表面にある微絨毛の密度や長さなど明らかな構造的相違がみられる。

文献1) Yano T et al. *J Med Dent Sci.* 2017;64(1):1 - 8.

J Med Dent Sci 2017; 64: 1-8より抜粋¹⁾

アピールポイントなど

細胞検査士（日本臨床細胞学会認定）として病院病理部や検査センターで従事した経験があり、検査についてがん予防の観点からお話します。

その他、病理検査関連の試薬や機器の共同開発も行います。お気軽にご相談下さい。



健康開発学科 口腔保健科学専攻

植野 正之 教授

【研究分野】 歯科口腔保健、行動変容、国際保健
 【キーワード】 オーラルヘルスプロモーション、歯科保健行動、国際歯科
 【URL】 <https://researchmap.jp/7000025402>



豊かな味覚づくりのために

研究概要

ファストフード産業の急速な流入に伴い、近年日本の食生活は大きく変化してきています。こうした食生活の変化は日本人の味覚にも影響を及ぼしていると考えられています。基本味覚の中で、**うま味**は日本特有の味であり、日本食の基本である「ダシ」の主要成分です。しかし、若年者の多くがうま味を認識できていないと言われていいます。

健常な若年者を対象に**味覚感受性**の状況を詳細に調査し、食習慣や栄養との関連を検討することで、食生活・栄養指導、味覚教育など様々な側面からのアプローチが可能となります。こうした健全な**食の推進**は味覚の向上のみならず、**生活習慣病予防**を含む全身の健康維持のための食育にもつながります。

研究紹介

小学校の児童を対象とした研究では、対象者の6.3%が甘味に対し、14.3%が塩味に対し、20.9%が酸味に対し、6.0%が苦味に対しそれぞれ味覚の感受性低下が認められました。これら基本4味のうち1味でも認識できなかった者の割合は30.7%でした。

中学校の生徒を対象とした研究では、甘味を認識できない者は4.1%、塩味を認識できない者は10.8%、酸味を認識できない者は24.3%、苦味を認識できない者は4.1%、うま味を認識できない者は35.1%でした。

味覚とは、味蕾で食べ物を味わうだけでなく、食べ物の盛りつけ方や色、食器などを見て（視覚）、食べ物のかおりやにおいを嗅いで（嗅覚）、食べる時の音を聞いて（聴覚）、食べ物に触れたり噛んだりし（触覚）、など身体の内五感すべての機能を使う感覚です。このように**五感を使った味覚教育**の重要性とその効果について研究しています。



講座テーマ紹介

- 味覚のしくみ、豊かな味覚の育て方に関連した一般向けの講座
- 自分の味覚を再認識する体験学習 など

アピールポイントなど

毎年、東京都の某保健センターにおいて食育活動を行っており、小学校の児童とその保護者に対して味覚教育を行っています。

味覚教育に関する絵本である「はっきりあじがわかるかな？」(金の星社)の出版を含め、多数のメディアにて味覚教育の重要性について情報発信を行っています。



大学課程における歯科衛生士養成教育

健康開発学科 口腔保健科学専攻

吉田 隆 教授

【研究分野】 歯科医学教育、歯科衛生教育学、歯科保存学（歯内療法学）

【キーワード】 歯科医学、歯科衛生教育学

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=236yoshi>



研究概要

主として専門職養成教育の問題と課題について検討を加えています。特に医師や歯科医師とは異なり、看護師や歯科衛生士を養成する教育機関は、専修学校、短期大学、大学と様々な形態の学校があります。しかしながら現在の日本では、どのような養成学校を卒業しても国家資格としては同一であるため、資格としての違いはありません。大学課程で医療専門職を養成する意義は何なのか、について日々考えています。

研究紹介

主に歯科衛生士養成教育についての研究をしています。具体的には以下のような内容です。

1. 歯科衛生士養成教育に関する国民の意識調査
国民の皆さんが、医療職とその養成教育に対する認識について調査研究を加えています。
2. 大学課程における歯科衛生士養成教育の質保証に関する研究
専修学校と4年制大学や短期大学のカリキュラムについての比較を中心に、専門職養成教育について検討しています。

講座テーマ紹介

小学校、中学校の生徒の皆さんに対して、口腔保健に関する一般向け講座を、さらに高校生の皆さんには、歯科衛生士という職種の社会における役割や今後期待する業務などについて講座を通して説明できればと思います。

アピールポイントなど

- 以下の各種団体等に参加させていただいております。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会理事（令和元年度・2年度会長）
 - ・日本歯科医学教育学会評議員
 - ・日本歯科衛生教育学会評議員
 - ・日本歯科保存学会評議員
 - ・日本歯科保存学会保存治療専門医
 - ・日本歯科保存学会保存治療指導医



歯科衛生教育に特化したタブレット端末アプリケーション の開発と教育効果

健康開発学科 口腔保健科学専攻
新井 恵 准教授

【研究分野】 歯科衛生教育
【キーワード】 歯科衛生教育、タブレット端末、アプリケーション
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=240ara>



研 究 概 要

歯科衛生士の卒前教育にとって重要であるインスツルメント操作技術習得を効果的に行うためのiPadアプリケーションを開発し、授業やアクティブラーニングでの教育効果を学生と指導教員の双方の視点から検証して教育へ反映させています。

- ・ 歯科衛生士教育におけるオンライン授業での技術指導に関する研究
- ・ 歯科衛生士教育におけるタブレットPCアプリケーション教材開発の試み

他にも以下のテーマで研究を行っています。

- ・ 保育園における歯磨き実施状況と家庭との連携について
- ・ 保健医療福祉学を学ぶ学生の規範意識について
- ・ 保育園児の家庭での歯磨き状況と保護者の意識調査

講 座 テ ー マ 紹 介

アプリケーションを用いたインスツルメント操作技術向上の歯科衛生士卒後研修を実施することができます。

他の講座テーマ

- ・ お口からの健康づくり
- ・ 歯周病と全身の健康

アピールポイントなど

文部科学研究費基盤研究C「歯科衛生士教育におけるiPadアプリケーションの開発と教育効果に関する研究」の予算を得て、アプリケーションの内容を日々ブラッシュアップしています。

地域在住の高齢者の健康づくり

健康開発学科 口腔保健科学専攻

佐藤 玲子 准教授

【研究分野】 地域在住の高齢者を対象にした保健行動、健康づくりや口腔保健、多職種連携
 【キーワード】 地域在住高齢者、運動、休息、足のケア、口腔保健行動
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=237sato>



研究概要

健康日本21活動の提唱により、地域在住の方々、特に高齢者が健康づくり活動を行っています。

健康で過ごしたいという気持ちは皆持つものです。身体能力に見合った食事や運動をすることは「快適」「効果的」とわかっていても、しかし実際は続かなかったり、生活に取り入れることは難しいものです。高齢期であっても友人を作ったり、新たな生きがいを見出したり、セルフケアを行って、不調から回復に向かうことを研究しています。現在は、高齢者の足ケアを行い、転倒予防活動につなげようと研究をしています。

研究紹介

主に保健行動について行っています。

卒業研究ゼミナールの学生もこれらの活動に参加しています。

- ・地域在住高齢者の口腔保健（健康教室、秋）
- ・地域在住高齢者の健康づくりなど、特に、ウォーキング活動（健康日本21活動、年12回+a）

講座テーマ紹介

・地域在住高齢者のフレイル（口腔機能の低下と身体機能の関連）については、秋に半日の健康づくり講座を行っていました。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため実施していません。

・高齢者自身ができる足のケア（温める、体操）により、循環器が安定して、さらに身体のバランスが安定します。これは地域に出向いて会場を拝借して、不定期に実施していました。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため実施していませんが、令和4年には再開したいところです。

- ・大学に関連した内容では、多職種連携講座を行っています（Zoomで実施）

アピールポイントなど

健康づくりに取り組む「健康意識の高い高齢者」が増えていきます。そんな高齢者であっても、ある時期から、歩行が少なくなったり、食べこぼしが増えたり、ということが実際に起こります。健康講座にご参加いただいた地域在住高齢者の「歩行と口腔」は、実は、強く関連していたとわかりました。健康教室を行う場合は、事前に打ち合わせや調整を十分行います。



健康開発学 口腔保健科学専攻

柳澤 伸彰 准教授

【研究分野】 歯科学（口腔解剖分野）
 【キーワード】 歯硬組織形成、神経再生
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=239yana>



口腔領域における組織細胞形態解析

研究概要

口腔は咀嚼や嚥下や発音、味覚の感受など多様な働きをする組織や器官であります。全身の健康を維持するためには口腔機能の低下を生じさせないようにする必要があります。現在、再生医療研究が進んでいますが、組織細胞形態学、分子生物学的な基礎研究も重要であります。

咀嚼や嚥下に関連している口腔機能をより詳細な理解が必要であると考えていますので、口腔・頭頸部領域における末梢神経損傷後の変性と神経再生や歯の硬組織形成の分化機構について研究を行っています。

研究紹介

・末梢神経損傷後の神経再生

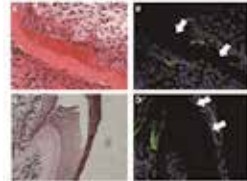
動物実験において、下唇粘膜部における神経圧迫による損傷後1週間目に神経再生が認められた。神経再生過程における感覚神経終末には大きく2種類（樹枝状終末と有被膜性小体）に分類され、樹枝状終末は有被膜性小体より回復の程度は遅い傾向であった。



PI神経損傷後7、14日目の感覚神経終末の分布図
 正中線の前側：圧迫前 正中線の前側：感覚神経
 背側：有被膜性小体 背側：樹枝状終末

・歯の硬組織形成細胞に分化機構

マウス歯胚の培養実験において無血清培養で歯硬組織形成を誘導することができたが、有血清培養よりも無血清培養で硬組織形成を得るのに長い培養期間が必要であることが分かった。また、培養実験において成熟期エナメル芽細胞の基底膜構造に違いがあることを確認し、in vivoと同様でない事が一部明らかになった。



成熟期エナメル芽細胞の基底膜構造
 A: 無血清培養 1日 B: 無血清培養 14日
 C: 有血清培養 1日 D: 有血清培養 14日

講座テーマ紹介

- ・口腔領域における末梢神経再生や歯硬組織に対する解剖学的基礎研究に関連した講座
- ・口腔・咽頭領域における解剖学加齢的变化や術後の機能変化に関連した講座
- ・摂食嚥下に関わる機能解剖やオーラルフレイルなど口腔機能低下に関連した講座 など

アピールポイントなど

一般者向けに口腔の機能解剖学的役割（摂食・嚥下）についての講座を行ったり、埼玉県摂食嚥下研究会などにも参加させていただいております。



ナノ多孔質シリカを応用した薬剤徐放

健康開発学 口腔保健科学専攻

江良 裕子 助教

【研究分野】 歯理工学、口腔保健学
 【キーワード】 ナノ多孔質シリカ、薬剤徐放、う蝕予防、歯周病予防、口臭予防
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=274era>



研究概要

市販の歯磨剤や洗口剤に含まれている抗炎症薬（ β -グリチルリチン酸：GL）や抗菌薬（塩化セチルピリジニウム）を担持したナノサイズの空孔を持つシリカ粒子を作成し、う蝕予防のためのシーラント材、歯周病に対する歯科用軟膏に応用し、口腔内に少量の薬物が長時間作用できるように研究を行っています。これらの薬剤徐放が達成されると、う蝕や歯肉炎や歯周炎を起こしやすい妊産婦や授乳婦、糖尿病患者、歯磨き・うがいなどの口腔内ケアの技能が十分ではない高齢者、障がい者の歯周病治療のための効果的なツールとなる事が期待されます。

研究紹介

1. 抗炎症薬と殺菌薬とを徐放するナノ多孔質シリカ含有新規ハイブリッド歯科用軟膏の創製

- ① NPS含有量の検討
薬剤の試料への吸着・徐放特性へのNPS含有量の効果を検討し最適化を行う。
- ② 薬剤徐放性新規歯科用軟膏基材の作成
酸化マグネシウム、ヒドロキシエチルセルロース、アミノアルキルメタクリレートコポリマーRS、トリアセチン、濃グリセリン等を基材とし、水溶液中で停滞性のある硬さとなる軟膏を作成する。
- ③ 薬剤徐放性新規歯科用軟膏の創製
粘度・稠度・表面性状・水溶液に対する停滞性などを検討
- ④ 殺菌剤徐放挙動の評価
口腔内温度を想定した37℃の水中に試験片を浸漬し、液中へのCPCの徐放量を紫外可視分光法を用いて経時的に追跡
- ⑤ 抗炎症薬徐放挙動の評価
液体クロマトグラフ-質量分析装置にて評価

2. 小児・乳幼児のう蝕予防を目指した薬剤徐放性新規歯科用シーラント材の開発

- ① 生体適合性の検証
- ② 薬剤徐放能の検討
- ③ 試作シーラント材の圧縮強度試験、操作性試験

講座テーマ紹介

● う蝕予防、歯周病予防、口臭予防に関する講座

小児から高齢者まで幅広い年齢層を対象としております。
看護師、介護士等口腔保健に関わる方々に向けた講座も可能です。

アピールポイントなど

開発途中の段階ですが、多方面での共同研究をしていただける企業様を探しております。



超高齢社会に対応する積極的な口腔保健行動啓発戦略

健康開発学科 口腔保健科学専攻

久保田 チエコ 助教

【研究分野】 高齢者歯科保健、口腔衛生保健向上・認知症オーラルケア
 【キーワード】 高齢者、口腔セルフケア・定期歯科受診、口腔体操、認知症ユニバーサルデザイン
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=279kubo>



研究概要

わが国は世界からみても超高齢社会です。高齢者は口腔内の環境が悪くなると、栄養状態が悪化、身体能力低下と悪循環に陥ります。そのため、高齢者自身が定期的に歯科受診を行う、毎日の口腔セルフケアを行うことは欠かせません。しかし、高齢化が加速するとフレイルや認知症高齢者が増加し、セルフケアができないことが課題となっています。

このような状況の中で私が手掛けている研究は、地域高齢者を対象に、定期的に歯科受診を行う高齢者の特徴を明らかにすること、定期的な歯科受診を促すシステムを開発する、フレイルや認知症でも口腔ケアができる用具の開発等の研究を行っています。

研究紹介

1. 自発的な口腔予防行動の啓発戦略
 - 1) 高齢者の定期歯科受診に関わる要因を明らかにする（研究論文発表済）。
 - 2) 1) を明らかにした上で、定期歯科受診向上戦略を企画する。
2. 地域高齢者に対する口腔セルフケアの調査
 - 1) 地域高齢者の口腔セルフケアの調査を行う（研究論文執筆中）。
 - 2) 口腔セルフケアが困難なフレイル高齢者に対する口腔ケア方法・用具の開発。
3. 認知症対応口腔清掃用具のユニバーサルデザインの開発
 - 1) 認知症高齢者が認識しやすい口腔清掃用具のデザイン開発
 - 2) 口腔ケアを拒否する認知症高齢者が、安心して口腔ケアを受け入れる方法の検討

講座テーマ紹介

・地域高齢者、フレイル高齢者、認知症高齢者に対する口腔ケア・摂食嚥下を助けるケアの方法について講座を開催します。

アピールポイントなど

・論文

① Association between chewing-stimulated salivary flow under the effects of atropine and mixing ability assessed using a color-changeable chewing gum. Journal of Prosthodontic Research 2017.

② Gender differences in the relationship between personality, cognitive function and regular dental visits in Japanese community-dwelling older adults. International Journal of dental hygiene 2021.

②の論文は、埼玉県内の地域高齢者を対象に定期歯科受診の要因を明らかにしました。

・コロナ禍以前は、地域で開催される口腔ケア講座を開催していました。また、歯科衛生士学生だけでなく看護学生、専門看護師への口腔ケアの方法や研究方法について講義・演習を実施していました。さらに多職種での研究を行い、英文で発表、今後も発展させていきます。



歯科衛生士と専門職連携実践の質に関する 新たな評価スケールの開発

健康開発学科 口腔保健科学専攻

戸田 花奈子 助教

【研究分野】 ライフサイエンス、口腔衛生学

【キーワード】 歯科衛生士、専門職連携実践、質評価、IPW、連携

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=325toda>



研究概要

2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が推進されるなか、歯科衛生士は医療・福祉分野との専門職連携実践のもと口腔健康管理を実践することが求められています。

乳幼児、2型糖尿病患者、要介護高齢者などを対象とした医科歯科連携研究の経験から、**歯科衛生士と他専門職との連携実践の「質」**に関する研究を行っています。

専門職間との連携実践の質を評価する新たなスケールを開発することにくわえ、チーム歯科医療の根幹である、歯科医師との連携については患者の満足度を調査し、臨床現場での応用を最終目標とした研究を行っています。

研究紹介

1. 口腔保健教育と口腔内状況の関連

1) 乳幼児の唾液中のう蝕原因菌量と生活環境との関連

戸田花奈子, 品田佳世子. 3歳児のう蝕罹患と口腔保健行動および生活習慣との関連 乳幼児期からの縦断調査. 口腔衛会誌 70(増刊) 107-107, 2020.

2) 2型糖尿病患者を対象とした口腔保健教育

Toda K, Mizutani K, Minami I, et al. Effects of oral health instructions on glycemic control and oral health status of periodontitis patients with type 2 diabetes mellitus: A preliminary observation. JOURNAL OF DENTAL SCIENCES 14(2) 171-177, 2019.

2. 他専門職との連携実践の実態調査

1) 歯科衛生士の職種間連携実践の現状に関する調査

戸田花奈子, 鶴田潤. 歯科衛生士のInterprofessional work実践に関する文献調査. 日歯医療管理会誌 54(1) 67-73, 2019.

2) 居宅療養管理指導を行う歯科衛生士のインタビュー調査

戸田花奈子, 小原由紀, 松原ちあき 他. 居宅療養管理指導において歯科衛生士に求められる役割に関する質的検討. 日歯衛会誌 16(1) 108.

3. 他専門職との連携実践の「質」評価スケールの開発

「歯科衛生士と専門職間連携実践の質に関する新たな評価スケールの開発」(20K18821) 2020-2024

講座テーマ紹介

- ・母子保健、生活習慣病、要介護高齢者をはじめ、様々なライフステージにおける口腔保健に関連した講座
(一般向けおよび専門職者向け)
- ・歯科衛生士の働き方に関連した講座



口腔保健教育 実践イメージ

アピールポイントなど

歯科衛生士のかかわる様々な知識を楽しく学べるよう、わかりやすい講義を心がけています。皆様のお口の健康の維持向上に役立てれば光栄です。



①がん患者へのケア ②ウィメンズヘルスケア

大学院研究科

飯岡 由紀子 教授

【研究分野】 がん患者へのケア、がん看護、ウィメンズヘルスケア
 【キーワード】 がん医療、がん看護、ウィメンズヘルスケア、更年期障害
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=2631>



研究概要

- ①がんは2人に一人が罹ることから国民病といわれ、「がんと共に生きる」ことがテーマとなっています。がんの治療は、手術、抗がん剤治療、放射線治療、免疫療法など多様に発展してきました。副作用とつき合いながら、治療を続けて、治療と生活を両立することが大切になります。がん患者や家族が、より良い生活をおくれるようサポートするケアに関する研究に取り組んでいます。
- ②一生のうちに分泌される女性ホルモンはスプーン1杯ですが、そのホルモンにより生活には様々な影響が及びます。特に、女性ホルモンが急激に減少する更年期は、人生の過渡期と言われ、その時期をうまく乗り越えるためのケアに関する研究に取り組んでいます。

研究紹介

①【ホルモン治療をうけている乳がん患者が、治療と生活との両立を支援する研究】

ホルモン治療中の副作用症状やストレス対処の状況を、簡単な入力作業だけで体調を自分で把握し、生活上の工夫のアドバイスを提供するプログラムを開発しました。プログラムに参加した患者は、症状が緩和することや不安が和らぐことが検証されました。



<https://ii-navi.jp>

②【更年期障害の女性へのカウンセリングの介入研究】

更年期障害は女性ホルモンの減少だけでなく、介護、職場の人間関係、子供の受験等のストレスにより大きな影響を受けます。治療薬だけでなく、カウンセリングを含めた心身医療が重要です。カウンセリングを行ったことで、症状や心の疲労度が緩和しました。

講座テーマ紹介

以下のようなテーマに関することで研究会や講習会の開催が可能です。

- ①
 - ・がんの啓発（がん予防、がん検診など）
 - ・がん治療と生活の両立に関して（副作用対応、メンタルサポート、家族支援など）
 - ・療養生活の支援（終末期ケア、意思決定支援、症状緩和など）
- ②
 - ・更年期女性のメンタルヘルス
 - ・更年期女性へのヘルスケア（更年期症状、骨粗鬆症、尿失禁ケアなど）
 - ・中高年女性への健康支援（食生活の改善、運動、サプリメントの活用など）

アピールポイントなど

- ①がん患者・家族だけでなく、一般市民に向けた講演を行ってきた経験があります。治療に関する講演は多く行われていますが、どのように生活するのか、どのように気持ちを保つのかなども重要です。治療だけでなく、生活の側面も含めて、共に考えていきたいと思えます。また、世間には情報があふれていますが、より確実な情報を基に、がんと共に生きることを支援したいと考えています。
- ②更年期障害の女性にむけたカウンセリングを10年以上にわたり行っています。また、メンタルヘルス、食生活や運動などに関する研究会をこれまで多く行ってきました。



大学院研究科
飯岡 由紀子 教授

【研究分野】 多職種連携を促進するプログラム、リフレクションプログラム
【キーワード】 多職種連携、調整力、コーディネータ、看護師教育、リフレクション
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=263ii>



①多職種連携を促進するコーディネータカ ②看護師のためのリフレクション

研究概要

- ①医療は急激な発展を遂げて高度化が進みました。また高齢化が進み、医療はより複雑になってきました。このような状況では、多職種による連携・協働が重要です。この連携・協働を促進するには、そのための知識とスキルを修得することが大切です。特に、専門職間をつなぐコーディネータカはその基盤を成す能力と考えています。
- ②COVID-19の感染拡大により医療現場はより多忙を極めています。そんな状況で看護師はより良い看護を提供しようと尽力されています。毎日のケアの中には、看護の発展に大切な実践的知識が含まれています。経験を振り返るというリフレクションは、その実践的知識に改めて気づき、実践の発展を目指しています。

研究紹介

- ①【多職種連携を促進するコーディネータプログラム】
医療専門職者への実態調査を基に、コミュニケーショントレーニング、カンファレンスの運営に関するファシリテーショントレーニングを含めたプログラムを開発しました。研究にて、コーディネータカが高まり、困難感が緩和することが明らかになりました。
- ②【看護師を対象としたリフレクションプログラム】
専門・認定看護師とともにEOLリフレクション研究会を創設し、リフレクションプログラム提供してきました。研究により、自分が大事にしている看護の再確認、エンパワメントなどの効果が示されている。



講座テーマ紹介

- 以下の研修やプログラム講座を提供することができます。
- ①・多職種連携を促進するコーディネータプログラム
 - ・多職種連携の要となるカンファレンスをより良くするファシリテーション
 - ・多職種連携のタイプ別コミュニケーションの取り方のコツ
 - ②・看護師のためのリフレクションプログラム
 - ・End of Lifeケアのためのリフレクション
 - ・看護師の現任教育としてのリフレクション

アピールポイントなど

- ①全国から医療専門職（医師、看護師、薬剤師、心理士、栄養士など）が参加してコーディネータプログラムを提供した経験があります。プログラムはオンラインで受講できます。プログラムの内容や時間などは臨機応変に対応します。
- ②3年目の看護師研修、師長研修など多様な方々に体験していただいています。対面での集合研修やオンライン研修のどちらでも対応できます。



大学院研究科

飯岡 由紀子

研究相談、研究支援活動

教授

【研究分野】 研究支援、研究相談

【キーワード】 看護研究、研究支援、研究推進

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=263ii>

研究概要

毎日行っているケアは本当に効果的なのか、今行っている業務をどうしたら効率化できるのかなど、日常の中では様々な疑問や考えを抱くことと思います。それらは、研究の大事な源泉です。研究という手段を用いて、疑問を明らかにしたり、考えを見える化してみませんか。研究はハードルが高いと思われやすいですが、一緒に考えることでハードルは低くなるかもしれません。

これから研究に取り組みたいと考えている、すでに調査は終わっていて学会発表の準備をしているなど、多様な状況があると思います。以下に示した活動の中で、一緒に考えてみませんか。

講座テーマ紹介

以下のような研修会や講習会の開催、もしくは研究相談が可能です。

- ・ 研究で明らかにできること、研究に取り組むこととは
- ・ 研究のステップ
- ・ 研究方法（量的研究、質的研究の概要など）
- ・ 研究計画書の書き方
- ・ 研究成果をかたちにするためには



アピールポイントなど

以下の活動を継続して行っています。詳細については、研究開発センターにお問い合わせください。

【研究支援ゼミナール】

主に研究に関する情報交換や討議をする場です。毎月1回開催しています。研究計画や成果の討議だけでなく、統計手法のミニレクチャーや文献クリティークなど行い、研究に必要なとなる知識や技術を修得できるようにしています。

【研究推進セミナー】

話題のトピックや研究にとって重要なテーマを取り上げ、講演会を開催しています。最先端でご活躍されている研究者を招待し、年間に1~2回開催しています。

【医療機関での研究指導】

研究課題の絞り込み、研究計画の立案、データの分析などに関して相談に応じています。



大学院研究科・研究開発センター

川越 雅弘 教授

【研究分野】 地域包括ケアシステム、地域づくり
 【キーワード】 地域包括ケア、地域共生社会、多主体協働、プラットフォーム
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid372.html>



多主体が集う「プラットフォーム」を活用した 地域課題の解決手法の開発

研究概要

地域課題が多様化するなか、多主体協働による地域課題の解決が現在求められています。これを実現するためには、①地域課題を知る人と解決力を有する多様な関係者が交流できる場があること、②課題の共有と対策の検討が行える場があること、③課題解決に向けた多様な関係者のコラボ（プロジェクト）が具体的に展開できることが必要となります。

我々は、昨年度から月2回の定期セミナーを開催し、多様な関係者の交流の場作り（プラットフォーム）と課題の共有を図ってきましたが、今後、多主体ネットワークの構築・機能強化と地域課題解決のためのプロジェクトを推進していく予定です。

研究紹介

1. 地域課題と支援者の活動状況を知るためのセミナーの定期開催

- 子ども・高齢者・障がい者・生活困窮者などに対し様々な支援を行っている方や関係者（NPO/社協/医療/介護職/民間企業/自治体など）を招いたセミナーを定期開催しています。なお、これまでの資料に関しては下記URLを参照下さい。

(<https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid373.html>)

2. 異なる領域・分野の支援者同士をつなぐネットワークの構築

- 上記セミナーを通じて、①子どもを支援するためには、家族を含めた包括的かつ継続的な支援体制が必要であること、②①の実現には、多様な分野・領域・レイヤーの支援者ネットワークが必要であること、③直接支援者だけでなく、寄り添い型支援を行う間接的支援者も必要であることなどがわかりました。

- 一方、NPO等の支援者の活動実態をみると、①小規模な組織が多いこと、②ヒト・モノ・カネ・場所の確保に課題を抱えている組織が多いこと、③支援方法などに対する思いやこだわりが強いために、支援者同士が一緒に活動することは少ないこと、④カバーしている範囲が限定的で(例:食支援)、それ以外の支援ニーズに対応できていないこと、⑤子ども支援を行っている他の領域の支援者とのつながりが弱いことなどがわかりました。

- こうした現状把握を通じて、子どもへの包括的・継続的支援を実現するためには、異なる領域・分野の支援者同士をつなぐ必要性が高いと考えました。そこで、子ども支援に関わる様々な支援者が一同に会したシンポジウムを企画・開催しました（右部参照）。

埼玉県立大学研究開発センター オンラインシンポジウム
「子どもの最善の利益とはなんだろう？」
 支援者がお互いの強みを知り、地域で切れ目のない支えを考えてみる集い

今年、多岐分野・学際型連携、社会的課題につなげた成果のアップデートまでを表現で活動している団体が集まり発表を行います。
 今年は、コロナ禍を経て、関係者から募り、実際に体験することを通して、しるべき課題を共有し、多様な関係者に子ども支援の強みを知ってもらう機会を設け、子ども支援の強みを知り、そのための連携強化を図ります。
 「子どもの最善の利益とはなんだろう？」そのための発表者による質疑応答のセッションや子ども支援の強みを知り、そのための連携強化を図ります。

日時 第1回 1月29日(日) 13:00～16:00
 第2回 4月30日(日) 13:00～16:00

形式 オンライン（Zoom）のみの開催（ZoomIDは別途発表）

対象 子ども・児童福祉を支援している団体、行政、市民、その関係者
 参加費 参加費は無料です（お申し込みは必要です）

内容 相互の強みを知り、連携強化を図るセッション
 子どもの最善の利益、権利侵害・対応策

主催 埼玉県立大学研究開発センター
 共催 一般社団法人ユニバシティ、NPO法人ユニバシティ
 後援 埼玉県

お申し込みはフォームからご参加者のお名前を伺います。
<https://business-form.mailer.gu/2023-4a373909>
 2023年3月24日現在 参加費無料のオンラインセミナー 開催中

1月29日(日) 13:00～16:00
 4月30日(日) 13:00～16:00

お申し込みはフォームからご参加者のお名前を伺います。
<https://business-form.mailer.gu/2023-4a373909>



多主体が集う「プラットフォーム」を活用した 地域課題の解決手法の開発

大学院研究科・研究開発センター

川越 雅弘 教授

【研究分野】 地域包括ケアシステム、地域づくり
 【キーワード】 地域包括ケア、地域共生社会、多主体協働、プラットフォーム
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid372.html>



研究紹介

3. 市町村単位でのネットワーク構築（北本市・川口市）

- 地域の様々な関係者が協働して地域課題を解決していくためには、市町村単位でのネットワークづくりが必須となります。そこで、北本市では、北本市社協と一緒に、地域資源の把握とネットワークづくりを目的とした定期的なシンポジウム「きたもとごちやまぜの会」を定期開催しています（下図参照）。
- 次年度以降は、解決すべき地域課題を設定した上で、関係者を交えて、現状把握～課題の共有～対策の検討・実行～モニタリングといったPDCAサイクルを展開していく予定です。

10月30日(土)
10時~12時
オンライン開催
参加費無料

第2回 ~地域のつながりづくりに向けて~
きたもとごちやまぜの会

目的: 地域共生に向けた取り組みを行う福祉医療関係者及びその考えに賛同する個人や団体を幅広く集めたネットワークミーティングを開催することにより、お互いの顔や名前、活動内容や課題等を把握し、今後の北本市の地域づくりのネットワークを構築することを目的とします。

内容: 定期的(年に数回)にZOOM等を活用したネットワークミーティングを開催します。

参加者: 北本市の地域づくり、街づくりに興味のある個人や団体。

アピールポイントなど

- 複数の民間企業・日本医師会のシンクタンク・厚生労働省の研究所での勤務経験を有しており、多様な主体の連携・協働を図る上では適任かと思えます。
- また、すでに、地域課題解決に向けたネットワークも構築しています。埼玉県内で、多様な主体と連携し、地域課題を解決したい人は是非ご相談下さい。



ヘルスケア分野の施策化・システム構築・質向上

大学院研究科

田上 豊 教授

【研究分野】 保健管理学、公衆衛生学、在宅ケア論
 【キーワード】 ヘルスケア政策・計画、ヘルスケアシステム構築、質向上
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=152taga>



研究概要

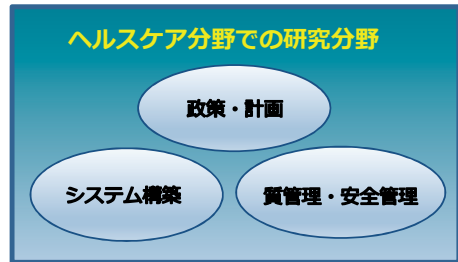
保健管理学では、人々の健康を維持・増進し、質の高い生活を送ることができるよう、政策・制度、地域でのサービス提供体制のシステム化・計画づくり、サービス提供機関の質の向上や業務改善、サービス従事者の質の向上に向けた取組等に関する研究をおこないます。

これまで、地方公共団体におけるヘルスケアシステム構築に係る調査研究、ヘルスケアに係る地域差に係る研究、近年の社会保障制度の変革に対応したヘルスサービス従事者に対する教育・研修等に関する研究等に取り組んできました。

研究紹介

最近の取組テーマは、下記のとおりです。

- ヘルスケア政策・計画に関する研究
 - 地域における看取りに関する研究
 - 保健医療福祉の計画と評価 等
- ヘルスケア質管理・安全管理の研究
 - 職員教育・研修プログラムの検討
 - プログラム評価などの評価研究 等
- ヘルスケア・システムに関する研究



講座テーマ紹介

これまでの実績を踏まえ、対象ごとにテーマ例を示しました。

- 地方公共団体職員対象
 - テーマ：保健医療福祉分野の計画と評価 等
 - 実績：国関係教育研究機関
- 医療系専門職対象
 - テーマ：患者安全、小規模事業所の経営管理 等
 - 実績：認定看護師教育、管理者研修
- 一般地域住民
 - テーマ：これからの保健医療介護の動向
 - 実績：A県B地域ネットワーク会議

アピールポイントなど

前職時代は、国（内閣府、厚生労働省）や全国職能団体組織及び地方公共団体における調査研究に関する委員に就任する他、全国組織での研修やセミナー講師を勤めました。

現職では、県レベルの組織における委員に就任しています。



変形性膝関節症者の運動解析研究

研究開発センター

久保田 圭祐 特任助教

【研究分野】 理学療法、運動器
 【キーワード】 膝OA、歩行、筋活動、バイオメカニクス、運動制御
 【U R L】 <https://researchmap.jp/kubotakeisuke>

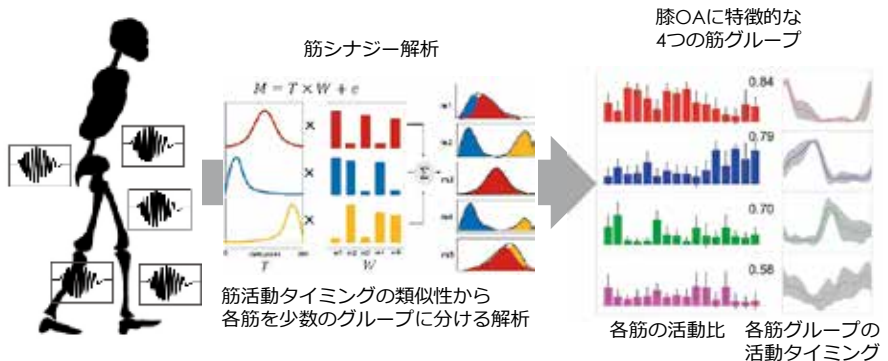


研究概要

多くの高齢者が膝に痛みを抱える変形性膝関節症(以下、膝OA)の予防・治療のためには、歩行中の特徴的な運動を正確に捉えることが重要です。動作解析装置や筋電計から得られた運動データに対して、様々なデータ解析手法を駆使して、膝OAに特徴的な歩行動作について研究を行っています。

研究紹介

■ 膝OAに特徴的な異常筋活動パターンの解明



講座テーマ紹介

変形性膝関節症者に対するセルフエクササイズの指導

アピールポイントなど

三次元動作解析装置、床反力計付きトレッドミル、筋電計など、様々な計測機器を駆使しながら研究を行っています。また、今後はウェアラブルな各種センサーを用いて、臨床現場で計測を行えるよう準備を進めています。このような基礎的な知見を臨床現場でも利用可能な情報として応用できることを目指しています。



リハビリテーション支援ロボットの開発

研究開発センター

久保田 圭祐 特任助教

【研究分野】 リハビリテーション工学
 【キーワード】 脳卒中、ロボット、リハビリテーション
 【URL】 <https://researchmap.jp/kubotakeisuke>



研究概要

高齢者や慢性期の患者者にとって、住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるように身体機能を維持・改善することは非常に重要です。

そこで、埼玉大学大学院理工学研究科の辻准教授と在宅や地域のコミュニティへの将来的な導入を目指し、自律かつ可搬型リハビリテーションロボットを開発し、その訓練効果を検証しています。

研究紹介

■ 卓上型上肢機能訓練支援ロボット

訓練者自身が手先から発揮した力をディスプレイ上にリアルタイムで表示し、その発揮力が提示した目標方向に一致した場合のみ駆動するロボットを開発しています。

脳卒中片麻痺者を対象とした効果検証実験において、臨床応用への可能性が示されました。

■ 椅子型下肢機能訓練支援ロボット

上肢のロボットと同様に、つま先をあげる力をディスプレイに表示し、目標とする赤い丸に近づくよう力を調節する訓練を行うロボットを開発しています。

地域高齢者を対象に臨床研究を行った結果、歩行の一部機能が改善する結果が示されました。

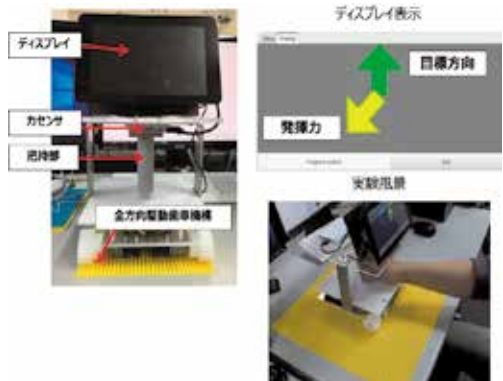
【共同研究のご提案】

将来的に臨床現場への利用を目指して、ロボットのブラッシュアップと臨床研究を進めています。

アピールポイントなど

リハビリテーションロボットは運動評価・訓練のみならず、その運動データを収集することができます。そして、これらは高齢者・患者者の貴重なデータとして様々な場面で活用され、付加価値が生まれる可能性があります。研究のみにとどまらず、社会実装に向け、少しでも地域社会へ貢献できるよう、研究を行っていきます。

<卓上型上肢機能訓練支援ロボット>



<椅子型下肢機能訓練支援ロボット>





非婚・独居高齢者に関する包括的研究

研究開発センター

南 拓磨 特任助教

【研究分野】 人口統計学、家族社会学、介護福祉統計学
 【キーワード】 ライフコース、初婚、非婚、介護福祉統計、人口
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=305mina>



研究概要

少子高齢化の進展に伴う高齢者の増加と、昨今の未婚化・晩婚化の進展を連続的に捉え、未婚化・晩婚化の帰結として増加すると想定される非婚高齢者について、その質（特性）と量に関する研究を行っています。最近では、未婚の結果として増加するであろう独居高齢者について、その要介護状態の推移や利用介護サービスの特徴等に着目した整理・分析を行っています。

研究紹介

1. 未婚化・晩婚化に関する研究
 - 婚前妊娠結婚と離婚に関する研究
 - 非婚（生涯未婚）者に関する研究
 - ライフコース上における初婚のタイミングが、その後のライフコースに与える長期的影響に関する研究
2. 独居高齢者及び介護サービス利用者に関する研究
 - 独居高齢者における認知症者の発生率及びその特性に関する研究
 - 要介護度重度化と、認定調査項目ごとの重度化の関係に関する研究
 - 在宅独居認知症高齢者のケアの場の推移に関する研究
3. 特定健診データを使用した受診勧奨・特定保健指導の効果検証に関する研究
 - 受診勧奨が健診データ各項目に与える影響に関する研究
 - 特定保健指導が健診データ各項目に与える影響に関する研究

講座テーマ紹介

- 要介護認定データ・基本チェックリスト等介護に関するデータ利用に関する講座
- 人口データ・アンケートデータ等のデータ利用に関する講座
- 基本的な統計手法の考え方に関する講座
 （新たにデータを取得することはもちろん、現時点でお手元にある既存データの活用方法等に関する提言・解説等を紹介いたします。）

アピールポイントなど

研究開発センターでの受託研究として、自治体における介護保険事業計画等の策定に際して利用できるデータ分析や資料作成等も行っております。



多職種連携（IPE/IPW）・大学間連携教育 彩の国“連携力”育成プロジェクト（SAIPE）

理学療法学科 看護学科 社会福祉子ども学科 健康開発学
田口孝行 教授、 國澤尚子 教授、 鳶末憲子 准教授、 久保田亮 准教授

【研究分野】 多職種連携における連携力育成に関する事業・研究
【キーワード】 多職種連携教育、連携力、大学間連携教育
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/ipe/tabid332.html>



研究概要

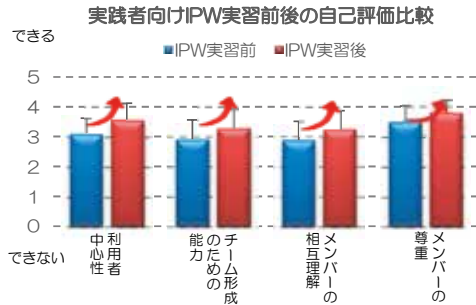
地域住民の“生活の質”、“医療・ケアの質”を高めるための「地域包括ケアシステム」、「地域共生社会」等で必須とされる**多職種連携（IPW）**。IPWでは、各専門職の“**連携力**”育成が必要です。

- 専門職養成校教育における**専門職連携教育（IPE）プログラム**の導入
- 各専門職能団体における**生涯学習**としてのIPE/IPW研修会の積極的開催
- 地域、施設間、施設内における**ケアの質向上**のための実践的IPW研修会の開催

研究紹介

● 多職種連携実践における連携力育成に関する研究

- 1) 専門職養成校における多職種連携力育成プログラムの発展・効果検証
- 2) 実践者（施設、自治体、地域等）における多職種連携研修プログラムの発展・効果検証
- 3) 連携力育成教育におけるより良いファシリテーション方法の検討 など



講座テーマ紹介

本プロジェクトでは、埼玉県立大学以外に埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学と連携して、次のような支援、研修会（講習会）開催が可能です。

- 1) 専門職養成校の“連携力”を育成する授業プログラム構築・実施支援
- 2) 専門職能団体の生涯学習としての“連携力”を育成する研修会開催
- 3) 自治体、地域、施設、各種協議会等における“連携力”を育成する研修会（講習会）開催
- 4) 連携力を育成するための専門職養成校間（大学間・専門学校間）の連携支援

アピールポイントなど

彩の国連携力育成プロジェクト（通称 SAIPE:サイピー）は、埼玉県立大学を代表校として、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学および埼玉県が協働して平成24年から5年間の「文科省の大学間連携教育事業助成」を基にして、学部教育における「**連携力育成教育プログラム（IPEプログラム）**」の開発と実践し、その後も発展を目指して継続しているプロジェクトです。また、学生教育を基にして「**実践者向けIPEプログラム**」も構築・発展させました。

是非、専門職養成校（大学、専門学校）、各専門の職能団体、自治体、地域、施設、各協議会等において、本プロジェクトを活用していただければと思います。

研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント
【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid/980.html>



研究概要

地域包括ケア関係者（市町村／地域包括支援センター／各種コーディネーターなど）には、事業／地域に対するマネジメントを適切に展開することが現在求められていますが、①現状が把握できていない、②評価の仕方がわからないなど、様々な課題が山積している状況にあります。

そこで、研究開発センターでは2020年9月に「地域包括ケアマネジメント支援部門」を立ち上げ、地域包括ケアや地域づくりに関する各種事業の展開支援、介護保険事業計画の策定支援を行っています。

研究紹介

●主な支援メニューは、①データ分析支援／②事業マネジメント支援／③地域課題解決に関わる関係者のネットワーク構築支援／④施策動向に関する情報提供の4つです。

1) データ分析支援

- 厚生労働省の既存データや市町村から提供頂いた認定・給付データなどをもとに、市町村担当者等からの要望に応じてデータ分析を行います。
- 図1は、厚生労働省の既存データをもとに算出した性別年齢階級別認定率、図2は、同じデータを用いた性別年齢階級別認定率で、5歳刻みで推移をみるることができます。
- 図3・4は、A市から提供を受けた複数年の認定データをもとに、要介護度別要介護度重度化率を算出し、性別及び認知症の有無別にみたものです。これら分析から、①認知症があると重度化しやすい、②男女とも、要支援～要介護1の重度化率が高いなどの実態がわかります。

図1.性別年齢階級別認定率

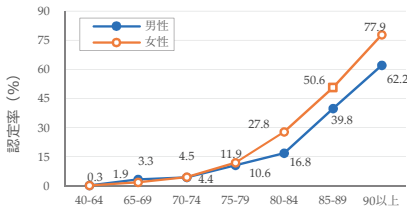


図2.性別年齢階級別認定率の推移(90歳以上)

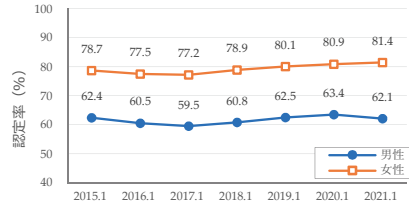


図3.性別にみた要介護度の重度化率

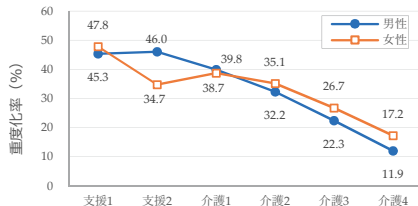
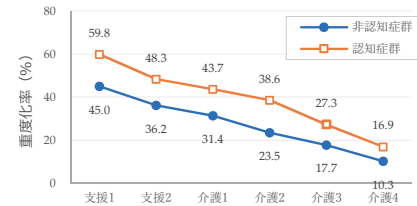


図4.認知症の有無別にみた要介護度の重度化率



研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント

【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>

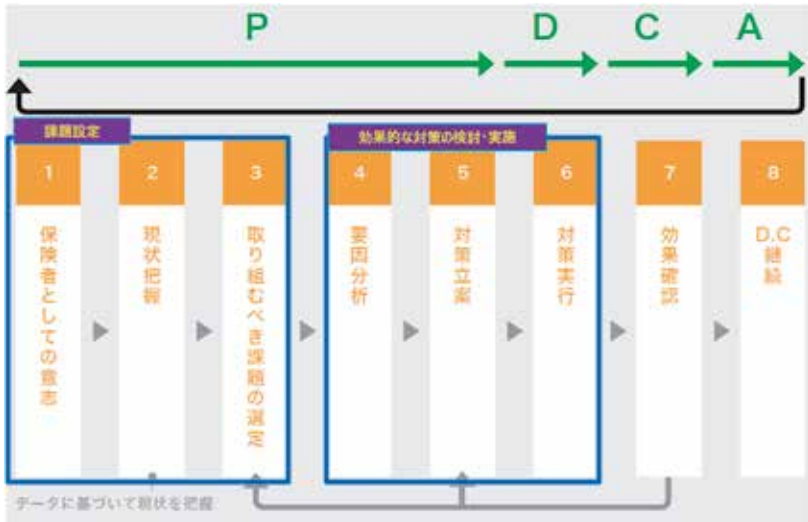


研究紹介

2) 事業マネジメント支援

- 図5は、介護保険の各種事業を展開するためのPDCAサイクルの流れ図です。8つのStepが示されていますが、Step1～3は「課題設定」部分、Step4～6は「効果的な対策の検討・実施」部分です。そしてStep7が「評価」です。
- 市町村の介護保険業計画をみると、目指す地域の姿は設定しているものの、①課題設定が抽象的（具体化されていない）、②現状を引き起こしている原因が分析されていない、③原因に対する対策が取られていない、④事業により何がどう変わると期待したかが整理されていないため、事業の評価ができていないなどの課題が見受けられます。
- 本研究では、①Zoomを使った事業展開方法に対する個別指導、②前述したデータ分析支援などを通じて、市町村ニーズに応じた支援を行っていきます。

図5.事業を展開するためのPDCAサイクルの流れ



出所) 厚生労働省老健局介護保険計画課：介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（2018/7/30）より引用

研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント

【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>



研究紹介

3) 地域課題解決に関わる関係者のネットワーク構築支援

- 地域課題を解決するためには、①地域課題を知っている人、②地域課題を解決する多様な手法を持っている人が交流するとともに、協働して課題解決を具体的に図っていく必要があります。
- 現在、北本市社協と連携し、“ごちゃまぜの会”を立上げ、地域づくりに関わる様々な関係者の活動状況の把握を行っています。今後、図6のフォーマットを使って、関係者の取組内容や支援する上で困っていることなどを整理していく予定です。
- 厚生労働省は、地域共生社会の実現に向け、重層的支援体制整備事業を推進していますが、様々な分野の相談に対応していくためには、①相談窓口の設置、②相談対応者の資質の向上に加えて、課題解決を推進してくれる地域の様々な資源とつながる必要があります。
- 本研究で整理された地域の社会資源に関する情報は、同事業の出口戦略としても活用できると考えています。

図6 地域資源整理のためのFormat案

The form is titled "NPO法人 ReMind (北北地域部)". It contains several sections for data collection:

- 活動内容:** A dropdown menu for "業種" and a text field for "活動内容".
- 活動場所:** A text field for "提供可能な場所".
- 提供可能なサービス:** A text field for "提供可能なサービス".
- 提供可能な時間:** A text field for "提供可能な時間".
- 提供可能な場所:** A text field for "提供可能な場所".
- 連絡先:** Fields for "電話番号", "メールアドレス", and "ウェブサイト".

There are also several paragraphs of explanatory text in Japanese, including a note about the form's purpose and a disclaimer.

アピールポイントなど

- 事業マネジメントに対する支援ですが、相談は無料です。ただし、**原則はオンラインでの打合せや相談、ないし、メールでの相談対応とさせていただきます。**
- 独自の市町村データの分析を希望される場合、埼玉県内の市町村であれば、エクセルでデータ提供を頂けるのであれば無料で対応します。分析結果に関しては、パワポやエクセル資料として返信します（ただし、印刷やデータ入力などの実費が発生する作業には対応できません）。
- 支援内容により、費用が発生する場合があります。
- 連絡先等に関しては、大学のHPを参照ください。
<https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>

●キーワード索引

3	3Dプリンタ	100	う	運動器	71	か	看護教育	37,52
A	AI	109		運動機能評価	86		看護技術	50
	AMR	138		運動協調性	74		看護技術(褥瘡・ストーマケア)	51
	AMR対策アクションプラン	133		運動制御	74,156		看護技術教育	37
C	COPDモデル	69		運動動作分析	74		看護研究	152
D	Deep learning	137		運動能力	83		看護支援モデル	53
	DX	110		運動麻痺	86,87		看護師教育	151
E	EFL読解	16		運動療法	101		看護実践	52
F	Family-Centered Care;FCC	44	え	英語	24		看護チーム	38
	Fascia	70		栄養	126		幹細胞	136
	F-SOAIIP	109,110		栄養と身体機能	77		感謝	33,34
H	HPLC	131		演奏	117		肝障害モデル	69
I	ICT	109,110	お	欧州	104		関節障害	88
	ICPC	18		黄色ブドウ球菌保菌調査	133		がん	101
	IOT	32		オーラルヘルスプロモーション	142		がん医療	150
M	MRSA	133		親子体操	60		がん看護	150
N	NK細胞	140		音楽鑑賞	117		がん検診	121
	NKT細胞	140		音声学	24		がん体験	112
O	One health approach	138		温熱生理(体温)	134		がん対策	121
P	PDCA	109	か	カーボン	81		がん登録	121
あ	アジール	108		介護	104	き	企業	114
	足のケア	145		介護支援	49		義手	93
	アセスメント	59		介護者	42		キネマティクス	86
	遊び	119		介護者支援	53		希望	33
	アドバンス・ケア・プランニング	41		介護福祉統計	158		キャリア開発	36
	アプリケーション	144		介護保険利用者	85		虐待防止	102
	アラメント評価	80		外国人労働者	104		虐待予防	58
	アルツハイマー病	21		外的負荷	31		休息	145
い	医学用語	16		外反母趾	80		教育	98,114
	イギリス	104		回復	57,108		教育掛図	118
	生きる力	112		解剖学	28		教育課程	124
	育児肯定感	60		外来看護	53		教員の離職予防	17
	意思決定支援	41,67,107		学習指導要領	124		競技スポーツ	31
	依存&嗜癖	19		学習者要因	16		教材	28
	衣服	99		学習成果の可視化	22		教材づくり	124
	医薬品	20		学内代替実習	64		教師行動	124
	医薬品&健康食品等	19		家族	42		共生社会教育	112
	医療	104		家族介護者	85		協働	35,103,122
	医療化	130		家族支援	58		協同学習	36
	インクルーシブケア	38		片麻痺	99		行政	104
	インクルーシブな社会	102		学校教育	22		筋活動	156
	隕石	25		活動	84		筋電位	88
	インフォグラフィック	129		家庭訪問	103	く	グループワーク	103
う	ウイメンズヘルス	79		過眠症	61	け	ケア	108
	ウイメンズヘルスケア	150		加齢	71		ケア能力	39
	ウェルビーイング	34		感覚統合療法	83		ケアの倫理	67
	う蝕予防	147		環境化学物質	26		ケアモデルの開発	65
	宇宙探査	25		看護過程	39		ケアを担う子ども	17
	運動	79,134,145		看護管理	36		継続教育	36
	運動学習	95		看護基礎教育	50		傾聴	103

●キーワード索引

け	血管	135	さ	再適応	46	し	就労支援	82
	血小板	131		最適性	74		授業	91
	研究支援	152		細胞診検査	141		手根管症候群	88
	研究推進	152		細胞表面解析	141		出産	47
	健康教育	41,43		在留外国人支援	64		趣味	117
	健康経営	128		作業療法	83,91,97		受療行動	130
	健康行動	54		サロン	106,107		巡回相談	30
	健康食品	20		産業保健	58,128		巡礼	23
	健康増進	75		産後	79		障がい	111
	健康づくり	40,72,78	し	支援機関	114		障害	105
	現象的意識	27		支援機器	77		障害学生支援	97
	減衰粘性時間	81		歯科医学	143		障害児保育	92
こ	語彙学習	16		歯科衛生教育	144		障害者	99,114
	効果検証	127		歯科衛生教育学	143		障害者権利条約	111
	口腔セルフケア	148		歯科衛生士	149		障害者雇用制度	102
	口腔体操	148		歯科保健行動	142		障害者就労支援	102
	口腔保健	19		シグナル伝達	136		上肢運動機能練習	87
	口腔保健行動	145		死後観	127		上肢切断	93
	高次脳機能（障害）	90		自己覚知	117		小児	39,66
	口臭予防	147		自己管理	59		小児看護	63
	酵素	132		歯周病予防	147		小児がんをもつ親	65
	酵素活性	132		思春期	48		小児作業療法	92
	交通事犯の撲滅	127		自助具	97,100		小児保健	63
	行動記録	78		姿勢	79		小児慢性疾患	48
	行動変容	60,78		死生観	127		情報提供	93
	更年期障害	150		姿勢調節	74		食育	126
	幸福度	22		自然免疫	140		食事調査	126
	高分子	26		自尊感情	115		初婚	158
	合理的配慮	114		自治体	110		書字	95
	高齢者	38,59,148		質向上	109,155		女性	134
	高齢者虐待	53		質評価	149		女性性	46
	高齢者福祉	113		疾病予防	140		女性と運動	55
	コーディネータ	151		実習	119		自立高齢者	122,123
	国際歯科	142		児童虐待	103		自立支援	82,100,102
	心の健康	54		死への態度	56		自立促進	99
	子育て支援	66,103		死別	127		神経基盤	89
	子育て不安	115		シミュレーション	98		神経再生	146
	骨盤	79		シミュレーション教育	60,62		神経難病	96
	言葉	119		市民主体	40		神経変性	19
	言葉かけ	124		シャイネス	115		信仰	127
	子どもの権利擁護	63		社会参加	82,90,113		人口	158
	コミュニケーション	49,94		社会資源	160		人工知能	137
	コミュニケーション支援用具	96		社会生活スキルトレーニング（SST）	94		新採用者	51
	コミュニティ	120		社会的ケア関連QOL	85		腎疾患スクリーニング	137
	雇用・就労支援	114		尺度	68		腎障害	139
	コンサルテーション	30		若年成人期	48		新生児看護	44
	コンディショニング	31		周産期	44		心臓	135
さ	座位行動	62,78		重症心身障害児	116		身体活動	122,123
	在宅ケア	42		重層的支援	110		身体活動量	101
	在宅療養	51		集団戦略型健康づくり	122,123		心肺系トレーニング	77

●キーワード索引

し	心不全モデル	69	ち	地域共生社会	110,153	に	尿蛋白	139
	心理療法	101		地域ケア会議	160		人間関係	119
す	睡眠	84,123,134		地域在住高齢者	145		妊産婦・女性の健康	62
	睡眠衛生	134		地域支援	100		妊娠	47,79
	睡眠障害	61		地域住民	89		認知科学	134
	ストレス	22		地域生活	111		認知症	21
	スピリチュアルケア	67		地域づくり	72		認知症ユニバーサルデザイン	148
せ	生活支援記録法	109,110		地域福祉	113	の	脳機能	134
	生活満足度	22		地域包括ケア	153		脳卒中	21,86,87,99,157
	性教育	47		地域包括ケアシステム	106,107		脳電位	87
	政策	104		地域保健	121		脳波	134
	成人移行支援	48		地域リハビリテーション	82		農業	26
	精神科	91		地域連携	120		ノック式胸腺刺激法	140
	成人学習者	22		中枢・末梢神経の神経可塑性	71	は	排泄動作	99
	成人学習論	36		中枢神経疾患	89		パーキンソン病	21
	精神科訪問看護	58		超音波	134		パートナーシップ	40
	精神障がい者支援	58		聴解	24		パートナーシップ・ラッセル	27
	聖地	23		聴覚伝導路	28		バイオメカニクス	156
	成年後見	107		調整力	151		博物館	118
	性別違和	45		治療効果	80		歯硬組織形成	146
	セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス	47	こ	通級による指導	92		働き方改革	128
	セクシュアル・マイノリティ	45		通所介護	82		バターナリズム	108
	世代間交流	106		ツーリズム	23		発音	24
	説明モデル	130	て	定期歯科受診	148		白血病	136
	セルフ・コンパッション	33		低強度身体活動	78		発達障がい	63
	セルフケア	59,66		定量化	31		発達障害	30,83,94,116
	セルフケア教育	43		データヘルス	128		バネ定数	81
	セルフケア能力	39		適正使用	20		はやぶさ2	25
	セルフメディケーション	20		デジタルデバイドの縮小	106		バランス	75
	セルロースアセテート膜電気泳動法	139		手指	86		ハンドマッサージ	49
	セロトニン	131		手指運動	88	ひ	ピアサポート	46
	染色法	141		てんかん	105		被害者法制	127
	専門職連携 (IPW)	38,149		電気泳動法	132		非婚	158
	専門職連携教育 (IPE)	68		電子顕微鏡	141		膝の痛み	76
そ	ソーシャルワーク	112,113		転倒予防と検知	77		美術教材史	118
	足底挿板	80,81		伝統的慣習	47		ビタミンE	131
	足部アーチ	81	と	トイレ動作の自立	35		ビッグデータ	32
	組織発生	135		統語と語彙意味の関係	29		標準化死亡比	125
た	大学間連携教育	73,159		当事者	91,105		標本画	118
	大腸がん検診	137		糖尿病	59		貧困	104
	多主体協働	153		糖尿病モデル	69	ふ	福祉機器	97
	多職種連携	64,151		動作	79		福祉相談	110
	多職種連携教育 (IPE)	68,73,159		特別支援教育・保育	116		福祉用具	100
	多職種連携実践 (IPW)	73,109		独居	59		婦人科がん	46
	立ち直り	108		トレーニング	31		負担軽減	35
	タブレット端末	144	な	内的負荷	31		不定愁訴 (MUS)	130
	多様性	113		ナノ多孔質シカ	147		不眠	134
ち	地域	90		ナルコレプシー	61		ファシアハイドロリリス	70
	地域医療	18	に	日常動作	74		ファシアモデル開発	70
	地域課題	110		入院治療	57		プライマリケア	18

●キーワード索引

ふ	プラットフォーム	153	り	臨床化学検査	132
	フレイル/サルコペニア	21		臨床判断能力育成教育	43
	フレイル予防	72,73	れ	歴史遺産	23
	文化資源	23		レジリエンス	33,34,52,65,67
	分析法	26		連携	35,92,149
	文法	24	ろ	連携力	159
へ	ペーパークラフト	28		労働生産性	128
	ヘルスケアシステム構築	155		ロコモ・フレイル	32
	ヘルスケア政策・計画	155		ロボット	98,157
	ヘルスコミュニケーション	32		ロボティクスリハビリテーション	98
	ヘルスプロモーション	55			
	変形性膝関節症（膝OA）	76,156			
ほ	保育	120			
	保育者養成	119,120			
	保育リーダーシップ	115			
	訪問看護	42			
	訪問看護師養成	51			
	保健師教育	54			
	歩行	156			
	ポジティブ感情	34			
	ボランティア	106			
ま	マインドフルネス	33			
	マネジメント	160			
	慢性疾患	66			
	慢性腎不全モデル	69			
	慢性の病い	59			
	慢性病看護	61			
み	マイクロ・メゾ・マクロ	109			
	看取り	56			
	民俗	23			
め	メタ認知の発達	115			
	メディカルイラストレーション	129			
	メンタルヘルス	19,45,89,112			
も	模擬産婦	60			
	模擬産婦を活用したシミュレーション	55			
や	薬害を含む有害事象	20			
	薬剤徐放	147			
ゆ	有害性評価	26			
よ	要介護高齢者	57			
	養護教諭養成	17			
	幼児造形教育史	118			
	腰部側弯症	80			
	予兆	53			
	予防	53,75			
ら	ライフコース	158			
り	リハビリテーション	96,100,157			
	リフレクション	36,39,151			
	リボ蛋白	131			
	リラクゼーション	49			
	臨床疫学	18			

●研究者索引

あ	會田 みゆき	看護学科	43
	秋山 美紀	看護学科	33,34
	浅井 宏美	看護学科	44
	浅川 泰宏	共通教育科	23
	朝日 雅也	社会福祉学専攻	102
	新井 恵	口腔保健科学専攻	144
	荒木 和美	共通教育科	24
	有竹 清夏	検査技術科学専攻	134
	安藤 克己	検査技術科学専攻	135
い	飯岡 由紀子	大学院研究科	150,151,152
	飯島 博之	共通教育科	16
	石岡 俊之	作業療法学科	89,90
	市村 彰英	社会福祉学専攻	103
	伊藤 知子	福祉子ども学専攻	117
	伊藤 善典	社会福祉学専攻	104
	井上 和久	理学療法学科	75
	井原 寛子	検査技術科学専攻	136
	今北 英高	理学療法学科	69,70
う	植野 正之	口腔保健科学専攻	142
	上原 栄一郎	作業療法学科	91
	上原 美子	共通教育科	17
	白倉 京子	作業療法学科	82
	内山 真理	健康行動科学専攻	126
え	江口 のぞみ	看護学科	45
	江良 裕子	口腔保健科学専攻	147
お	大木 いずみ	健康行動科学専攻	121
	大場 良子	看護学科	46
	岡田 茂治	検査技術科学専攻	137
	小栢 進也	理学療法学科	76
	小川 孔美	社会福祉学専攻	106,107
	押野 修司	作業療法学科	92
	越智 幸一	福祉子ども学専攻	115
か	金村 尚彦	理学療法学科	71
	川越 雅弘	大学院研究科	153,160
	川俣 実	作業療法学科	83
	河村 ちひろ	社会福祉学専攻	105
き	岸井 ござゑ	検査技術科学専攻	138
	北畠 義典	健康行動科学専攻	122,123
	木戸 聡史	理学療法学科	77
く	國澤 尚子	看護学科	35,159

く	久保田 章仁	理学療法学科	78
	久保田 圭祐	研究開発センター	156,157
	久保田 千工	口腔保健科学専攻	148
	久保田 富夫	作業療法学科	84
	久保田 亮	検査技術科学専攻	139,159
こ	小池 祐士	作業療法学科	98,99,100
	小泉 浩平	作業療法学科	101
	小松 睦美	共通教育科	25
	金 さやか	看護学科	61
さ	齋藤 恵子	看護学科	47
	相良 翔	社会福祉学専攻	108
	櫻井 育穂	看護学科	48
	笹尾 久美子	作業療法学科	93
	佐藤 玲子	口腔保健科学専攻	145
し	四ノ宮 美保	共通教育科	26
	柴田 貴美子	作業療法学科	94
	柴田 由里子	看護学科	62
	渋谷 えり子	看護学科	49
	嵩末 憲子	社会福祉学専攻	109,110,159
	清水 新悟	理学療法学科	80,81
	白岩 祐子	健康行動科学専攻	127
	白土 佳子	検査技術科学専攻	140
	新村 洋未	看護学科	50
す	鈴木 貴子	作業療法学科	95
	鈴木 康美	看護学科	36
	鈴木 玲子	看護学科	37
	須永 康代	理学療法学科	79
せ	善生 まり子	看護学科	38
そ	添田 啓子	看護学科	39
た	高島 恭子	社会福祉学専攻	111
	高橋 恵子	看護学科	40
	高橋 宏至	健康行動科学専攻	124
	田上 豊	大学院研究科	155
	高村 夏輝	共通教育科	27
	高柳 雅朗	共通教育科	28
	瀧田 浩平	看護学科	63
	田口 賢太郎	福祉子ども学専攻	120
	田口 孝行	理学療法学科	72,73,159
	竹島 太郎	共通教育科	18
	武田 美津代	看護学科	51

●研究者索引

た	武久 智一	共通教育科	29	や	山崎 弘嗣	理学療法学科	74
	田中 健一	共通教育科	19,20		山田 恵子	共通教育科	32
	田中 広美	看護学科	52		山田 牧子	看護学科	67
ち	千葉 真希子	看護学科	64		山本 英子	看護学科	60
つ	佃 志津子	社会福祉学専攻	112	よ	吉田 隆	口腔保健科学専攻	143
	辻 玲子	看護学科	53		吉村 基宜	看護学科	68
	辻本 健	看護学科	65				
	津野 陽子	健康行動科学専攻	128				
と	常盤 文枝	看護学科	41				
	戸田 花奈子	口腔保健科学専攻	149				
	富田 文子	社会福祉学専攻	114				
な	中村 裕美	作業療法学科	85				
	南雲 浩隆	作業療法学科	96				
	滑川 道人	共通教育科	21				
の	延原 弘章	健康行動科学専攻	125				
は	服部 真理子	看護学科	54				
	濱口 豊太	作業療法学科	86,87,88				
	林 恵津子	福祉子ども学専攻	116				
	林 裕栄	看護学科	42				
	原木 万紀子	健康行動科学専攻	129				
ひ	東原 亜希子	看護学科	55				
	平野 裕子	看護学科	56				
	廣渡 祐史	検査技術科学専攻	131				
ほ	保科 寧子	社会福祉学専攻	113				
	本間 三恵子	健康行動科学専攻	130				
ま	牧野 由理	福祉子ども学専攻	118				
	松尾 彰久	作業療法学科	97				
	松下 誠	検査技術科学専攻	132				
	丸山 優	看護学科	57				
み	南 拓磨	研究開発センター	158,160				
む	村井 美代	検査技術科学専攻	133				
も	望月 浩江	看護学科	66				
	森 正樹	共通教育科	30				
	森田 牧子	看護学科	58				
	森田 満理子	福祉子ども学専攻	119				
	森村 繁晴	共通教育科	22				
や	八十島 崇	共通教育科	31				
	柳澤 伸彰	口腔保健科学専攻	146				
	矢野 哲也	検査技術科学専攻	141				
	山岸 直子	看護学科	59				



SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

編集・発行・問合せ

埼玉県立大学
地域産学連携センター
<https://www.spu.ac.jp/>

〒343-8540
埼玉県越谷市三野宮820
Email edec@spu.ac.jp
TEL 048-973-4114
FAX 048-973-4807



東武スカイツリーライン「せんげん台駅」下車
西口よりバスの約5分または徒歩約20分